

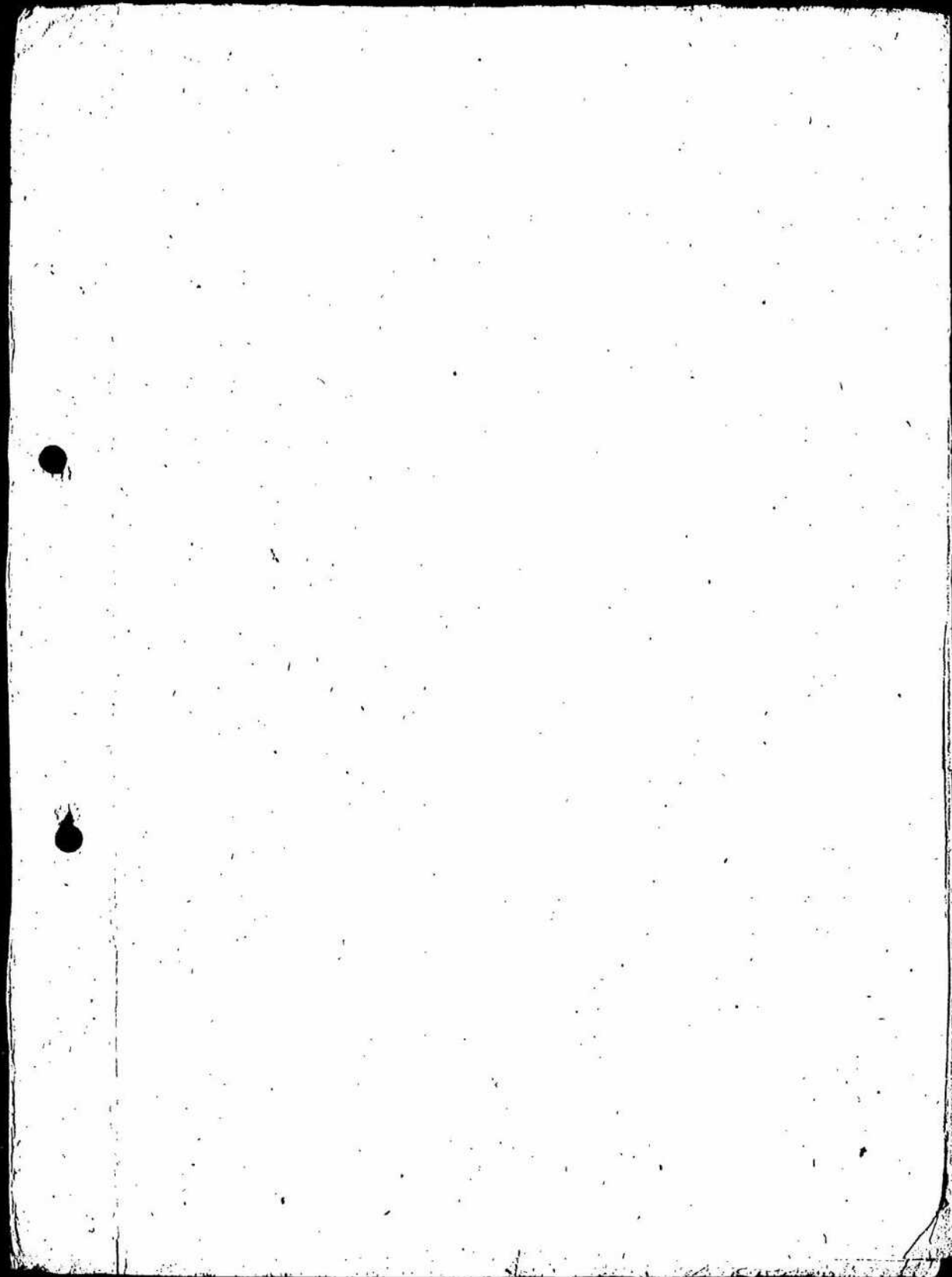


三十八の三

財閥関係者の全南見
より排除に因する件(三)

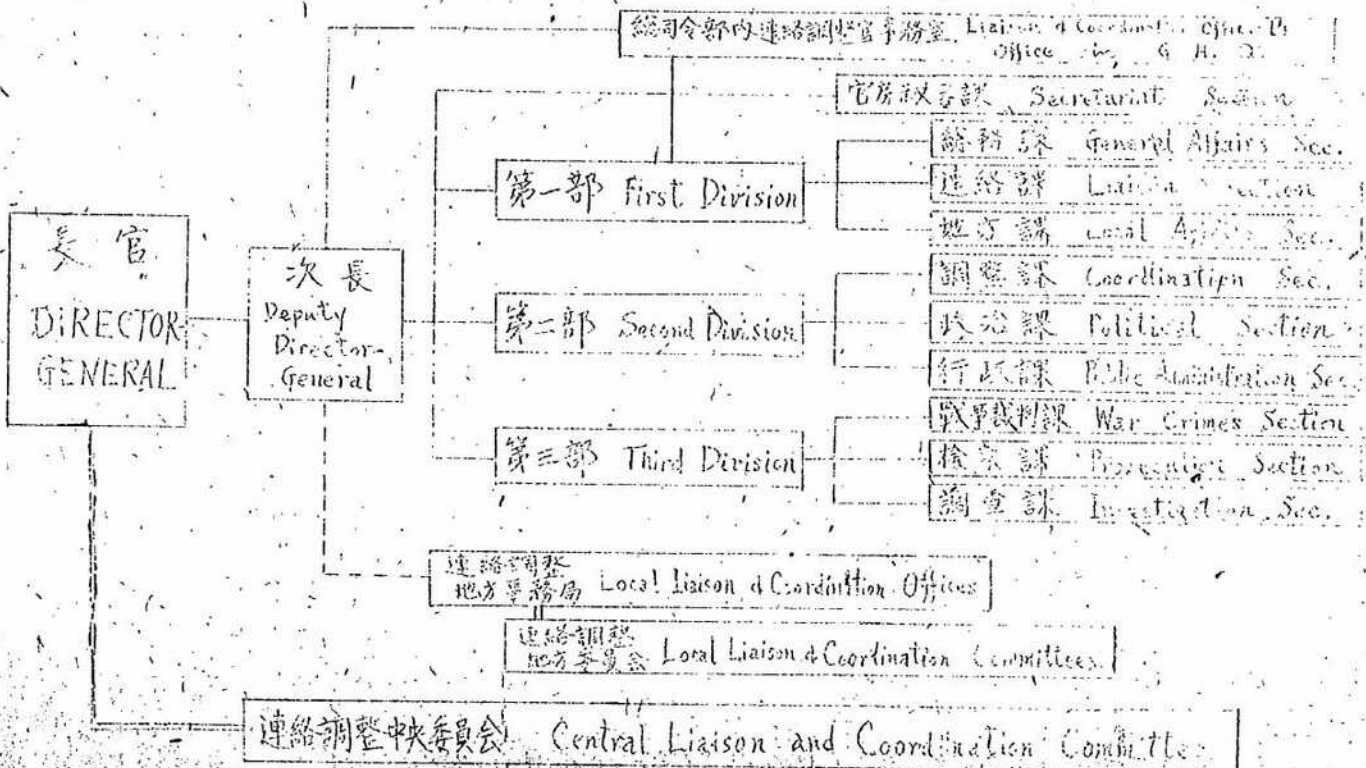
国立公文書館	
分類	持株
排架番号	3 B
	14-13
	④4959

4959



連絡調整中央事務局機構表

(昭和22年11月29日現在)



原本不明瞭

裏面白紙

財団法人の役員名簿

排除の旨を記す

一、本会が、以前より有力な関係会社として

本会が、以前より有力な関係会社として、

通じ、以前より有力な関係会社として、

持分、以前より有力な関係会社として、

(1) 以前より有力な関係会社として、

以前より有力な関係会社として、

以前より有力な関係会社として、

以前より有力な関係会社として、

野村	13 (5.5%)	129 (57.3%)	39 (17.3%)	44 (20.0%)	225
野村	1	9	0	0	10
富士	7	4	0	0	5
浅野	1	2	2	2	7
大倉	1	8	3	1	13
日産	4	6	0	1	8
豊田	1	14	7	7	32
他	1	5	2	5	13
計	1	21	7	9	36
計	1	20	7	7	35
計	1	40	7	7	60

内閣

二、公称資本を一千円以上とする有力な関係会社として、

一九四四年以前に、本会が、以前より有力な関係会社として、

一千円以上の会社は、総額を千金以内とする。これを超過するものは、

日本を以て、主たる営業を営む会社とする。これを超過するものは、

本会が、以前より有力な関係会社として、

裏面白紙

日本銀行の貸付金... 貸付金の総額... 貸付金の平均額... 貸付金の増減... 貸付金の構成... 貸付金の償還... 貸付金の回収... 貸付金のリスク... 貸付金の利益... 貸付金のコスト... 貸付金の効率... 貸付金の透明性... 貸付金の信頼性... 貸付金の安定性... 貸付金の流動性... 貸付金の柔軟性... 貸付金の適応性... 貸付金の競争力... 貸付金の持続性... 貸付金の成長性... 貸付金の革新性... 貸付金の社会性... 貸付金の環境性... 貸付金の倫理性... 貸付金の誠実性... 貸付金の責任性... 貸付金の透明性... 貸付金の信頼性... 貸付金の安定性... 貸付金の流動性... 貸付金の柔軟性... 貸付金の適応性... 貸付金の競争力... 貸付金の持続性... 貸付金の成長性... 貸付金の革新性... 貸付金の社会性... 貸付金の環境性... 貸付金の倫理性... 貸付金の誠実性... 貸付金の責任性...

貸付金の総額... 貸付金の平均額... 貸付金の増減... 貸付金の構成... 貸付金の償還... 貸付金の回収... 貸付金のリスク... 貸付金の利益... 貸付金のコスト... 貸付金の効率... 貸付金の透明性... 貸付金の信頼性... 貸付金の安定性... 貸付金の流動性... 貸付金の柔軟性... 貸付金の適応性... 貸付金の競争力... 貸付金の持続性... 貸付金の成長性... 貸付金の革新性... 貸付金の社会性... 貸付金の環境性... 貸付金の倫理性... 貸付金の誠実性... 貸付金の責任性...

貸付金の総額... 貸付金の平均額... 貸付金の増減... 貸付金の構成... 貸付金の償還... 貸付金の回収... 貸付金のリスク... 貸付金の利益... 貸付金のコスト... 貸付金の効率... 貸付金の透明性... 貸付金の信頼性... 貸付金の安定性... 貸付金の流動性... 貸付金の柔軟性... 貸付金の適応性... 貸付金の競争力... 貸付金の持続性... 貸付金の成長性... 貸付金の革新性... 貸付金の社会性... 貸付金の環境性... 貸付金の倫理性... 貸付金の誠実性... 貸付金の責任性...

貸付金の総額... 貸付金の平均額... 貸付金の増減... 貸付金の構成... 貸付金の償還... 貸付金の回収... 貸付金のリスク... 貸付金の利益... 貸付金のコスト... 貸付金の効率... 貸付金の透明性... 貸付金の信頼性... 貸付金の安定性... 貸付金の流動性... 貸付金の柔軟性... 貸付金の適応性... 貸付金の競争力... 貸付金の持続性... 貸付金の成長性... 貸付金の革新性... 貸付金の社会性... 貸付金の環境性... 貸付金の倫理性... 貸付金の誠実性... 貸付金の責任性...

Table with multiple columns containing numerical data and handwritten labels. Includes entries like '貸付金の総額' and '貸付金の平均額'.

貸付金の総額... 貸付金の平均額... 貸付金の増減... 貸付金の構成... 貸付金の償還... 貸付金の回収... 貸付金のリスク... 貸付金の利益... 貸付金のコスト... 貸付金の効率... 貸付金の透明性... 貸付金の信頼性... 貸付金の安定性... 貸付金の流動性... 貸付金の柔軟性... 貸付金の適応性... 貸付金の競争力... 貸付金の持続性... 貸付金の成長性... 貸付金の革新性... 貸付金の社会性... 貸付金の環境性... 貸付金の倫理性... 貸付金の誠実性... 貸付金の責任性...

裏面白紙

Additional Explanations concerning
Exclusion of Persons affiliated
with Zaibatsu from Officership of
Certain Companies.

1947 (2/18)
→ Comm. History

13 September 1947

1. ^{Selected} Criteria for the classification of prominent companies closely connected with Zaibatsu-affiliates.

Although the standard of classification is set forth in the explanatory note attached to the Japanese Government's plan, the following table indicates that how many companies fall under the four categories in accordance with which the companies listed in the Appendices II and III have been selected; i. e. (1) Zaibatsu's Central Company (Honsha), (2) company with a nominal capitalization 10,000,000 yen ^{or} and over and 50% or more of its stock is held by Zaibatsu of the same lineage, (3) company whose nominal capitalization is shared by the Zaibatsu, in face value, exceeding ¥ 10,000,000, (4) other companies corresponding to the above. Companies of the category (4) above have been selected according to their actual importance of enterprise, although they do not fall under fixed criteria as stated in the preceding three categories. The table shows that 20% of companies have been selected under flexible criteria including financial institutions or companies who have conspicuously affiliated with the Zaibatsu.

裏
面
白
紙

Zaibatsu	Classification				Total
	(1)	(2)	(3)	(4)	
Mitsui	1	40	7	12	60
Mitsubishi	1	20	11	7	39
Sumitomo	1	21	7	9	38
Yasuda	1	5	2	5	13
Hissan	4	14	7	7	32
Okura	1	6	0	1	8
Furukawa	1	9	3	1	13
Asano	1	2	2	2	7
Fuji	1	4	0	0	5
Hosura	1	2	0	0	10
Total	13 (5.8%)	122 (57.3%)	39 (17.3%)	44 (20.0%)	225

2. Reasons taking capitalization of 10,000,000 yen as the criteria to decide prominent companies.

According to the investigation in 1941 and 1942, (which the latest one available now) the total amount of capitalization of companies of 10,000,000 yen or more, exceeds 60% of the gross total of capitals of all companies in Japan, thus covering the most important part of the actual activities of the Japanese economy.

If companies capitalizing 5,000,000 yen or more are to be added to the above table, almost the same number of companies will be newly listed up while the total amount of capital of such companies will cover only 6.5% of gross total in Japan.

Judging from the standpoint of Japan's economy as a whole, the inclusion of these small companies may result, in effect, in catching too small fishes in the Japanese economic society.

裏面白紙

	Total in Japan Over ¥10,000,000		From ¥5,000,000 To ¥10,000,000
1941			
Number of Companies	90,773	645 (0.7%)	442 (0.5%)
Amount of Capital	¥39,349 Million	¥23,780 Million (60.4%)	¥2,705 Million (6.6%)
1942			
Number of Companies	92,951	630 (0.7%)	457 (0.5%)
Amount of Capital	¥42,301 Million	¥26,525 Million (62.1%)	¥2,754 Million (6.4%)

3. How does the Japanese Government plan affect the present officers of companies, if the plan has been put into force?

It is almost impossible to obtain a result of complete investigation on this matter for the following two reasons:

- (1) The restriction of appointment provided for in the Japanese Government plan is applicable to all restricted, subordinate and affiliated companies, and
- (2) thorough going investigations have to be made on the persons concerned, whether they have ever occupied any of the officership companies as listed in the Appendices II and III. Meanwhile, the result of investigation conducted with certain leading companies is as follows:

Zaibatsu	Present Number of Officers	Number of Officers (A) Prior to 2 Sept 1945	Officers between 2 Sept 1945 and the transfer of voting right to (B) H. C. L. C.	Subsequent to transfer of voting power to HCLC (C)
Mitsui (55 Companies)	392	143	99	150

裏面白紙

Mitsubishi (17 Companies)	171	31	36	104
Sumitomo (35 ")	267	123	64	30
Yasuda (11 ")	94	43	16	35
Okura (4 ")	34	12	10	12
Asano (7 ")	62	29	16	17
Fuji (4 ")	17	5	7	5
Meiwa (10 ")	63	30	27	11
Total	1,105	416(37.6%)	275(24.8%)	414(37.4%)

The above table shows the followings:

- (1) Among those officers who have occupied in the position before the end of the war, more than 60% have retired therefrom and especially almost all of principal officers in have been replaced.
- (2) Should all officers of A, and B be retired from their posts, more than 60% of the present officers of important companies in Japan would have been removed. It may be pointed out here that this will bring about remarkable effects detrimental to the imminent necessity of the Japanese economy to bring about swift stabilization and recovery.

裏
面
白
紙

檢
察

財閥関係者の若干の會社おりの廃除に関する件

日時 昭和二十五年九月十六日

場所 G.S

出席者 ハッシー中佐

山田部長、脇村部長、
須之部事務長

本日午後三時 ハッシー中佐を經訪、八月一日附にて

提出した日本政府案に關し先方の意向を確かめた

ところハッシー中佐は、正直なところいまだ不勉強で

外務省

裏面白紙

はあるかと前置きして左の諸点を述べた。當方より
それに対する回答又は説明を加へた。

一、先づ財閥家族員に關しては日本系にてはA財
閥家族員はB財閥の役員になり得ることとなつて
ゐるが、これは財閥家族員が財閥機構なる好まし
からざるやり方をその儘Bでも ^{踏襲} 兼併せんとする決心
があり殊に財閥家族員間には現存固な家族的

外務省

裏面白紙

な結合がある為めに結局新勢力の抬頭にチャンス
 を與へて旧勢力を *Perpetuate* させる結果となる
 恐れがある。これに對し當方より日本財閥の根本原
 則は封建制と自由競争との二原則である而して
 A財閥家族員が財閥に移つた場合は家族的
 背景がない為めに封建制の原則は行はず自
 由競争の原則のみが行はれることとなり又その

外 務 省

裏面白紙

小次郎の経歴

財閥間の争いの歴史を思ふときはAからBの

家族員の移動は強人ど困難であると言(たが)

志本氏は更に検討を加(るべき)は言(て)置(いた)。

二、次にハッシー氏は各財閥の会社選定に當り公

称資本金一千万円、持株率50%の基準は弱

いがるものと例(は)十五%乃至20%にても可

なる(し)と述(べ)た。

外務省

裏面白紙

二小に對し各同方としては五〇%以下にても會社に對す
 る支配權を行使出来るのは事實ではあるかかかる
 均株率か
 為總
 顯著な財閥の配下にある會社は會社選定の基
 準の(6)又は(7)換言すれば當該會社の株保有
 總額(二小字)千萬元を認めるか又は併社に準ずるもの
 と云ふ基準を以ておはむ收廣く嚴定さ小てゐるとい説
 明した。二小に對しハツと一氏は然らば千萬元以

外務省

裏面白紙

上の財閥會社の教員及財閥の役員總額千
 萬円以上の會社の教員のリストを作りその中何%が
 附表中に擧げられてゐるかの説明資料を提
 出させたいと建^ん入^り申^す方ではこれを準備することと
 した。

三、次にハッシー氏は財閥會社の役員たまりし者に
 對する原則的除外例に關し、財閥が執力を

外務省

裏面白紙

及ぼす以前に於ける役員について同人が財閥が
 支配を及ぼすようになった後まで引続き役員と
 して勤務して居た場合は排除せらるる旨述べた
 此れは昔の方も同意見なる旨答へた又財閥の利
 益代表者に非ざるは日の及議の提出は一定の期
 限あり
 間を維て本人に據る責任を負はしめる旨
 ハッシー氏より意見があつたので昔の方も此れは同

外務省

裏面白紙

意見なる旨述べた

又ハッシーは

四、B 複會社ヲ普通役員ノ及證中兼任は四會

社以下となつてゐるがこれはもつと減少し會社で

も本人が有力なる場合には排除すべき旨述べ

た。これに對しる方にては猶ほ禁止法にては四社

までの猶ほは許され居り殊に監査役は總

數の會社につき兼任する事柄が相違あり説明

外務省

裏面白紙

し若し四社以下は本人が特に有力であつたと
認めらるる場合には及^つて^ハ四社に依り^ハ除外^スる^{コト}とした
きと日答^た。

五、留任許可中企業再建整備計画立案者の留
任を原則として認めらるる日本企業につきハツクはこ
れは原則論ではなくつて除外例の一例とすれ
ば然るべきと述べて、これは貴方も同意見なること

外務省

裏面白紙

答 大又中蔵人 ^{（まのり）} 仁つりとも同様とす（き日先方でも
 の清蔵人）
 成ったので、水も同意した。

大、以上を要するにハッセルは未だ日本政府案の
 内容を熟知し居らず、リゾーサ佐より提出したと思

はれるメモを頼りに日本政府案のコメントを如 ^{（にがし）} てる

だが、財関の範囲を ^{（子）} 財関に限ること ^{（あい）} 後員たりし

時期は日本政府案の通りになることについては概

外務省

裏面白紙

外務省

裏面白紙

收回意するもの如く思はれた
ヒ、高年捕送を法律によるか、政令によるか、閣下は
如何しとせば、如何なるより、おぼえ、おぼえ、おぼえ、



財閥関係者の財閥関係会社

役員たる地味より排斥は固く計
一、本措置は財閥排斥の第一は則して同族財閥の
形を維持し有力に排斥するに在りて是れ其の要諦也

排斥し、同族財閥の排斥は固く計
財閥排斥の第一は則して同族財閥の
形を維持し有力に排斥するに在りて是れ其の要諦也

二、同族財閥の同族排斥の第一は則して同族財閥の

排斥は固く計
財閥排斥の第一は則して同族財閥の
形を維持し有力に排斥するに在りて是れ其の要諦也

一、財閥排斥の第一は則して同族財閥の
排斥は固く計
財閥排斥の第一は則して同族財閥の
形を維持し有力に排斥するに在りて是れ其の要諦也

内閣

裏面白紙

有勝

註ニ本報レヨリ知職制限ハ本報レモ之リテ合社ノ事業
再建整備法ル言ハ才合社、全前効力業中排除法ニ

（保新）

ナリ改組セシ合社ノ集ルニ適用ナリ

（永也）

茲ニ本報置施行後、加振ナリ物合社ニ至リハナリ新ナリ

ヨリ不勝
モウカヤ

財別

財別者、指シテハ本報レヨリ同令才ナリ合社ニ至リハナリ新ナリ

（保新）

加振ナリ物合社ニ至リハナリ新ナリ

前記中（四）ニ於テ知職制限ノ適用ハ、細則大法ニ於テ特ニ概因

限ニ至リ、こゝトモ合社ノ才合社、オモス

白
黒

H. P. 111. 112. 113. 114.

裏面白紙

同族別院に属し、持株会社及び小の立場に同連せ、
会社に役員に付する指當

昭和十年九月二日以前に創設せられたる場が、会社の役員に
たる地位を占めたる者又は同明細別表に於ける場が、会社の

会長、副会長、社長、副社長、専務若しくは常務取締役
又は非常取締役たる地位を占めたる者

一、古澤豊幸氏より日正十一年間、昭和三年勅令第五七号
に規定する指當会社役員会社及び関係会社として目録に

対別系統に属するも、役員に於ける地位に就くことか、本末を以、
同族に有る場が、地位に在る者、恩職たるものは在らざらん

裏面白紙

但し、此の著者談合社が財閥に支配され、その間に明向に於ては、
 彼等よりなりしあり。
此の著者は、
 財閥の勢力を、
 明向に於ては、
 彼等よりなりしあり。
 又、
 財閥の勢力を、
 明向に於ては、
 彼等よりなりしあり。

利益、其の著者、
 財閥の勢力を、
 明向に於ては、
 彼等よりなりしあり。

註：前記の財閥に、
 財閥の勢力を、
 明向に於ては、
 彼等よりなりしあり。

以上、
 財閥の勢力を、
 明向に於ては、
 彼等よりなりしあり。

註：別巻中に、
 財閥の勢力を、
 明向に於ては、
 彼等よりなりしあり。

裏面白紙

此の時、小規模のものも除いた。

(1) 同族別荘の支配下に在る持株会社

(2) 三井、三菱、東洋、三井物産等は、各別別荘に合併して

たて直系人は、直系会社

(3) 世々の別荘は、大々直権且、強力を支配下にせし

るべし

この邊を基準に

法三 別荘中ニは、揚子江、今社に、たゞ、諸君もウケ中、かり

の別荘は、オーストラリア、及び、回、明ら、の別荘、同、係、

同、係、の、オーストラリア、を、除、つ、た、し、う、が、ら、う。

(4) 公、係、の、オーストラリア、を、同、係、統、合、社、の、持、株、会、社、に、

五、の、も、を、お、し、も、つ、

此、公、係、の、オーストラリア、同、係、統、合、社、の、保、有、株、式、を、受、取、

加、一、千、万、円、を、起、金、と、す、

裏面白紙

の若他、予の意、財、成、形、成、ハ、有、カ、ル、事、ヲ、以、テ、シ、テ、予、ノ、意、中、
ニ、於、テ、右、ノ、諸、事、ヲ、重、要、ト、シ、テ、自、身、ノ、認、め、り、可、キ、事、ト、シ、テ、

(三) 昭和十一年九月二日以前に別長中野に提出したる
於て、前記三つのうち、(一)は、提出の役、(二)は、提出の役、(三)は、提出の役、
を、前記三つのうち、(一)は、提出の役、(二)は、提出の役、(三)は、提出の役、

占め、(一)は、提出の役、(二)は、提出の役、(三)は、提出の役、
(一) 提出の役、(二) 提出の役、(三) 提出の役、
提出の役、提出の役、提出の役、

提出の役、提出の役、提出の役、
提出の役、提出の役、提出の役、
提出の役、提出の役、提出の役、

提出の役、提出の役、提出の役、
提出の役、提出の役、提出の役、
提出の役、提出の役、提出の役、

7

裏面白紙

四 芳野にりしに、松林と櫻生し厚きうじ、無す水が、もろ在れども、

就任は許可せらるるなり。

(1) 豊前津本殿をす、青と、血縁婚姻又は養子縁組による

前記(一)の(2)の(1) 内閣事務局長に、

家族の縁故、内閣事務局長に、

(2) 別府市中二丁目、松林に於て、授けられたる時、附が、前記(一)

三年十月、ト、

（注）

(3) 同前記(一)の(2)の(1)の(1)に、授けられたる時、附が、前記(一)

三年十月、ト、

(4) 豊前津本殿をす、青と、血縁婚姻又は養子縁組による

(5) 昭和十年九月三日、以て、松林に於て、授けられたる時、附が、前記(一)

持株会社、持株会社、松林に於て、授けられたる時、附が、前記(一)

（注）

（注）

裏面白紙

✓
是は
一
二

と名を以て別名に有るは、
別名中、又ハ申上ル
別名、今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、

今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、

今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、
別名、今註り、後、又ハ、

裏面白紙

九月五日
手紙をうけしこと
をいひまへ
係りしことあり

(4) 別記の通りつくりのことに従ひて、
但し、
...

(5) 同社が承継り持株会社又は
...

(6) 本人の...
...

...

...

裏面白紙

並、河津を以て人々の口々に在りて伊豆浦に於て中津浦
遊覧するに及ぶ、是れ其の由り也。

27 四、本邦運河の建設は、長年を要するに及ぶ、其の
際、先づ、河津の港を改良し、其の水深を増し、其の
岸を固め、其の防波堤を築き、其の汽船の碇泊を
容易にし、其の貨物の積卸を便利にし、其の汽船の
往來を頻りにせしめ、其の河津の港を、本邦の
主要な港と爲すべし。

五、河津の港を改良するに、先づ、河津の港の
水深を増し、其の岸を固め、其の防波堤を築き、
其の汽船の碇泊を容易にし、其の貨物の積卸を
便利にし、其の汽船の往來を頻りにせしめ、其の
河津の港を、本邦の主要な港と爲すべし。

六、河津の港を改良するに、先づ、河津の港の
水深を増し、其の岸を固め、其の防波堤を築き、
其の汽船の碇泊を容易にし、其の貨物の積卸を
便利にし、其の汽船の往來を頻りにせしめ、其の
河津の港を、本邦の主要な港と爲すべし。

七、河津の港を改良するに、先づ、河津の港の
水深を増し、其の岸を固め、其の防波堤を築き、
其の汽船の碇泊を容易にし、其の貨物の積卸を
便利にし、其の汽船の往來を頻りにせしめ、其の
河津の港を、本邦の主要な港と爲すべし。

裏面白紙

別表 其

一、三井系

- 三井本社 (三井倉庫、三井物産、三井造船、三井物産) 北海道炭、鐵汽船、三井倉庫 (東神倉庫)
- 三井生命保險、三井信託、三井物産
- 三井不動産、大正海上火災保險、三井精機工業
- 三井木材工業、三井造船、三機工業
- 三井木船建造、三井鉦山、三井輕金屬
- 三井化學工業、三井油脂化學工業、日本製粉
- 東洋高圧工業、三井農林、熱帯産業
- 東洋レーヨン、東洋柳花、三井船舶

二四社

二、三菱系

- 三菱本社 (三菱倉庫及株式會社、三菱物産) 三菱鉦業、三菱石油
- 三菱化成工業、三菱信託、三菱電機
- 三菱商事、三菱製鋼、三菱重工業

三菱銀行

- 三菱倉庫、三菱地所

日本光學工業、日本アール、三井化學機

日本建設工業、三菱汽船

東京海上火災 (三井海上火災)

小計

一廿社

三、住友系

- K、K、住友本社 (住友會社) 朝鮮住友輕金屬、扶桑金屬工業
- 日新化學工業 (住友會社) 日新電氣、住友電氣工業 (K、K)
- 大阪住友海上火災保險、井華鉦業、安東輕金屬
- 住友銀行、四國機械工業、住友生命保險
- 住友アール、住友製鋼、住友信託、住友倉庫
- 日本建設産業、日本化工材工業、住友共同電力

小計

一八社

四、安田系

- 安田保善社、安田興業、安田銀行
- 安田信託、安田生命、安田火災海上保險

裏面白紙

野村織線

小計

五廿社

五、日産系(野村織線)

水、日産(野村織線)、滿洲投資証券(野村織線)、日本鉦業、

日産製煉所、日産化學工業、日産重工業、

日産火災海上保險、日本水産、日本造船、

日産農林工業、日産造船

小計

廿五社

六、大倉系

大倉鉦業(大倉組)、内外通商、大成建設、

大倉事業

小計

四社

七、古河系

古河鉦業、古河電氣工業

小計

二社

八、浅野系

浅野本社、浅野物産、日本セメント

小計

三社

九、富士系

富士産業、瑞穂産業

小計

二社

一〇、野村系

野村冷名、野村銀行、野村地券

小計

三社

十一、昭和電工系

荻狭興業、昭和電工

小計

二社

十二、木建系

木建産業

小計

一社

裏面白紙

丁 下 小 下 系
 小 下 株 式 会 社
 小 下 汽 船
 小 計
 丁 中 倉 敷 系
 木 原 倉 敷
 倉 敷 紡 績
 小 計
 丁 五 州 西 系
 オ シ
 丁 末 松 下 系
 林 下 電 器
 小 計
 丁 片 倉 系
 片 倉 合 名
 小 計
 丁 倉 系
 倉 系
 丁 合 系
 合 系

八 北 十
 三 社 社 社
 十 社
 十 社
 十 社

裏面白紙

別表第 二

一 三井系

三井銀行

昭和製作所

中興炭鉱

永礼化学

東北電業株式

龍見

東北製糖

佛田製糖

東棉紡織

北海道石炭荷役

場浜炭田電池

小野田セメント

満洲合成燃料

東洋産産工業

朝鮮レーヨン

三洋油脂

中井製糖

東洋海運

三井造船

山門炭鉱

基隆炭鉱

周枝子水銀

日本製鋼所

釜石鉱山

電気化学工業

東亜合成化工

三興製粉

中井製糖

東洋製糸紡織

上海紡織

大洋興工業

西海汽船

三成鉱業

東洋ゴム化工

大井製糖

大東紡織

小計

二 三菱系

日本アルミニウム工業

三菱製紙

東洋海上火災

大波口炭鉱

大日本製糖工業

三菱マカシウム

江戸川工業所

釧路埠頭倉庫

朝鮮魚煙炭

東山農事

満洲三菱製糖

雄別炭鉱鐵道

日新火災海上

上場三菱倉庫

満洲大豆化学工業

三菱南東州マカシウム

明治生命保険

東山産業

南滿洲製糖

日本穀産

南樟太炭鉱

満洲製糖

三 住友系

住友ホルネ才産産

満洲住友金属工業

別府化学工業

安立電気

日本カーバイド工業

満洲軽合金工業

見本電気精器
東北金属工業
日本板硝子
满洲通信機
日本通信工業
小計
二社

日本ハイブ製造
七堂特殊製鋼
東洋窒素工業
東洋通信機
大隈化学海上火災
大阪金属工業
筑此系工業
朝日金属
理研金属

四、安田系
満口亜麻紡織
安田倉庫
帝織航空機工業
小計
八社

安田製糸
日本紡織
帝日織機
東京運物
康徳不動産

五、日之屋系
台湾化学工業
日本炭鉱
日産炭礦燃料
理春炭鉱
本溪湖特殊鋼
西字炭鉱
札幌炭鉱
日産生命
大陸化学工業
南滿化学工業
小計
三社

山陰工業
南方日本鉄業
日南鉄業
日産電子工業
日産造船
日産食料工業
日産汽船
満洲特殊製鋼
鶴岡炭鉱
満洲自動車
日産農林工業
日産火災海上

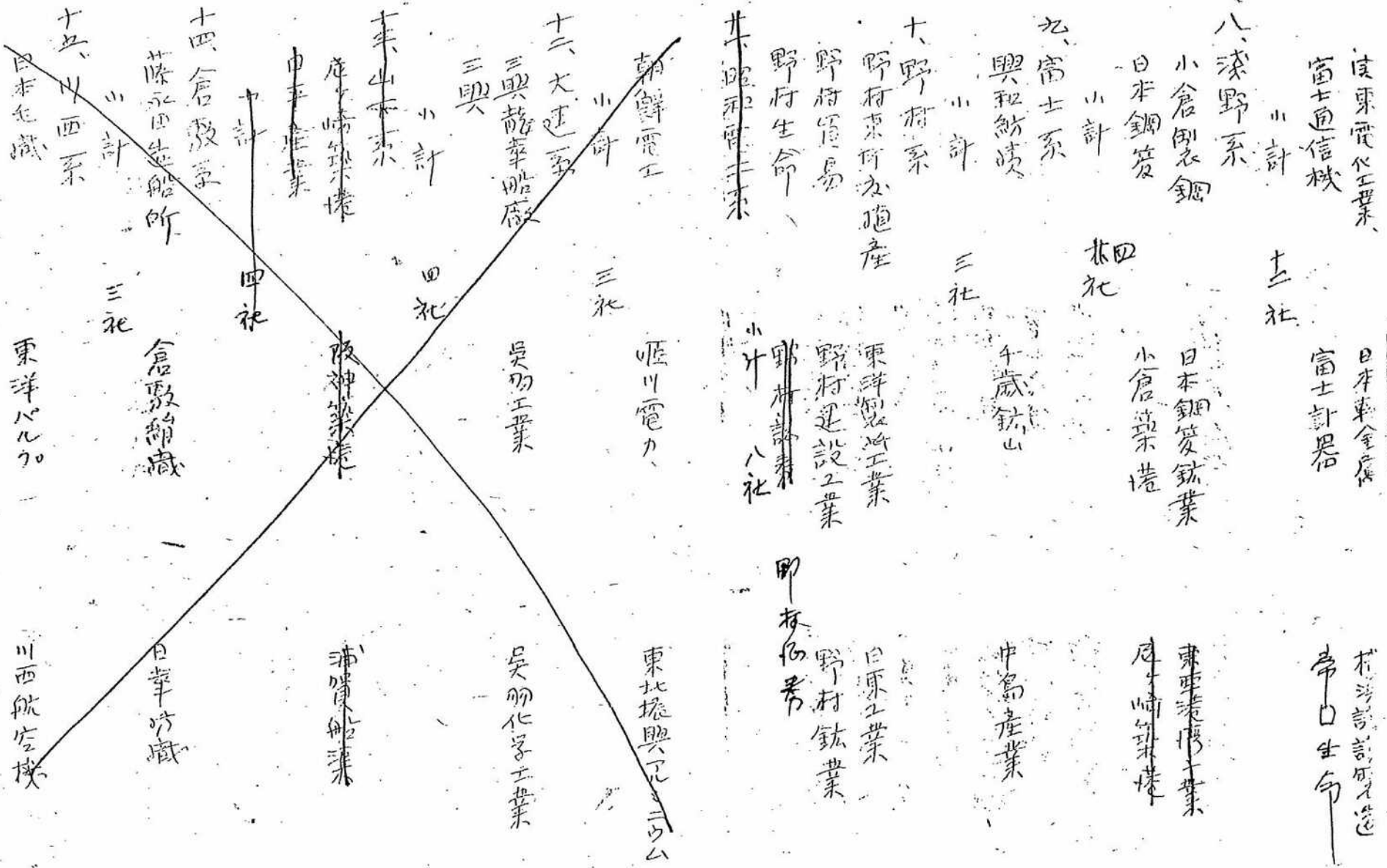
六、大倉系
中央工業
本溪湖煤鉄
小計
四社

満洲大倉産業
大倉火災海上保険

七、古河系
大正鉄業
大日電線
小計
四社

旭電化工業
富士電機製造
朝日軽金属
古河鋳造

裏面白紙



裏面白紙

裏面白紙

外務省

合計	野村系	富士系	浅野系	古河系	大倉系	日産系	安田系	住友系	三菱系	三井系	別表第一
83	2	2	3	2	4	5	5	18	18	24	
155	8	3	4	12	4	44	8	20	19	33	別表第二
238	10	5	7	14	8	49	13	38	37	57	計

28/9(2)
-7 Common Agency

Plan regarding removal of persons
representing the Zaibatsu interests
from positions of officials in
companies affiliated with the Zaibatsu

24 September 1947

1. The present plan, in accordance with the policy of the
Zaibatsu dissolution, aims at the democratization of the Japanese
economy and the emergence of new business persons of competence
and ability by eliminating the reactionary personnel tie which
has served powerfully for the formation and maintenance of the
family Zaibatsu.

2. Measures to be applicable to the constituent members of
the Zaibatsu family.

(1) Fifty-six persons who have been designated by the
Cabinet Notification No.16 dated on 3 March 1947.

--- They will be removed and excluded from the positions
of officials in accordance with the provisions of
Articles 17-3 and 19-4 of the Imperial Ordinance
No.233 of 1946.

(2) Family members belonging to the same family register
with the fifty-six persons mentioned above.

a. They will be excluded, for ten years from the
date of the enforcement of this plan, from the
positions of officials in any or designated,
subsidiary or affiliated companies, as defined

裏
面
白
紙

In the event of the death of any officer belonging to any of the said categories listed in the Appendices of this plan, the same shall, as the date of the expiration of this plan, such positions will be immediately re-filled.

Note 1: ←

Note 2: In addition to the provisions mentioned in this plan, the same shall also be applicable to the said companies as defined in the "Law for the reconstruction and re-organization law" and to the companies to be newly established in connection with the "elimination of concentration of economic power."

Note 3: All references to persons may be designated under the provisions of Article 14, 23, of 1945 after the date of the enforcement of this plan, the provisions of Articles 129, 131, 132 of the said business law will be applied. Application of the provisions of the said paragraph (1) above to their family members may be entirely or wholly exempted by the Prime Minister in accordance with the decision of the competent governmental authorities.

3. In addition to the application of the provisions of holding companies, holding companies, "family zaibatsu" and of companies already existing in the said...

Note 1: The officers as referred in the present measure shall be taken to mean Chairman (Kaicho), Vice-Chairman (Fuku-Kaicho), President (Shacho), Vice-President (Fuku-Shacho), Managing or Standing Director (Seisan or Jyomu Torisaiji), Director (Torisaiji), Standing Auditor (Joshi Kansayaku), Auditor (Kansayaku), Adviser (Koshu) and Councillor (Sodanyaku) or any other official, regardless of his title, who exercises the authority corresponding to that of any of the positions listed above.

裏面白紙

(1) Persons (A) who resided, prior to 2 September 1945, positions of officials in companies listed in the Appendix I; and,

(B) who assumed, prior to 2 September 1945, the positions of Chairman (Iachō), Vice-chairman (Fuku Kaicho), President (Sancho), Vice-president (Funa Shacho), Manager or Standing Director (Senan or Joan torishimariyaku) or Standing auditor (Joan Kansayaku) in companies listed specifically in the Appendix II.

However (1) those who held the above positions of officials only during the period while such companies have not yet become subject to the control of the family Zaibatsu; and,

(ii) those who can establish evidently that they have not represented or are not representing the interest of the family Zaibatsu;

may file, in case they hold positions from where they will be removed, within one month from the date of enforcement of this plan, and, in case they are to assume positions hereafter from where they are excluded, prior to their appointment, applications for exemption of the present measure, attached with relevant evidences, with the competent governmental authorities.

-- a. They will be excluded, for ten years from the date of the enforcement of this plan, from the positions of officials in any designated, subsidiary or affiliated companies which belong to the

SECRET

裏
面
白
紙

same combine.

ii. Those who hold such positions on the date of the commencement of this plan will be relieved therefrom.

Note 1: With respect to (1) mentioned above, the constituent Governmental authorities will handle cases by case whether or not the company in question was subject to the control of the family Zaibatsu by examining, among other matters, the following points:

- a. percentage of stock-holding by; and,
- b. number, position or authorities of officials dispatched by; and,
- c. general situations of actual control of the management of the subject company by; the family Zaibatsu and companies belonging to the same combine.

Note 2: General standards of selection of companies listed in the appendix 1 are as follows, with the exception of those of remarkably small scale.

- i) holding companies belonging to respective family Zaibatsu.
- ii) Companies decided as direct or quasi-direct affiliate companies with the family Zaibatus of Mitsui, Fuyo Bank and Daiwa Bank.
- iii) With respect to other family Zaibatus, companies which are subject to direct and strong control of respective family Zaibatsu.

note 3:

裏
面
白
紙

Para 3: General standards of selection of companies listed in the appendix II are as follows, with the exception of those listed in the Appendix I and of those whose connection with the Family System is not obviously close.

- i) Companies whose authorized capitalization exceeds ¥10,000,000 and the majority of which stocks is owned by any of the Zaibatsu Family or companies belonging to the same combine.
- ii) Companies out of those (authorized capitalization stocks (in face value) exceeding ¥10,000,000 are owned by the Zaibatsu Family or companies belonging to the same combine.
- iii) Other companies which have contributed for the formation and maintenance of the respective Family Zaibatsu ^{or} to the degree commensurate with the companies mentioned in i) and ii) above.

(2) Persons who assumed, prior to 2 September 1941, the position of officials other than those principal officials mentioned in para. 3, (1), (3) above in companies listed specifically in the Appendix II.

-- In case they hold, at the date of the enforcement of this plan, the positions of officials in companies as prescribed in para. 3, (1), a, or in case they are, for ten years from the date of the enforcement of this plan, to assume such positions hereafter, they will file

application

裏
面
白
紙

qualification for nomination for presenting or being appointed to such positions with the constituent governmental authorities.

In the above cases, the Government will not be permitted, without the permission of those who can establish themselves as such under (1) or (2) mentioned in the points of para. 3, (1), unless they can satisfy the following conditions concerning the following four points.

- i) that they have no direct family relations by blood, marriage or adoption with the constituent leaders of the subjects to all, to whom control the companies in which they served as officials are subject; and,
- ii) that the period, in total, of their having been officials in companies listed in the Appendix A did not exceed three years; and,
- iii) that they have never held concurrently the positions of officials in two or more companies belonging to the same combine; and,
- iv) that there are no other facts with which they may be considered unfavorable viewed from the purport of this plan.

(3) Persons who assumed the positions of officials in companies listed in the Appendixes 1 and 2 during the period between 3 September 1945 and the date when the Holding Company Liquidation Commission has got authorized, through the transfer of stocks or of their voting power, to exercise its control over personnel administration of the holding

CONFIDENTIAL

裏面白紙

company to which the respective company is subject.
 In case they act, at the date of the enforcement
 of this plan, the position of officials is considered
 as preserved in para. 2, (i), or in case they are,
 for any period from the date of the enforcement of this
 plan, so held in such positions hereafter, they will file
 application for authorization for resignation or being
 appointed to such positions with the competent government
 official authorities.

In the above case, the authorization will not be
 granted, when the respective of those who can establish
 the criteria as equal under (ii) mentioned in the proviso
 of para. 3, (i), to those who fall under the following
 four points.

However persons who hold any position of ordinary
 officials in the manner listed in the appendix of this plan
 under (ii) and (iii) below may be granted authorization.
 In case they do not fall under (iii) mentioned in para. 3,
 (i).

- i) that they have direct family relations by blood, marriage
 or adoption with the constituent members of the Zaibatsu
 family to whom control the companies in which they serve
 as officials are subject; and,
- ii) that they have been transferred from the positions
 of officials in holding company or in parent company
 of company where they serve now to the present positions

裏面白紙

of officials; and,

iii) that the personnel controlling power of the Family
Zaibatsu to which the company where they serve now
belong, has been exercised at the time of their appoint-
ment such as having obtained previous authorization of
the Family Zaibatsu; and,

iv) that there are facts with them as may be considered
as undesirable viewed from the purport of this plan.

Noted Person, who have filed applications for the retention of
their positions and held their positions pending the
final decision of the application.

4. In case all the principal officials of the companies be
replaced by the enforcement of this plan, such companies may
apply to the competent governmental authorities for temporary
retention of officials who are indispensable for management of
the company or the condition that one company may, in principle
apply for one person within the period not exceeding six months.

However, upon the basis of particular necessity, applications
may be submitted for two or more persons and exceeding six months.

Incidentally, applications for retention involving liquidators
of judicial persons under liquidation and persons necessary
for drawing up the "Enterprise Reconstruction and Reorganization
plan" will be given favorable considerations.

5. "The competent governmental authorities" as referred in
para. 3, (1), (2) and (3) and para. 4 will be "Zaibatsu Personnel

Elimination

Elimination Committee".

The constitution of this Committee will be provided by another Cabinet Order.

6. Violations of the provisions of paras. 2 and 3 will be liable to the penal servitude of not exceeding three years or the fine of not exceeding fifteen thousands yen.

7. In case persons to be affected by the present plan possess stocks of companies from positions of officials of which they be removed or excluded, the exercise of the voting power will be transferred to the Holding Liquidation Committee.

裏
面
白
紙

Toyo Koatsu Kogyo	/	(Oriental High Pressure Ind.)
Toyo Menka	/	(Toyo Cotton)
Toyo Rayon	/	(Toyo Rayon)
Total		12

2. Mitsubishi Combine

Mitsubishi Denki	/	(Mitsubishi Electric Machine)
Mitsubishi Ginko	/	(Mitsubishi Bank)
Mitsubishi Honsha (including Mitsubishi Goshi and K.K. Mitsubishi Sha)	/	
Mitsubishi Jukogyo	/	(Mitsubishi Heavy Ind.)
Mitsubishi Jisho	/	(Mitsubishi Land)
Mitsubishi Kasei Kogyo	/	(Mitsubishi Chemical Ind.)
Mitsubishi Kakoki	2	(Mitsubishi Chemical and Industrial Machine)
Mitsubishi Kisen	/	(Mitsubishi Shipping)
Mitsubishi Kogyo	/	(Mitsubishi Mining)
Mitsubishi Seiko	/	(Mitsubishi Steel Mfg.)
Mitsubishi Sekiyu	/	(Mitsubishi Petroleum)
Mitsubishi Shintaku	/	(Mitsubishi Trust)
Mitsubishi Shoji	/	(Mitsubishi Trading)
Mitsubishi Soko	/	(Mitsubishi Warehouse)
Nippon Aluminium	/	
Nippon Kentetsu Kyogyo	/	(Nippon Iron Construction Ind.)
Nippon Kogaku Kogyo	2	(Nippon Optical Ind.)
Tokyo Kaijo Kasai Hoken (including Mitsubishi Kaijo-Kasai)	2	(Tokyo Marine and Fire Insurance (including Mitsubishi Kaijo-Kasai))

Total

15

3. Sumitomo Combine~~Antung Keikinzoku~~ 2 (~~Antung Light Metal~~)~~Chosen-Sumitomo Keikinzoku~~ 2 (~~Korean-Sumitomo Light Metal~~)

Fuso Kinzoku Kogyo / (Fuso Metal Ind.)

Nippon Denki / (Nippon Electricity)

~~Nippon-Kakozai-Kogyo~~ 2 (~~Nippon Chemical and Industrial
Materials Mfg.~~)

Nippon Kensetsu Sangyo / (Nippon Construction Ind.)

Nisshin Kagaku Kogyo / (Nisshin Chemical Ind.)

Seika Kogyo / (Seika Mining)

Shikoku Kikai Kogyo / (Shikoku Machinery Ind.)

Sumitomo Aluminium Seiren / (Sumitomo Aluminium Refinery)

Sumitomo Denki Kogyo / (Sumitomo Electric Ind.)

Sumitomo Ginko / (Sumitomo Bank)

K.K. Sumitomo Honsha / (including Sumitomo Family
(including Sumitomo Dozoku- Association
Kai)Sumitomo Kyodo Denryoku 2 (Sumitomo Cooperative Electric
Power)Sumitomo Kaijo Kasai Hoken / (Sumitomo Marine and Fire
(including Fuso Kaijo Kasai) Insurance including Fuso Kaijo
Kasai)

Sumitomo Seimei Hoken / (Sumitomo Life Insurance)

Sumitomo Shintaku / (Sumitomo Trust)

Sumitomo Soko / (Sumitomo Warehouse)

Total

14

4. Yasuda Combine

Yasuda Ginko / (Yasuda Bank)

Yasuda Hozensha /

Yasuda Kasai Kaijo Hoken	/	(Yasuda Fire and Marine Insurance)
Yasuda Bantaku	/	(Yasuda Trust)
Yasuda Seimei	/	(Yasuda Life-Insurance)
Total		5

5. Nissan Combine

Manshu Toshi Shoken (including Nippon Sangyo and Manshu Jukogyo)	/	(Manchurian Securities Investment; including Nippon Sangyo (Nippon Industry) and Manshu Jukogyo (Manchurian Heavy Industry))
Nippon Kogyo	/	(Nippon Mining)
K.K. Nissan	/	(including Ikusei Kai Foundation and Gisei Kai)
Nissan Jukogyo	/	(Nissan Heavy Ind.)
Nissan Kagaku Kogyo	/	(Nissan Chemical Ind.)
Total		5

6. Okura Combine

Naigai Tsusho	/	(Naigai Trade)
Okura Jigyō	/	(Okura Ind.)
Okura Kogyo (including Gomei K. Okura- Gumi)	/	(Okura Mining; contained Okura Gumi Partnership)
Taisei Kensetsu	/	(Taisei Construction)
Total		4 /

7. Furukawa Combine

Furukawa Denki Kogyo	/	(Furukawa Electric Ind.)
Furukawa Kogyo	/	(Furukawa Mining)
Total		2 /

8. Asano Combine

Asano Bussan	/	(Asano Trade)
-------------------------	--------------	--------------------------

裏面白紙

Esano Honga	/	(Esano Central Co.)
Esano Honga	0	(Esano Central Co.)
Esano Honga	0	(Esano Central Co.)
Total		8 /

9. Full Combine

Fuji Bank	/	(Fuji Ind.)
Fuji Bank	2	(Fuji Ind.)
Total		2 /

10. Honma Combine

Honma Bank	2	(Honma Bank)
Honma Bank	/	(Honma Partnership)
Total		2 /

~~Grand Total~~

裏面白紙

2 - Appendix III

3 - Appendix IV

(to continue from p. 2)

~~Appendix~~

6
2
1
7

1. Japan

- 1. Onoda Cement 2 (Koromo Cement)
- 2. Fuyo Bank 3 (Fuyo Bank (Main))
- 3. Daiichi Kaisha 3 (Daiichi Kaisha)
- 4. Daiichi Kaisha 2 (Daiichi Kaisha Chemical Ind.)
- 5. Daiichi Kaisha 3 (Daiichi Kaisha)
- 6. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 7. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 8. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 9. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 10. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 11. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 12. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 13. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 14. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 15. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 16. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 17. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 18. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 19. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 20. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 21. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 22. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 23. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 24. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 25. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 26. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 27. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 28. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 29. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 30. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 31. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 32. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 33. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 34. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 35. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 36. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 37. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 38. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 39. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 40. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 41. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 42. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 43. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 44. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 45. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 46. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 47. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 48. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 49. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)
- 50. Tokai Kaisha 2 (Tokai Kaisha)

2. Nippon Sangyo
(Tropical Product)

- 1. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 2. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 3. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 4. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 5. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 6. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 7. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 8. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 9. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 10. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 11. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 12. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 13. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 14. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 15. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 16. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 17. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 18. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 19. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 20. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 21. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 22. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 23. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 24. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 25. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 26. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 27. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 28. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 29. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 30. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 31. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 32. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 33. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 34. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 35. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 36. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 37. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 38. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 39. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 40. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 41. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 42. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 43. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 44. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 45. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 46. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 47. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 48. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 49. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)
- 50. Nippon Sangyo 2 (Nippon Sangyo)

裏面白紙

Taiyo Kogyo	2 (Taiyo Ind.)
Taikoku Ginko	2 (Taikoku Bank)
Ten Gosei Kasei	2 (Ten Synthetic Chemical Ind.)
Tosen Bosshoku	2 (Tosen Spinning)
Toyo Gosei Kasei	3 (Toyo Gosei Chemical Ind.)
Tosen Kai Kogyo	3 (Tosen Fibre Ind.)
Toyo Kaisha	2 (Toyo Shipping)
Toyo Seisaku Kogyo	2 (Toyo Plastics and Spinning)
Toyo Soda Kogyo	2 (Toyo Soda Ind.)
Yamato Tanko	3 (Yamato Coal Mining)
Yama Chikudonchi	2 (Yama Coal and Tubery)

Total ----- 2 - 25
 3 - 12

2. Mitsubishi Combine

Chosen Yusen Kaisha	3 (Korea Shipping)
Dainippon Tanko	3 (Dainippon Coal Mining)
Dainippon Kikai Kogyo	(Dainippon Machine Ind.)
Edogawa Kogyosha	3 (Edogawa Ind. Works)
Kushiro Pute Kasei	3 (Kushiro Paper Refining)
Manchu Seisan Kasei Kogyo	3 (Manchurian Soy-Bean Chemical Ind.)
Manchu Nitro Seisaku Kikai	(Manchurian Nitrochemical Machinery)
Meiji Fire Insurance	3 (Meiji Fire Insurance)
Minami Marufuto Banko	3 (South Sea Island Coal Mining)
Mitsubishi Kaisha	2 (Mitsubishi Chemical and Industry Co.)
Mitsubishi Zwentung Kogyosha	2
Mitsubishi Banko	3

裏面白紙

mito no koma, bokuran, 3 (mito no koma bokuran)
 Samitani Kyodo, Doko, 2 (Samitani Kyodo)
 Toboku Jintoku, Tokyo, 2 (Toboku Jintoku)

Dojo Shikano, Tokyo, 3 (Dojo Shikano Ind.)
 Dojo Shimbun, 2 (Dojo Shimbun Ind.)
 Dainido Chushin, Tokyo, 2 (Dainido Chushin Ind.)
 Daiichi Dojo, 2 (Daiichi Dojo Ind.)

~~Total~~ 2-12
 3-12

4. Yamanashi

Toboku, Yamanashi, 3 (Toboku Ind.)
 Dainido, Yamanashi, 2 (Dainido Ind.)
 Dojo, Yamanashi, 3 (Dojo Ind.)
 Daiichi, Yamanashi, 2 (Daiichi Ind.)
 Dainido, Yamanashi, 2 (Dainido Ind.)
 Dojo, Yamanashi, 2 (Dojo Ind.)
 Dainido, Yamanashi, 2 (Dainido Ind.)
 Dojo, Yamanashi, 2 (Dojo Ind.)
 Dainido, Yamanashi, 2 (Dainido Ind.)
 Dojo, Yamanashi, 2 (Dojo Ind.)
 Dainido, Yamanashi, 2 (Dainido Ind.)

~~Total~~ 2-5
 3-4

5. Yamanashi

Chonan, Yamanashi, 2 (Chonan Ind.)
 Fushin, Yamanashi, 2 (Fushin Ind.)
 Konkeiko, Yamanashi, 3 (Konkeiko Ind.)
 Dojo, Yamanashi, 3 (Dojo Ind.)
 Daiichi, Yamanashi, 3 (Daiichi Ind.)
 Dainido, Yamanashi, 3 (Dainido Ind.)
 Dojo, Yamanashi, 3 (Dojo Ind.)
 Dainido, Yamanashi, 2 (Dainido Ind.)

- Manshu Jidosha 2 (Manchurian Motor Bldg.)
- Manshu Kuki 2 (Manchurian Paper Machine)
- Manshu Kikinsaku Kogyo 3 (Manchurian Light Metal Ind.)
- Manshu Keikuzoku Kaisha 2 (Manchurian Light Metal Ind.)
- Manshu Kosaku Kaisha 3 (Manchurian Tool Machine)
- Manshu Kosen 2 (Manchurian Mining)
- K.K. Manshu Kasei 3 (Manchurian Cement)
- Manshu Kenosha 3 (Manchurian Paper Ind.)
- Manshu Senko Denki 3 (Manchurian Lamp Electricity)
- Manshu Seitetsu 2 (Manchurian Steel Works)
- Manshu Seitetsu Kogyo 3 (Manchurian Coal Ind.)
- Manshu Tanko 2 (Manchurian Coal Mining)
- ~~Manshu Tokai Kaisha~~ 2 (Manchurian Special Steel Works)
- Filangon Tanko 2 (Manchurian Coal Mining)
- Lanshi Senso Kogyo 3 (South Manchurian Chemical Ind.)
- Kanpo Nippon Kogyo 2 (Kanpo Nippon Mining)
- Kanryo Tanko 3 (Kanryo Cord Mining)
- Nichinichi Tanko 3 (Nichinichi Iron Mining)
- Nippon Densetsu Kogyo 3 (Nippon Electric Ind.)
- Nippon Fushi Kaisha 3 (Nippon Investment Securities)
- Nippon Gensha 2 (Nippon Electric Products)
- Nippon Tanko 2 (Nippon Coal Mining)
- Nippon Zosen 2 (Nippon Ship Building)
- Nissan Doboku 3 (Nissan Engineering Works)

裏面白紙

Komura Kōsetsu Kōgyō	3	(Komura Construction Co., Ltd.)
Komura Kōgyō	3	(Komura Mining)
Komura Seimei	3	(Komura Life Insurance)
Komura Shōten	2	(Komura Securities)
Komura Seisaku Shoten	2	(Komura Real Estate Products)
Toyo Teishi Kōgyō	3	(Toyo Paper Co., Ltd.)

~~Total~~ 2-3
 3-6

~~Grand Total~~ 153

裏
面
白
紙

3. Sumitomo Group	
Antung Kaitōsokai	(Antung Light Co., Ltd.)
Chosen Sumitomo Kaisha Ltd.	(Chosen Sumitomo Kaisha Ltd.)
Fuso Kinzoku Kaisha	(Fuso Metal Ind.)
Nippon Denki	(Nippon Electricity)
Nippon Kasei Kaisha	(Nippon Chemical and Industrial Materials Inc.)
Nippon Kensetsu Kaisha	(Nippon Construction Ind.)
Fussa Kagaku Kaisha	(Fussa Chemical Ind.)
Soika Kaisha	(Soika Mining)
Shikoku Kikai Kaisha	(Shikoku Machinery Ind.)
Sumitomo Aluminium Refining	(Sumitomo Aluminium Refining)
Sumitomo Denki Kaisha	(Sumitomo Electric Ind.)
Sumitomo Ginko	(Sumitomo Bank)
Sumitomo Kaisha	(Including Sumitomo Kaisha Ltd.)
Sumitomo Kyōri Kaisha	(Sumitomo Cooperative Electric Power)
Sumitomo Kaifu Kanai Noken (including Fuso Kaifu Kanai)	(Sumitomo Marine and Fire In- surance including Fuso Kaifu Kanai)
Sumitomo Soda Kaisha	(Sumitomo Soda Manufacturing)
Sumitomo Tensetsu	(Sumitomo Tensetsu)
Sumitomo Tokai	(Sumitomo Tokai)
Total	18
4. Yasuda Group	
Yasuda Ginko	(Yasuda Bank)
Yasuda Honsha	

裏
面
白
紙

Yasuda Kasei Indyo Kaisha	(Yasuda Kasei Indyo Kaisha)
Yasuda Shintaku	(Yasuda Shintaku)
Yasuda Seisaku	(Yasuda Seisaku)
Total	1
5. Nissan Combine	
Nanshu Toshi Shokai (including Nippon Kaisha Co. Ltd. Nanshu Jukogyo)	(Nanshu Toshi Shokai, including Nippon Kaisha Co. Ltd. and Nanshu Jukogyo)
Nippon Kogyo	(Nippon Kogyo)
N.I. Nissan	(Nissan Kaisha, Ltd. and Nissan Kaisha)
Nissan Jukogyo	(Nissan Heavy Ind.)
Nissan Kaisha Kogyo	(Nissan Kaisha Kogyo)
Total	5
6. Obara Combine	
Obara Teicho	(Obara Teicho)
Obara Kogyo	(Obara Ind.)
Obara Kogyo (including Obari Kaisha Gumi)	(Obara Mining; certain Obara and Obari Kaisha)
Obara Kasei Kaisha	(Obara Construction)
Total	4
7. Furukawa Combine	
Furukawa Denki Kaisha	(Furukawa Electric Ind.)
Furukawa Kogyo	(Furukawa Mining)
Total	2
8. Asano Combine	
Asano Busan	(Asano Trading)

裏
面
白
紙

Asano Honsha Kyodo Kogyo Kippon Gensai	(Asano Honsha Co., Ltd.) (Cooperative Industrial Enterprise)
Total	14
9. <u>Fuji Combine</u>	
Fuji Sangyo	(Fuji Ind.)
Manho Sangyo	(Manho Ind.)
Total	2
10. <u>Tomura Combine</u>	
Tomura Ginko	(Tomura Bank)
Tomura Gensai	(Tomura Partnership)
Tomura Gensai	(Tomura Partnership)
Total	12
<u>Grand Total</u>	<u>84</u>

(No. 11)	
11. <u>Nawa Denko Combine</u>	
Nawa Denko	(Nawa Electric Ind.)
Total	1
12. <u>Daiken Combine</u>	
Daiken Sangyo	(Daiken Ind.)
Total	1
13. <u>Kawanishi Combine</u>	
None	
14. <u>Katakura Combine</u>	

Kotakura Gensai

Total

Grand Total

(A. W. ...)

1

87

裏面白紙

Appendix II

1. Mikami Genshiro

Ghose : 1970

Ghose : 1970

(Mikami Genshiro)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

Daiichi Kasei

(Daiichi Kasei)

裏面白紙

トヨコ	トヨコ	(Toyoko)
トイヨ	トイヨ	(Toiyo Ind.)
トイコ	トイコ	(Toioko Bank)
トイ	トイ	(Toi Synthetic Chemical Ind.)
トイ	トイ	(Toi)
トイ	トイ	(Toi Spinning)
トイ	トイ	(Toi Fibre Ind.)
トイ	トイ	(Toi Chemical Ind.)
トイ	トイ	(Toi Shipping)
トイ	トイ	(Toi Filature and Spinning)
トイ	トイ	(Toi Ind.)
トイ	トイ	(Toi Storage Ind.)
Total	33

2. Mitsubishi Combine

Chosen	Mientan	(Chosen Mercantile)
Daimonko	Tanko	(Daimonko Coal Mining)
Dainippon	Kikai Kogyo	(Dainippon Machine Ind.)
Eto	Kogyosha	(Eto Ind. Works)
Kushiro	Waza Boko	(Kushiro Waza Warehouse)
Manshu	Daiichi Kogyo	(Manchurian Day-Bean Chemical Ind.)
Manshu	Mitsubishi Kiki	(Manchurian Mitsubishi Machinery)
Manshu
Meiji	Seimei Hoken	(Meiji Life Insurance)
Minami	Karafuto Tanko	(South Saghalien Coal Mining)
Mitsubishi	Kwantung Magnesia	
Mitsubishi	Magnesia	

裏面白紙

Sumitomo Torpedo Works Ltd. (Sumitomo Torpedo Plantation)
 Tokoku Kinzoku Kogyo (Tokoku Metal Ind.)
 Toyo Chisso Kogyo (Toyo Nitrogen Ind.)
 Toyo Tsusaijiki (Toyo Communication Machine)
 Tsujido Tokusai Seiko (Tsujido Special Steel Mfg.)
 Tsukushi Kogyo (Tsukushi Ind.)
 Total 28

4. Yasuda Company

Kotoku Tadosan (Kotoku Seal - Glass)
 Mannichi Ima Dosoku (Mannichi Film Spinning)
 Nippon Chieyo (Nippon Paper Ind.)

5. Teisen Kokuki Kogyo

Rokyo Entomono (Tokyo House Building)
 Toyo Kisen (Toyo Shipping)
 Yasuda Kogyo (Yasuda Industrial Enterprise)
 Yasuda Soko (Yasuda Warehouse)

Total 89

5. NISSAN COMPANY

Chosen Nissen Kaisha (Korean Nissen Chemicals)
 Fushin Kanko (Fushin Coal Mining)
 Honboku Tokushuho (Honboku Special Steel)
 Kanto Kogyo (Kanto Ind.)
 Keifu Tanko (Keifu Coal Mining)
 Manshu Jidosha (Manchurian Automobile)
 Manshu Jidosha (Manchurian Heavy Machine)
 Manshu Jidosha (Manchurian Automobile)
 Manshu Jidosha (Manchurian Heavy Machine)

Manchu Keikogyohu Kogyo (Manchurian Light Metal Ind.)

Manchu Keikogyohu Seizo (Manchurian Light Metal Mfg.)

Manchu Kaseki Kiko (Manchurian Tool Machine)

Manchu Kogyo (Manchurian Mining)

Manchu Kaseki Kaseho (Manchurian Arsenal)

Manchu Magnesium (Manchurian Magnesium)

裏
面
白
紙

Manchu Bank	(Manchurian Bank)
Manchu Seibitan Kogyo	(Manchurian Steel Works)
Manchu Bank	(Manchurian Coal Ind.)
Manchu Tokai Kaisha	(Manchurian Coal Mining)
Nanshan Bank	(Manchurian Special Steel Works)
Nanshan Kasei Kogyo	(Nanshan Steel Works)
Nampo Nippon Kogyo	(South Manchurian Chemical Ind.)
Nanyo Bank	(Nanyo Nippon Mining)
Nichinan Bank	(Nanyo Coal Mining)
Nippon Denshi Kogyo	(Nippon Electro. Ind.)
Nippon Shoken Toshi	(Nippon Securities Investment)
Nippon Gussan	(Nippon Chemical Products)
Nippon Bank	(Nippon Coal Mining)
Nippon Zosen	(Nippon Shipbuilding)
Nissan Doko Kaisha	(Nissan Engineering Works)
Nissan Kaitai Kenkyo	(Nissan Liquid Fuel)
Nissan Kasei Kaisha	(Nissan Fire and Marine Insurance)
Nissan Kisen	(Nissan Shipping)
Nissan Kofun Kogyo	(Nissan Agriculture and Forestry Ind.)
Nissan Seimei Koken	(Nissan Life Insurance)
Nitto Shokuryo Kogyo	(Nitto Foodstuffs Ind.)
Ryuen Tekko	(Ryuen Iron Mining)
Sainin Kogyo	(Sainin Ind.)
Seisan Tanko	(Asian Coal Mining)
Tainiku Kagaku	(Continental Chemical Ind.)
Tsainan Kagaku Kogyo	(Formosan Chemical Ind.)
Tsuruoka Bank	(Tsuruoka Coal Mining)
Zarai Bank	(Zarai Coal Mining)
Total 45	
6. <u>Okura Combine</u>	
Chuo Kogyo	(Chuo Ind.)
Honkoku Saitetsu	(Honkoku Coal and Iron)

Sancho Okura Kaisha	(Sancho Okura Chem. Ind.)
Okura Kasai Taiyo Hoken	(Okura Fire and Marine Insurance)
Total	4

7. Furukawa Combine

Asahi Denka Kogyo	(Asahi Electric and Chemical Ind.)
Asahi Kasei Kaisha	(Asahi Light Metal)
Dainichi Denso	(Dainichi Electric Ind.)
Fuji Denki Kogyo	(Fuji Electric Machine Ind.)
Fuji Kaiki	(Fuji Paper and Paper)
Fuji Tsushiki	(Fuji Communication Machine)
Furukawa Chuso	(Furukawa Cement)
Kanto Denka Kogyo	(Kanto Electric and Chemical Ind.)
Nippon Denbyoku	(Nippon Electrode)
Nippon Taihokoku	(Nippon Light Metal)
Teikoku Seimei	(Teikoku Life Insurance)
Taisho Kogyo	(Taisho Metal)
Yokohama Gumi Kaisha	(Yokohama Gum Ind.)
Total	13

8. Asano Combine

Kokura Chikoku	(Kokura Harbors Construction)
Kokura Seiko	(Kokura Steel Ind.)
Nippon Kokan	(Nippon Steel Pipe)
Nippon Kokan Kogyo	(Nippon Steel Pipe Rolling)
Total	4

9. Fuji Combine

Chitose Kogyo	(Chitose Mining)
---------------	------------------

裏面白紙

Total 4

13. Kawanishi Combine

Kawanishi Kikudai

(Kawanishi Aircraft)

Kawanishi Kokuki

(Kawanishi Aeroplane)

Kawanishi Goko

(Kawanishi Warehouse)

Nippon Keoki

(Nippon Wooden Spinning)

Toyo Pulp

Total 5

14. Katakura Combine

Katakura Kogyo

(Katakura Ind.)

Suwa Kogyo

(Suwa Ind.)

Total 2

Grand Total 155

裏
面
白
紙

財閥関係者の財閥関係会社役員

左の地位よりの排除に関する件説明

昭二二、九、一八

一、本案は昭二一、七、二三附SCAPエノ一〇七九号に基く
その中にあるが同覽書は財閥解体に關聯して「指定
家族員又はアポイントメントが会社に於て役員たる
地位を占めることにより、指定家族の支配力を行ふ
ことを断絶しすべし」と述べたる。

二、右覽書は所謂持株会社の支配する企業集合
体のすべてを問題とするものではなく、同族の支配する
企業集合体即ち同族財閥のみを問題とするも
のであることは明かである。然るに今迄財閥同族
として指定されてをるのは十家族である。右十家族

外務省

裏面白紙

の他、帝同族の支配する企業集合体は若干ある。
 しかし、これは十家族に比すと、その規模及び内
 容が著しく劣り、且未だ所謂財閥家族としての
 指定を受けていない。
 又、覽書を離れ、企業集合体の実体を見ても同
 族財閥以外に於ては、我が人事は何等経済外的
 又は封建的考慮により支配せられてをらず、従って
 指株整理、独占禁止法等一連の措置により、その
 旧態勢力は完全に撤去せられ得るものがある。一方同
 族財閥については、同族を中心とする封建的、人的紐
 帯が従来存在したの事実であり、本措置は同
 族財閥に特有な人的紐帯を断絶す
 とするものである。

外務省

裏面白紙

以上の見地より本案は十財閥家族を對象とし、十財閥内に於る封建的、人的紐帶——これは終戦以來財閥解体の方針の下に急速に弛緩して行つた——を排除せんとするものである。

三、SCAP E N 一〇七九号は、指定家族の影響力を断絶する手法として指定家族構成員又は、その「アポイント」を会社の役員たる地位より排除するべき旨述べて居る。従つてこの「アポイント」とは何をも考慮決定しなればならない。

嚴密に解釈するとき、「アポイント」とは、財閥家族構成員により「任命」せられたるものばかり、その範圍は具体的には各財閥で異なり、本社（持株会社）の主要役員及び直系会社の最高

外務省

裏面白紙

役員が、

然、財閥解体の精神に鑑み、封建的人的紐帯

とは何かと言ふより、廣い見地をとり、時々の

不、字義的解釈は余りに狭いと認むべき

こ、日本政府としては、各同族財閥の形成維持に

有力に貢献した企業に役員は一應財閥の色

彩が濃厚であるとの推定をたて、かゝる者を各財

閥関係会社の役員たる地位より排除すべきことす

るべきである。

四、各同族財閥の形成維持に有力に貢献した企業

の範囲に關しては、日本政府は案別表第一及び

第二の如き会社を選定したのであるが、これが選定の

基礎觀念は規模が相当大にして資本蓄積力が

外務省

裏面白紙

大きく且同族財閥が自己の有力組重要を傘
 下会社として強かに把握して来た会社と言ふこと
 である。(従来同族財閥は公同の株式を閉鎖的
 に所有するを原則とした。株式を公開し、当該会社
 を支配するに足る最少限度の株式を保有する方
 法は例外的である) 以上を以て、日本政府は一面、いかなる
 五以上の案を作成するに當り、日本政府は一面、いかなる
 「ループホール」をも残さざる様留意すると共に、他面
 案の内容が不必要に廣範に亘り、案の目的の
 範圍を逸脱するを避ける様考慮を拂つた。

外務省

裏面白紙

20/11(2)
 → Commr. Hursey

List of companies supplemented
 or deleted from the Appendices
 of the Japanese Government's Plan.

26 September 1947

The following twenty seven companies were supplemented to
 or deleted from the Appendices of the previous Japanese Govern-
 ment Plan owing to reasons as set forth specifically in statement
 hereto attached.

Name of Company	Ref. No.	Combine to which it belongs	Remarks
TOYASIRO TORUSHIKO	13	Finsen	del. also
K.A. FUKUSHI KOSHI	13	"	"
KENJO TAKI	13	"	"
KISHIJI TAKI	13	"	"
KYUDO KOGYO	3	Asano	"
LANGYO KOBAN	15	Hissen	"
FUKUSHI SUZUKI	13	"	"
KANCHO KOKUENKAI KOGYO	13	"	"
FUKUSHI KIKIKENKAI KOGYO	13	"	"
FUKUSHI KOGAKU KENAI	13	"	"
FUKUSHI KAGAKU KOGYO	13	"	"
FUKUSHI KENKAI KOGYO	13	"	"
KANSHU KOGA	6	Hissubishi	del. also
KANSHU KOGA	7	"	del. also
KANSHU KOGA	13	Hissen	del. also
KANSHU KOGA	7	Asakawa	"
KANSHU KOGA	7	Hissen	del. also

裏
面
白
紙

RECHERCHES SUR LE	12	Paris	Addition
MUSEUM HISTORIC	4	Paris	Transfer
TRAVEL DIARY	13	Paris	Addition
TRAVEL DIARY	13	"	"
RECHERCHES SUR LE	1	Nisui	Transfer
RECHERCHES SUR LE	9	Paris	Addition
RECHERCHES SUR LE	3	Paris	Addition
TRAVEL DIARY	10	Paris	Addition
TRAVEL DIARY	11	Nisui	"
TRAVEL DIARY	13	Nisui	"
Addition	21		
Deletion	3		
Transfer	3		
Total	87		

1770

裏面白紙

Re. modification of the list of
companies attached to the "PLAN"
dated 1 Aug. 1947.

13 September 1947.

1. SAIREN KAGAKU KOGYO K.K. (The Continental Chemical Ind. Co. Ltd.)
 - a. The company was established in March 1944 with the authorized capitalization of ¥10,000,000, of which half was owned by the MITSUI KAGAKU and another half was shared by the Manchurian Heavy Industries Co. Ltd. and Manchurian Iron Ind. Co. Ltd. equally.
 - b. Actual fund of ¥37,500,000 for construction and management, however, was obtained from the Industrial Bank of Manchuria under guarantee of the Manchukuo Government. Therefore, the voice of the Manchurian side regarding the management of the company was overwhelmingly strong.
 - c. Among its officials, President IMAI (there existed over him Chairman of Board of Directors dispatched from the Manchurian H.I.Co.) who belonged to the Mitsui Kagaku K.K. was always in Tokyo, because his principal post was the official of the Mitsui Kagaku. Two other officials dispatched by the Mitsui Kagaku who reported to the office every day were technical experts having no connection with management of the company. The management, including working out the policy of the company, was under control of the Manchurian H.I. Co. Ltd.
 - d. Consequently, we conclude that the company was under the influence of the Manchurian H.I.Co. rather than of the Mitsui Chemical Co. Therefore it is proposed that the company would

be

裏
面
白
紙

be transferred from the item of Mitsui to that of Nissan.

2. NIPPON SEMI K.K. (Japan Fiber Co. Ltd.)

a. The company was established under sponsor of the former officials of the dissolved NIPPON SEIWA K.K. (Japan Hemp Fiber Co. Ltd.) in April 1934. On the occasion of establishment, the Mitsui obtained sixteen percent of the capitalization. Later on, the capitalization has been increased and the present percentage of the Mitsui is 13%. The influence of the Mitsui through the stock-holding was far from being strong.

b. At the initial period of the company, it has relied upon the Mitsui Bussan K.K. for the sale of its commodities. However it has grown more and more independent and; in 1940 the business connection with the Mitsui Bussan K.K. has completely terminated.

c. As for officials, one personnel (not official) of the Mitsui Bussan K.K. was dispatched as an ordinary director of the company. However as the connection with the Mitsui Bussan K.K. has grown incompact, the director retired in middle of 1942, subsequent to which no official has been dispatched.

d. In the light of the above facts, particularly comparing with other companies belonging to the Zaibatsu, we conclude that the subject company should not be treated as closely affiliated with the Mitsui combine.

3. TOHOKU DENKI DEN TETSU KANUSHIKI KAISHA (Tohoku Electric Iron-Manufacturing Co. Ltd.)

The

The shareholders of this company are the Fushiki Kogyo Co. (share-holding percentage = 40%) and the DENKI KAGAKU KOGYO - The Electro-chemical Industry Co. (share-holding percentage = 60%).

The Fushiki Kogyo Co. is a special "state-policy company" established by the government in May 1936 (Law No. 19, May 27, 1936), for the industrial development of Fushiki, and has been managed under the direct supervision of the government. It, therefore, has no Zaibatsu colour whatever.

At the time of the establishment of the Fushiki Electric Iron-manufacturing Co. Ltd., technical assistance was given by the Electro-chemical Industry Co. However, the real power and management of the new company has been held by the Fushiki Kogyo which has managed it with the view to the advancement of public interests. This is evident from the fact that the number of officials dispatched from the Fushiki Kogyo Co. is five while that of the Electro-chemical Industry Co. is three.

As to the Electro-chemical Industry Co., only 17% of the shares thereof being held by the Mitsui Combine, an affiliation with the Mitsui Zaibatsu is not so strong.

Considering above points, the conclusion is that it is imperative to regard the Fushiki Electric Iron-manufacturing Co. as belonging to the Mitsui Combine.

4. NOMURA SHOKAI K.K. (Nomura Securities Co. Ltd.)

It is commonly said that the Nomura Security Co. Ltd. takes a leading part among the subsidiary companies of Nomura Zaibatsu.

However

however, it does not represent the fact. The Nomura Security Co. has its origin in the Security Division of the Nomura Bank, from which it separated in 1926 and became an independent company dealing with bonds and securities. Of 14 directors at the time of termination of the Pacific war, the positions of standing directors were occupied by those who were promoted from the rank and file in the company, and the business had been executed solely by them. Directors despatched from the Nomura Group (the Nomura & Co.) numbered 3 persons.

Moreover, in the loan account and call money account totalling 20,000,000 yen as of August 11, 1945, there are no loan or call money financed by banking institutions belonging to Nomura Zaibatsu. As for the security loan account, the sum of money lent by the Nomura Bank is only 3,000,000 yen, representing 7% of the total of 44,000,000 yen.

Hence it is clear that neither strong personal tie nor close financial relationship exists between the Nomura Security Co. Ltd. and Nomura Zaibatsu. Judging from the facts stated above, it is considered appropriate to strike the name of the said company out of the attached list No.2 showing the Nomura combine and transfer it to the attached list No.3.

7. ^FIKOKU SEIMEI K.K. (Imperial Life Insurance Co. Ltd.)

This company has the capitalization of ¥3,750,000 (fully paid up) and stock-holding percentage of the Furukawa is 41.5%. The amount of assets used actually for business was ¥1,113,000,000 coming next to the Meiji Life Insurance Co. Considering the a.

economic power of the company as well as its connection with
the Furukawa, it will be added to the Appendix III as belonging
to the Furukawa combine.

裏
面
白
紙

64. Asahi Glass Co., Ltd. (the Asahi Glass Industrial Co., Ltd.)
- a. The subject company was the result of years of investigation and research conducted by the South Manchurian Railway Co., Ltd. and was established in 1934 under the joint sponsorship of the Japanese and Manchurian Governments and the South Manchurian Railway Co. Afterwards, the said company decided to receive the technical assistance from the Asahi Glass Co., Ltd., and invited Asahi Glass to take over part of the capital of the company with a view to backing up the cooperation in the technical field. The management as well as the supervision of the said company had been executed solely by the South Manchurian Railway Co., while the Asahi Glass Co. had taken part only in the technical field in its manufacturing, which dispatched one engineer and of its managing director who took charge of technical matters and 5 other technical assistants. No other officials nor personnel have been sent into the company.
- b. In compliance with the national demand of the "production first", the said company, at the request of the South Manchurian Railway Co., received in 1945 the president and other officials from the Mitsubishi Kasei K.K. (the Mitsubishi Chemical Industries Co., Ltd.), thus strengthening the technical staff. (Asahi Glass was merged into Mitsubishi

Mitsubishi
Kasai on April 1, 1944.) is not appropriate to
specify the said company as one belonging to Mitsubishi
combine. Although it may be undeniable that its suc-
cessive officials had been strengthened by officials
affiliated with Mitsubishi combine ever since the affil-
iation of said class with the Mitsubishi Kasei,
it would coincide practically with the fact to consider
the company as belonging to the South Manchurian Company.

7#. NANHAN KASEI KOGYO K.K. (South Manchurian Car Field
Industries Co., Ltd.)

- a. The subject company was established in December 1943
with capitalization of 10,000,000 yen (paid up
2,500,000 yen). The Mitsubishi owned 50% and the Manchu-
rian Heavy Industries Co. and the Manchurian Iron & Eng.
Co. owned 25% respectively.
- b. The fund required for the management of the company was
all loaned from the Manchurian Heavy Industries Co.,
thereby making the voice and influence of the Mitsubishi
combine further feeble.
- c. Among the officials, those who exercised the actual
influence were the Chairman of the Board of Directors
and the Vice-president both of whom belonged to the
Manchurian Heavy Industries Co. The President who has
held the position concurrently with the position of
official in the Mitsubishi combine has never come to
the spot.

d.

裏
面
白
紙

d. With regard to the ordinary personnel, the Mitsubishi dispatched only fifteen technical experts and assistants, the rest of whom were occupied by persons belonging to the Manchurian Heavy Industries Co.

e. In the light of the above facts, the subject company was held under the control, viewed from the personnel set-up as well as the stock-holding, of the Manchurian Heavy Industries Co. (Mitsui Combine), not of the Mitsubishi combine.

6. Kobe Kasei K.K. (Joint Development Co., Ltd.)

This company, which is a holding company belonging to the Asano combine, is still to be supplied to the Appendix I, in the item of the Asano.

7. NIPPON DENSHU K.K. (Japan Electric Co., Ltd.)

a. This company has the capitalization of 10,000,000 yen. The stocks are owned half and half by the Nippon Denki Kaisha K.K. (Japan Electric Co., Ltd.) which has been an affiliate of the Furukawa combine and by the Onoda Denryoku K.K. (Onoda Electric Co., Ltd.) which has been directly connected with the Furukawa combine.

b. Therefore, the Furukawa combine may be presumed as having owned the majority of stocks of the company. Accordingly, we supplemented the subject company to Appendix II in the item of the Furukawa.

8. TOYO KISEN K.K. (Oriental Steamship Co., Ltd.)

a. The subject company has the capitalization of 20,000,000 Yen

(17,500,000)

裏面白紙

117,500, etc. per 1971.

b. The subject company has received a contribution from the 1971
of the 1971, etc. It is a sum of 1.2 million yen, provided
owned by the 1971.

c. The 1971 has a balance of 117,500 yen, etc. as follows:

1971 1971	0.2%
1971 1971	7.2%
1971 1971	21.3%
1971 1971	1.3%
1971 1971	8.3%
Total including interest	38.3%

d. The 1971 has a balance of 117,500 yen, etc. as follows:
disposition of 1971, etc. as follows:
e. The 1971 has a balance of 117,500 yen, etc. as follows:
the 1971 of 1971, etc. as follows:
f. The 1971 has a balance of 117,500 yen, etc. as follows:
the 1971 of 1971, etc. as follows:

ii. The 1971 has a balance of 117,500 yen, etc. as follows:

a. The subject company was established in 1971, etc. by
the 1971 of the 1971, etc. as follows:
b. In 1971, the 1971 has a balance of 117,500 yen, etc. as follows:
the 1971 of 1971, etc. as follows:
c. The 1971 has a balance of 117,500 yen, etc. as follows:
the 1971 of 1971, etc. as follows:

裏
面
白
紙

- c. [faded text]
- d. [faded text]
- e. [faded text]
- 12. HIPPON HOLDING CO., LTD. (Japan Securities and Investment Co., Ltd.)
 - a. The company for the capitalization of 10,000,000 Yen and its stocks have been owned 100 percent by the Manchurian investment and securities Co.
 - b. Therefore there is no reason to add the subject company to the Appendix II in the idea of the Hissen combine.
- 13. RYUEN TANKO K.K. (Ryuon Coal Mine Co., Ltd.)

Capitalization 100,000,000 Yen	Percentage of stock-holding by the Manchurian Heavy Industries Co.	33.3%
--------------------------------	--	-------

HOINKO

HOONKAI TO KAI K.K. (Hoonkai Portland Cement Co., Ltd.)	Capitalization 20,000,000	Percentage of stock-holding by the manufacturer heavy industries Co.	50%
GOJIN KAI K.K. (Gojin Coal Mine Co., Ltd.)	" 70,000,000	"	100%
ZARAI KAI K.K. (Zarai Coal Mine Co., Ltd.)	" 25,000,000	"	100%
KAIJO KAI K.K. (Kaijo Coal Mine Co., Ltd.)	" 50,000,000	"	50%
KAIJIN KAI K.K. (Kaijin Coal Mine Co., Ltd.)	" 30,000,000	"	50%
SAIBO KAI K.K. (Saibou Coal Industry Co., Ltd.)	" 10,000,000	"	50%
SAIBO KAI K.K. (Saibou Light Metal Co., Ltd.)	" 140,000,000	"	24.5%
SAIBO KAI K.K. (Saibou Cement Co., Ltd.)	" 20,000,000	"	75%
SAIBO KAI K.K. (Saibou Light Metal Co., Ltd.)	" 12,500,000	"	50%
K.K. SAIBO KAI K.K. (Saibou Cement Co., Ltd.)	" 45,000,000	"	23.5%
SAIBO KAI K.K. (Saibou Portland Cement Co., Ltd.)	" 10,000,000	"	100%
SAIBO KAI K.K. (Saibou Coal Mine Co., Ltd.)	" 20,000,000	"	50%

Shanghai Heavy Industries Co., Ltd. (Shanghai Heavy Industries Co., Ltd.)

Capitalization	50,000,000	Percentage of stock-holding by the Manchurian Heavy Industries Co.	70%
----------------	------------	--	-----

Shanghai Heavy Industries Co., Ltd. (Shanghai Heavy Industries Co., Ltd.)

"	20,000,000	"	75%
---	------------	---	-----

The fifteen above companies being affiliates of the Manchurian Heavy Industries Co. will be added to the Appendix II in the item of Miscellaneous. These companies were not listed in the previous Japanese Government's plan owing to the lack of necessary data.

裏面白紙

27/8 (2)
→ Command. Authority.

Explanations regarding the Japanese Government
Plan on elimination of persons connected with
the Zaibatsu from officership of certain companies.

24 September 1947

1. The present Japanese Government's plan has been drawn up in conformity with the SCAPIN 107.2 dated on 23 July 1947 which provides to "eliminate the influence of listed families or family members through the holding of a position of business responsibility by either such family member or his appointee in any company."
2. According to the letter of the SCAP Memorandum, at first it is obviously understood that the SCAP Memorandum instructs that some due action should be taken in connection not with all of combines including ordinary non-family combines of enterprises but only with the combine controlled by a family, so-called the family Zaibatsu. In this connection, so far ten combines have been designated as the family Zaibatsus. Besides with the above ten, there are, in fact, a certain number of combines ruled by the family. However, they are distinctly inferior to the above ten in their scales and constitutions and have never been designated as family Zaibatsu to the name of which they perhaps are not entitled. Therefore, the family Zaibatsu with which the Japanese Government's plan is to deal should, we conclude, be confined to the above ten.
Secondly, apart from the letter of the SCAP Memorandum, we have to investigate the actual situations of the personnel administration in the big combines. The investigation reveals that ap-

裏
面
白
紙

pointment or retirement of officials in non-family combines whose stocks are open to the public has apparently been decided according to the expressed will of free stock-holders thereby refusing any interference with the personnel administration of non-economic or feudalistic considerations. Any specific person is impossible to perpetuate his personal influence within this sort of combine. Therefore, a series of economic measures aiming at dissolution of combines such as holding stocks liquidation, anti-monopoly law etc. would be sufficient to renew completely the old personnel set-up in these combines. On the other hand, as for the family Zaibatsu, it must be admitted that the feudalistic personnel tie centering around and extended from the specific family has existed and served evidently for the formation and maintenance of the family Zaibatsu. It is exactly this sort of feudalistic personnel tie, which would not be eradicated by purely economic measures such as holding-stock liquidation, anti-monopoly act etc. just because of their feudalistic nature, that the present plan should deal with as its objective.

In the light of the above facts, the Japanese Government's plan deals with ten family Zaibatsus and intends to eliminate the feudalistic personnel tie - although it must be pointed ^{out} that the tie has been rapidly weakened under the policy of Zaibatsu dissolution since the termination of the Pacific War - from the companies affiliated with the family Zaibatsus.

3. As the concrete measure how to eliminate the influence of designated Zaibatsu families, the SCAPIN 1079 provides that members of the designated families or their appointees should be barred from officer-ship in any company. In the implementation of the above, accordingly,

the definition and scope of "appointees", at first, must be clarified.

Strictly construed, the "appointees" mean those appointed directly by the members of the Zaibatsu families. In a more concrete way, they are, at most principal officials of respective holding company and the top-ranking officials of direct affiliate companies. However, in conformity with the spirit of the Family Zaibatsu dissolution, the Japanese Government takes the broader view concerning the definition of the appointees and construes them as those served or serving as the feudalistic personnel by which has contributed for the formation and maintenance of the Family Zaibatsu. Along that line, we assume that officials of companies which have had close connection with and served eminently for formation and maintenance of the Family Zaibatsu are tinged with the Zaibatsu colour and plan to bar them from positions of officials of companies connected with the Family Zaibatsu.

4. Thereupon, we have to advance and consider what are those companies which have contributed eminently for the formation and maintenance of the Family Zaibatsu. We have listed such companies up specifically in the Appendix I and II attached to the "Japanese Government's plan". However the general criteria were to select such companies which are considerably big in their scale so that they can accumulate profits in large amount and, at the same time, which are subject to the direct and strong control of the Family Zaibatsu, in general cases, the majority of whose stocks are owned by the Zaibatsu family or its holding company.

Note: In this connection, it must be particularly pointed out that the family zaibatsu, generally, has, so far, closed stocks of such companies from the public. It has been exceptional to open stocks of such companies to the public, retaining only those just sufficient to control the companies.

The details of basic ideas and procedures of the selection are set forth in the separate "Explanation on the attached lists of the Japanese Government's plan".

5. The Japanese Government's plan has drawn up along the basic idea as stated above. We have deliberated conscientiously so that any loophole would not be missed, and at the same time, paid our attention so that the plan would not overstep the boundary, within which the plan would work constructively, thereby entailing effects detrimental to the stabilization and reconstruction of the Japanese economy. The Japanese Government is confident that the present plan hereby submitted is both proper and sufficient for the democratization of the Japanese economy dealing with problems so far left untouched in connection with the zaibatsu dissolution.

裏
面
白
紙

財団法人等若干の会社

後述の通り、排除に付する附屬ニニ九、ニ〇、
附屬別表に内する説明

日本政府等

附屬別表には、別表の中を通り二四三社の会社が各附
屬の主要周縁会社として掲記せらるるを、而して其

如例にして、ある会社が選擇せらるる小の会社と先づ我々は
各附屬の指命定會社、（附屬） 連和會社及び
（附屬） 及の公稱等

分、物置本金融及び同一系統の会社による持株率等と
調査に及、指命定會社、連屬會社及び周縁會社の定数は
昭和二十一年勅令五七七号の示す通りである。各附屬

外務省

裏面白紙

表

21

<p>別表中央十%以上の資本金の増強を待つが、本社は より大の子孫増強に力を入れ、同様に小企業も進出させ、 資金の融通に力を入れ、同様に小企業も進出させる。この調査の 実施と関係するが、別表中央の通りである。</p>	<p>二、別表の中より、次々は別表の密接な関係会社として 先づ公称資本金一千万円以上、同一系統会社の子株 率五%以上のものを選定した。この中、最も調査される 別表の把握は、同様に調査せしめる会社である。</p>	<p>他に、同様に調査し、 同様に調査し、同様に調査し、同様に調査し、 同様に調査し、同様に調査し、同様に調査し、 同様に調査し、同様に調査し、同様に調査し、 同様に調査し、同様に調査し、同様に調査し、</p>
--	---	---

裏面白紙

かし場を以て從屬入りは國籍会社に於てツクハ小所
 ありがーを除外し、初して預けたもつを
 (4) 財團より
 の直業会社、主要な連立会社 及び回世地ウもウに区へカシ
 前をを別業中一、後をを別業中ニとて、蓋し(4)と(5)と
 同し、財團の把握を、諸人々の支配りには、隔段の相違が
 見らふことである。例へば(4)の場合には、その役員、少くとも主要
 役員は、従前にも際しては、前にも未社の取締役を要する等、
 かし方隊により作成した結果、左可如き日本政方をなつた
 次第である。

外務省

裏面白紙

04

4

三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井
四	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

惣算全一丁の内
五〇以上ノ合計

別表第一
別表第二

別表第三
別表第四

外
務
省

裏
面
白
紙

101

(一)
三井

右の内 別表中に掲げせらるるものハ、たし、個別的の理由は、
左の通りである。

の才一信託中、本社は、三井の銀行の子会社である。かゝる三井
銀行の子会社は、三井の銀行の子会社である。かゝる三井

三井銀行の子会社

三井銀行の子会社は、三井の銀行の子会社である。かゝる三井
銀行の子会社は、三井の銀行の子会社である。かゝる三井

三井銀行の子会社

朝鮮の野田セメント、三井の野田セメント及びハルビンの野田セメント
一、この小笠原三社は、三井の野田セメントの子会社である。かゝる三井

は、他協定本を中心とし、三井は、三井の野田セメントの子会社である。かゝる三井

5.

外務省

裏面白紙

我子令社身とし、その形骸は、
月寸成勝か三月系、
以上より子令社と書
三井をあらわす

向里、
工書ハ、
三井と直
三井と直

の東化を
協力を

三井
三井

外務省

裏面白紙

④
 其の
 後
 割
 際

④ 鶴見製糖

菅本竹に東亞合成化学工業の子会社である。人竹、菅本の
 関係は存続がある。 継日尚、東亞合成化学工業は
 実際上、三井化学の、其の子会社である。三井化学由
 鶴見ソーダ造、三井系とするの旨である。

大陽化学工業 | 三井及協業系に共同出資し依り設立。三井は技術の
 供給に力を入る。業の運営は完全な協業の運営に在る。 継
 日尚、協業系(旧大陽系)に板はるべきである。

外務省

裏面白紙

三、三、三、三

南滿化因一本社り満快加討思し、三夢は技術的後即と
今つたもつて、~~...~~ 至是迄の間に全然參加してゐる。従つて
三夢家は此の間に、~~...~~ といふことである。

(二) 漢野系

日本鐵道、鐵鋼証券、~~...~~ 何れも日本獨管の子会社が、漢野
系、~~...~~ 且日本獨管と漢野事業の關係も
比較的薄弱なるが、此の向新と漢野系と、~~...~~ 支那下にある
ものと看するに無理はない。

(四) 甘密系

日本電機

外務省

裏面白紙

<p>三、切取は資本の総額と同率の株主が 獲得するものとする。この場合、 株主の権利を損ない、 利益を分配するものとする。 以上、各社に適用する。</p>	<p>資本金と、その増資額が、 株式の発行額より多い場合は、 剰余金の一部を配当に充てる。 配当額は、剰余金の総額に 対し、一定の割合とする。 以上、各社に適用する。</p>	<p>この章程は、取締役会の決議で 変更することができる。 以上、各社に適用する。</p>
---	--	---

外務省

裏面白紙

11.

三井	三菱	住友	野村	徳大	浅野	大倉	古川	日産
四	〇	七	〇	〇	〇	一	五	廿
別表	別表	別表	別表	別表	別表	別表	別表	別表
二	八	四	一	〇	一	〇	〇	〇
別表	別表	別表	別表	別表	別表	別表	別表	別表
七	二	三	二	〇	一	〇	二	二
別表	別表	別表	別表	別表	別表	別表	別表	別表
三	〇	〇	二	〇	〇	一	一	二

外務省

裏面白紙

その状況は説明すればたゞしあり

一 三井系

川崎博致

三月減量一由、（岩田）三井系との部材の改修は、

（岩田）三井系との部材の改修は、

曲野田自動車一、三井鐵道が技術関係と有つて、

一九三九年以来の事、人の関係は、

各関係あり

丸善石油一、（岩田）本社は石油収支業者松村の、

一、（岩田）丸善石油の、

一九四二年、

（岩田）三井物産の支店社あつた、

外務省

裏面白紙

(一) 安田系

日本精糖 - 安田との関係と生 - とうとう 控体流氷糖と安田依りか
取得 - ありあり。事業は安田系大回らせり事はなし

日本精糖 - 本依りは大蔵省の勸奨を依り九大糖業社が全国
の産米或る一方 福、田安田依り高が之を加 入りあり各皆本関係
加つて至るまで 大蔵省の介入に依り安田系、このまに在るべき
支那関係はなし

(二) 大倉系

山西産糖 - 本社は世に印同糖と最大出資者(四百〇〇万)と
大倉糖業社十一金社が本依り事業の一部と名、控ありあり
各皆は世に印同糖が本依りていふ 本社は寄り世に印同
糖業より金社あり

外務省

裏面白紙

四 古河系

内州系 | 古河電工、陸軍電工、藤倉電機、日立電機

改定電化 | 古河系と着目、改定電化

大谷系 | 鉄鋼業、古河系、大谷の事業あり

改定電化 | 古河系

(2) 日産系

日産製鉄所、前北二山、日産製鉄所と日産系とす、日産系

日産製鉄所、日産製鉄所、日立製鉄所の関係あり、前北二山、日産製鉄所、日立製鉄所の関係あり、前北二山、日産製鉄所、日立製鉄所の関係あり

日産製鉄所、日立製鉄所、日立製鉄所の関係あり、前北二山、日産製鉄所、日立製鉄所の関係あり

裏面白紙

此表係
中一表

三井	二七	(四)	一	三	三	(四)
三友	一九	(單)	〇	三	一六	(四)
三友	一九	(九)	一	五	一三	(五)
三友	九	(三)	〇	一	八	(三)
三友	一	(一)	〇	〇	一	(一)
三友	七	(一)	〇	〇	一	(一)
三友	七	(一)	〇	〇	一	(一)
三友	五	(三)	〇	〇	一	(一)
三友	三	(三)	〇	〇	一	(一)
三友	七	(二)	一	一	七	(一)

此表係
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

外務省

裏面白紙

大塚化学工業
 協和堂
 上梅麻工業
 物産工業

<p>前表の下段カソの内々(一)即ち持株率一三〇%以上五〇%以下 別表に揚り北の(カソ)に就て其理由と説明する(カソ)の通り 一 三井系</p>	<p>大塚化学工業一三井及物産系の共同出資に依り設立、三井日産 協和堂(カソ)あり、物産系の連合は完全口揚業に牽引され北の(カソ) 従って北の(カソ)物産系(日産系)に投はるべきである</p>	<p>協和堂(カソ)一 大日本セロイド(カソ)の子会社である 三井、岩井、佐友三液算が主の出資者として岩井系が中心となり三井は 投資関係の外である。従って協和堂(カソ)も三井系ではない</p>	<p>上梅麻工業一 日本織組(カソ)一(一)三井系(カソ)の子会社である 物産工業一</p>
--	--	--	---

外務省

裏面白紙

物洲ノ夕
 羅華秋恭那瑞
 南右平洋
 日本各池
 池貝自動器製造

(二) 三菱系

物洲ノ夕 | 物洲及三菱関係の共同企業にて設立、三菱は技術の援助あり
 経営及販賣関係は完全に物洲の支配下にあり、従って本誌と三菱系とを
 区別せしむるに可い

羅華秋恭那瑞
 日本各池 | 島津製作所の関係事業もあり、三菱は投資関係と
 区別せしむるに可い

池貝自動器製造 | 本誌は池貝社の事業にあり、三菱は投資関係と
 区別せしむるに可い

外務省

裏面白紙

南太平洋貿易

— 母体は南洋拓植系の

南洋興業

が中心となつて発展せよ

会社

あり

(

三菱(株) 一九四一年

投資関係と

南太平洋

三菱(株) 南洋

三菱系とはなへない

add morning

- 11 -

s-3

installed as its president by ousting from the Ryokufu-kai leadership Shunsaku Noda and other members who are believed to be close to the Liberal Party.

The new party, as now conceived by Mr. Sasa and other sponsors of the new party plan, would oppose any socialistic stand and place main emphasis in its platforms on world economic policies following the resumption of private foreign trade last August.

According to the planners of the new party, an estimated 80 per cent of the present Ryokufu-kai members will join the new political party.

They believe that those who are likely to fall out of line will include Shunsaku Noda and Torio Yano, who will join the Liberal Party; Tsunekichi Komiyama and Hisashi Yamazaki, who will switch over to the Democratic Party; and some who will "return" to the People's Cooperative Party.

(more)

中京電氣
藤原電機
九洲電工
日本電器
日本電機

(三) 佐友系

中京電氣

一九四三年

佐友系、川崎重工業系、小糸製作所

航空機部、小糸製造、他

工社の資本的援助の協力に依り設立されたもので、特に佐友電機

には多くの着目があり、注目を集めている。

藤原電機

但し企業として成長し、多岐にわたる生産品を生み出し、一九二〇年代に

以来、同業の地位を向上させ、重要な企業として成長している。

佐友系は同業の地位を向上させ、重要な企業として成長している。

佐友系
佐友系
佐友系

時事通信

★ HOME NEWS SERVICE ★

JIJIPRESS, Ltd.

大正十五年十月廿日第三種郵便物認可 編輯部東京市丸の内區本町二丁目二番 時事通信社

** ADD: MORNING EDITION **
** Monday, June 2, **
** 1947. **

長府船渠
豊原造船

(110)
豊田系

豊田船渠 | 一九四二年 | 豊田系 | 日本船渠が設立となり、其際
豊田の橋脚と豊田系へ投資し、多に止り、事業上の関係は在り。

豊原造船 | 本社は一八九七年設立、豊田一九三八年豊原造船
併善船は豊田船渠の代表として関係と在り、
本社の投資も、本社の自任の目的に於て完結せられ、
従って豊田船渠の支配下となり、豊田系と在り。

Morning

- 8 -

In conclusion, the Foreign Minister
through reporters asked the Japanese press to give
more coverage in foreign news.

yh/n

END MORNING EDITION

Monday, June 2, 1947

沼和物産製鋼

(五) 新 村 系

沼和物産製鋼

一九三七

年

工 場

棚 橋 虎 五 郎

沼 和 村 系

製鋼工場が並ぶ

沼和物産製鋼の工場と沼和村系

MORNING

- 7 -

it cannot be helped if he wants to resign.
A question has been put as to the possibility
of appointing Shu Tomii, former Ambassador to
Buenos Aires, and I say Mr. Tomii is one of the
candidates", the Foreign Minister stated.

He said unlike other Ministries the
personnel affairs of the Foreign Ministry should
stay clear of political developments and
changes. "I am for this idea and I have already
received approval of Mr. Katsuo Okazaki for his
remaining in the Vice Foreign Minister's post," Dr.
Ishida added.

Foreign Minister Ishida said while former
Premier Shigeru Yoshida was the president of the
Central Liaison Office there were very few
conferences with the press but "I am going to
meet the press at least once a week to exchange
opinions."

(over)

(六)

富士系

竹田産業

一九三九年

富士産業(旧中野製材) 藤野製材

竹田産業

平橋製材

製材 笠掛部 小製材 下宿 工物

富士系 富士産業 日校 藤野製材 並に 小製材

MORNING

- 6 -

Minister and Chief Cabinet Secretary, declined the portfolio."

He said in preparation for the coming Peace Conference he is planning to expand the structures of both the Foreign Ministry and Central Liaison Office. He added by expansion he wants to increase administrative efficiency to conduct various foreign affairs.

However, it must take sometime before he can put his plan into practice. The Office Law must be revised and necessary appropriations must be secured before doing so, he added.

He stated that the first Cabinet meeting today decided to ask the Foreign Minister to concurrently take over the post of the president of the Central Liaison Office.

"I have not met Mr. Jiro Shirasu, the vice president of the Central Liaison Office, but

(over)

田中電化

(七) 大倉系

田中電化

一九四四年
田中電化
大倉系

田中電化
大倉系

田中電化
大倉系

田中電化
大倉系

ASHIDA PLANS TO EXPAND
FOREIGN OFFICE FOR PEACE TALKS

JIJI PRESS

TOKYO, June, 1. - Foreign Minister Hitoshi Ashida declared that he is planning to expand the structures of both the Foreign Office and Central Liaison Office to prepare this nation for the coming peace conference and at the same time increase administrative efficiency vis-à-vis foreign affairs.

He, however, said this plan will not be realized until revision of the Office Laws is made and necessary appropriations obtained.

The Foreign Minister made the statement in his conference with the Japanese press this afternoon.

"The country's foreign administration has never been more difficult than at present", Dr. Ashida declared, adding he assumed the present post only after Sushiro Nishio, State

い
長
河
系

系
和
名
居
精
録

書
録
日
系
五
葉
大
日
女
製
紙
名
博
を
力
年
ろ
出
産
工
師
ノ
伝
を
水
色
が
り
り
あり

本
館
に
在
る
書
籍
ノ
目
録
下
に
在
る
如
ク
也

往
後
に
於
て
二
三
年
精
録
ノ
事

MORNING

- 4 -

SATO SLATED TO ASSIST
CHIEF SECRETARY NISHIO

JIJI PRESS

TOKYO, June 1. - Eisaku Sato, former
Transportation Vice Minister, is likely to be
appointed assistant chief cabinet secretary,
Jiji Press learned today.

.....
yh/n

B.

冷平堂一千万石以下の金部下付も有力な日蓮堂一

作系と通るあり。南東堂と通るあり。増田と通るあり。

大以外に無き。ミナトレの示唆は甚だ一物に非ず。

比較の有力と思はれざる。と違定一

財網の北極下にあり

MORNING

As for the promotion of small and medium industries, Mr. Mizutani stated, the government has a policy in mind to help them secure necessary operating funds and materials. The setting up of various autonomous structures and organizations among small and medium industrialists will be encouraged by the government, he added.

The Commerce and Industry Minister declared that foreign credit is desired for the reconstruction of industries and economic recovery but this country should first increase its exports.

Mr. Mizutani said he cannot agree on the idea of paying off war debts from current production and expressed hope that removal of reparations facilities be so conducted as to incur only minimum damage on Japanese industries.

(more)

三市 三美 住友 石田 野村 富士 淡野 大倉 在野 日産

台一 三三 三三 三一 一〇 五九 八 二二 一九 七四

二九 一〇 八 七 九 〇 一 一 一 〇

三 〇 一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

五 〇 一 〇 〇 三 五 五

三市
一千四百餘千の金額

三市
二〇〇万四千餘千の金額

別表第一

別表第二

MORNING

- 3 -

The Minister revealed that the Social Democratic Party had more concern about obtaining the Commerce and Industry post than the Finance portfolio. In the administration of commerce and industry policies it is necessary for the Social Democratic Party to make clear its policies and stand.

He concluded by urging the nation as a whole and labor particularly to give their support to the Katayama Cabinet.

yh/n

1) 三井系

基隆産紙

山口産紙

三井系物探八七知に達
社名以下並系紙多し三井系より紙位下
紙位はわきあり

三井系物産

三井系より産る紙あり

三井系物産

三井系物探八九知に達
社名以下並系紙多し三井系より紙位下
紙位はわきあり

2

周枝子水紙

三井系物探八九知に達
社名以下並系紙多し三井系より紙位下
紙位はわきあり

本名は三井系物探八九知に達
社名以下並系紙多し三井系より紙位下
紙位はわきあり

基隆産紙

-8-
MORNING

newly-risen questions, which must be effected before the Public Peace Board comes into being, adding up to possible further delay in the scheduled dissolution of the Home Ministry, the same sources further said.

END MORNING EDITION

Tuesday, September 23, 1947

三井生糸

三井生糸の進出金証である

熱帯産物

三井生糸の進出金証である

南洋の文化

三井生糸の進出金証である

Morning

under this formula the committee member who is to represent local governments will tend to strongly reflect the wishes of the prefectural governors alone without due regard to the wishes of cities, towns and villages.

The objections being now raised to the Government plan are so strong that the very proposal to set up the Local Self-Government Committee itself is now at stake, it was said.

Under these circumstances, the same sources said, the Home Ministry is now studying a new plan, under which the membership of the committee would be increased to five, the two additional members being one representing the cities and the other, the towns and villages.

In addition new questions have cropped up recently in connection with the setting up of the Public Peace Board, with the settlement of these

(more)

(二) 三菱系

三菱マテリアル工業 全額三菱系に支配され、三菱北成の持株も

あり、そのうち三菱系関係のものは有力

江戸川工業 三菱系が持株。入。各社とも三菱系に属する

三菱系が支配する

日本敬産 全額三菱系に支配され、三菱系が持株

あり、そのうち三菱系関係のものは

創設持株会社 全額三菱系に支配され、三菱系が持株

上海三菱信託 全額三菱系に支配され、三菱系が持株

あり、そのうち三菱系関係のものは

明治生命 全額三菱系に支配され、三菱系が持株

あり、そのうち三菱系関係のものは

三菱系に属する

Morning

- 6 -

While no serious difficulty is being encountered in regard to the Construction Board except for the selection of its president and other top-ranking personnel, the same sources said, strong objections are being raised to the Government's plan for the election of members of the Local Self-Government committee.

Under the Government's plan, the committee would be made up of three members, including the chairman, who will be a State Minister, and one to be recommended by the Diet, with the other to be elected by 92 electors consisting of 46 prefectural governors and as many representatives of mayors of cities, towns and villages to be chosen from each of the 46 prefectures, including the Metropolitan District of Tokyo (Tokyo-to), Kyoto-fu, Osaka-fu and Hokkaido.

Those opposed to this method of electing members of the committee are said to argue that

(over)

(三)

佐友系

東洋製糖工業

佐友系 糖業 八四〇

御達 糖業 八四〇

細川産糖精工

佐友系 糖業 九〇〇

保老の大部 八四〇

白洲産糖精工

佐友系 糖業 八四〇

服部 糖業 八四〇

佐友系

佐友系 糖業 八四〇 (佐友系 八四〇)

佐友系

佐友系 糖業 八四〇

Morning

- 5 -

0-1

DELAY IN HOME MINISTRY
DISSOLUTION SEEN

JIJI PRESS

TOKYO, Sept. 22.--Indications point to further delay in the dissolution of the Home Ministry, scheduled for the end of this month under the Government's original plan, according to sources close to the Home Ministry today.

Under the Government plan the projected dissolution of the Home Ministry is to synchronize with the establishment of three new government agencies--the Construction Board, the Local Self-Government Committee, and the Public Peace Board.

Bills calling for the setting up of these new offices are now before the Diet.

These sources disclosed that objections were now being raised to the original Government plans for these new offices, which, they said, are likely to result in "considerable" delay in the dissolution of

(110)

各田米

3

康徳不動産

全額

安田米積振

安田米積振

云々
一拾一
改換
小

日米

安田米積振

安田米積振

云々
一拾一
改換
小

康徳不動産

安田米積振

云々
一拾一
改換
小

Morning

-4-

Diet members among its members, or an organization whose candidates in the last general election gathered more than two hundredths of the total ballots cast, or an organization endorsed by the signatures of more than one two-hundredth of the total number of voters as of the day of the last general election.

... of the last general election ...
... of the last general election ...
... of the last general election ...
... of the last general election ...

(2)

張野東

小倉家

一九五二年

張野東

張野東一印 外 同 姓名 及 其他 欲 乞 乞 乃 ？

長野家

張野東

Morning

-3-

FOUR MAJOR PARTIES AGREE
ON POLITICAL PARTY BILL

Jiji Press

TOKYO, September 22. - The Social Democratic, Democratic, Liberal and the People's Cooperative Parties reached agreement on the outline of a Political Party Bill at a meeting of their representatives this afternoon, Jiji Press learned.

The four parties, it was learned, will complete the drafting of the bill after taking into consideration the opinions of the House of Councillors. They expect to have the bill passed by the Political Party Bill Committee by the end of this month by overriding the opposition of the small parties and factions, it was said.

It was learned that under the four-party agreement reached today, a political party is defined as an organization which has 20 or more

(more)

岩手県下
 日北郡
 岩手県下
 日北郡
 岩手県下
 日北郡

郡	野村	富士	浅野	古河	大倉	日産	海田	佐友	三菱	三井		
	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	A	別表一 A B C D 計
	21	1	1	0	3	2	28	11	9	15	B	
	0	0	1	1	0	1	31	4	8	4	C	
	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4	D	
	22	2	2	2	4	5	5	18	18	24	計	
	7	3	1	89	2	38	3	8	10	18	B	別表二 B C D 計
	00	0	1	2	0	6	2	3	2	7	C	
	01	0	2	2	2	6	34	7	8	8	D	
	8	3	4	12 ³	4	45	8	20	29	33	計	
	1	41	1	1	1	2	1	1	1	1	A	計
	8	4	2	89	5	35	5	19	19	33	B	
	0	0	2	3	0	7	3	17	10	11	C	
	10	0	23	2	2	6	54	11	8	12	D	
	10	5	7	14	8	50	18	38	57	57	計	

裏面白紙

外
路
省

三井
 三井物産株式会社
 三井物産株式会社
 三井物産株式会社

朝鮮の物産
 朝鮮の物産
 朝鮮の物産

絹
 絹
 絹

絹
 絹
 絹

黒部川電力
 黒部川電力
 黒部川電力

電力
 電力
 電力

電力
 電力
 電力

日本紙
 日本紙
 日本紙

満日
 満日
 満日

外務省

裏面白紙

2
4
石臼麻紡麻

10000
10000
白海

引引 四算

以別表掲げノモノ

〇別表掲げノモノ

四五

三四

一一

一
一
一
一

2

外
落
首

裏面白紙

334

3

2

指公王様	一	ナリ	同	上	七	〇
中	三	〇	〇	〇	〇	〇
川	三	〇	〇	〇	〇	〇
豊	九	一	五	〇	〇	〇
五	三	〇	〇	〇	〇	〇
徳	一	〇	〇	〇	〇	〇
川	三	〇	〇	〇	〇	〇
五	三	〇	〇	〇	〇	〇
徳	一	〇	〇	〇	〇	〇
川	三	〇	〇	〇	〇	〇
五	三	〇	〇	〇	〇	〇
徳	一	〇	〇	〇	〇	〇

外務省

裏面白紙

7

一	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚
	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚	揚

外務省

裏面白紙

僅友	三	千石同 五石以上	一
他	二	別表一	九
他	八	別表二	二
他	七	別表一	七
他	三	別表二	四
他		別表一	七
他		別表二	三

外務省

裏面白紙

						大倉家令記
						一 千五百%以上
						紹興
						別注
						リヤニ
						二 四 六
						二 集均空法記 一 千九百%以上
						山西を以て 八〇〇〇
						一七%
						修致
						揚州七ツクニ

外 務 省

裏面白紙

野村宗

一、一才百 五才以上

線取

別表 才一

才二

二、一才百 四以上

カシ

九 三 九

外務省

裏面白紙

10

管 上 上 上 上	一 子 月 工 口 九 以 上	偶 数	別 表 上	中 二	三	二	五	拍 子 上 上 上 上 上	ナ ン
-----------------------	--------------------------------------	--------	-------------	--------	---	---	---	---------------------------------	--------

外
移
省

裏
面
白
紙

裏面白紙

	11.		B
古少			
日下			
出			
〇			
一			
ハ			
一			
一			
一			
二			
一			
五			
一			
一			
二			

外務省

浅野宗久

一、上り内務省の上

鉄鋳造

日中鋳造

留め

別表第一

リ、第二

為せりし

二、持ちまはしりりりりりりりりり

留め

別表第一

リ、第二

外務省

裏面白紙

213

日産高

一ヶ月の平均以上

日本製鋼所	10,000	100%	(福)
日産製鋼	10,000	100%	(日)
日立造船	10,000	100%	(日)
日立精糖	10,000	100%	(日)
日立造船	10,000	100%	(日)
日立造船	10,000	100%	(日)
日立造船	10,000	100%	(日)
日立造船	10,000	100%	(日)
日立造船	10,000	100%	(日)
日立造船	10,000	100%	(日)
日立造船	10,000	100%	(日)

浦田舎会帳

抄二

外 大、控 省

裏面白紙

二、	乃塔上段一ナリ四以上		
	別立勸修寺所託	七〇〇〇〇	一九%
	三ノ一セニ自坊争	七〇、五〇〇	二四%
	日野長良	四〇、〇〇〇	一〇%
	尚取		七
	御名付一		二
	ノ 沙ニ		二
	物次セクモ		三

外務省

裏面白紙

めくられず

	① 持株率25%以上 資本金千円以上	② 積立千円以上 資本金と持株率	③ 用以上 其の他資本金千円	④ 以上 五百円以上持株率25% 資本金千円未満	⑤ 未満 全額持株率25%	⑥ 備 資本金五百円未満	計
井	45	14 14 16	27 28 28	18	14	29	147 147 157
菱	21 19	10 11	19	9	14	10	83 84 82
佐友	20 19	7	19	9	6	8	69 68
守田	65	5 8	9	5	10	6	41 44
卯村	89	10 10	1	2	1	7	20 17
富士	5	0	7	1	9	49	71
脚	5	2 3	6	2	6	0	29 27 21
大倉	6	1	5	2	4	16	34
古畑	10	5	3	3	6	10	37
(満葉)	24	4	2	2	-	2	34
(日産)	12	4	3	10	2	30	61
	158	52	101	63	92	167	618

INLAND FACING DROUGHT A sharp contrast to the floods in the border sections of these two states, thousands of square miles of inland lands are in the grip of the worst drought for many years. Stock losses have been heavy and hand feeding of stocks and the chertage of water is a common scene.

AUSTRALIA: LAST MEETING OF ARBITRATION NOT HELD

SYDNEY 27. The final conference on the Commonwealth's amending the Arbitration Bill was held at Canberra today. This measure will be submitted to the House of Representatives by the Commonwealth Government early in next parliamentary session. During the past two weeks, Ministers have conferred with representatives of both sides of the industry.

Today's talks were between Ministers and representatives of the Industrial Committee of the Australian Labor Party. Government representatives were the Prime Minister, Mr. Chifley; the Attorney General, Dr. Dedman; the Minister for Social service, Mr. McKenna. The ALP Industrial Committee was represented by the President, the General Secretary and representatives from Tasmania and Queensland.

AUSTRALIA: RAF FLIGHT TO NEW ZEALAND

MELBOURNE 27. A Lancastrian plane of the Royal Air Force Transport Command is expected in Melbourne this week on a familiarization flight from Britain to New Zealand. The plane is carrying trainee personnel as well as the usual crew.

The flight is the fourth familiarization trip made to Australia and New Zealand since the end of the war, but it is expected that very soon such trips will be made every month. A spokesman for the Royal Air Force in Australia explained the Transport Command is maintaining a full quota of crews trained in long distance routes, both for its own use and as potential pilots for British Overseas Airways.

...the ... sections ... thousands ... the ... of the worst ... Stock ... have ... of ... the shortage of ...

AUSWALIA: ... The ... of ... the ... according to ... All ... of ... This ... will be ... to the ... of ... by ... of ... in ... to ... to ... of ...

Today's ... between ... representatives of the ... of ... the ... of ... the ... of ...

AUSWALIA: ... The ... of the Royal ... this week ... from ... to ... The ... is ... as well as ... The ... of ... to ... and ... will be ... by ... of ... in ... of ... in ... distance ... as potential pilots ...

原
本
不
明
瞭

三井	4th	%
三井物産	30,000	32.7
満州石油	40,000	10.0
北地産物	20,000	19.0
日本バルブ	10,000	24.0
太平洋炭鉱	11,000	42.5
福島炭業	12,000	40.8
淮南炭業	15,000	19.9
高田アルミニウム	21,700	21.7
日本金属工業	33,600	17.5
愛知製鋼	17,000	29.0
川谷工機	20,000	29.4
豊田産業	10,000	11.5
日本自動車部品	10,000	20.0
日産自動車	36,000	15.5
東北自動車工業	30,000	16.8
蒙疆汽車	10,000	20.0
東棉織造工業	13,000	30.7
島根化学工業	30,000	16.6
大陸化学工業	10,000	49.8
大日本セメント	50,000	3

朝鮮林業用炭	20,000	10
中華煙草	38,700	14.3
富士生真セメント	25,000	34
大東紡織	15,702	39.7
日本織造工業	55,000	12.9
上野麻工業	10,000	40
山東塩業	10,000	70
東棉織造工業	16,000	48

4		
基隆炭業	7,000	60.8
山門炭業	7,500	86.7
三井不動産	5,000	100.0
天塩鉄道	5,000	66.7
9区鉄道	6,000	68.7
9区製作所	7,500	100.0
東亜鉱山	5,000	87.7
三成炭業	5,098	95.9
南東州小野田	5,500	97.6
川谷車体	7,000	87.0
日本ゴム工業	5,000	62.3
北洋火柴	5,000	50.0

東亜製糖	7,000	50.2
山東電化	6,500	60
周村子水産	8,000	96
東亜塩業	5,000	60
瑞洋棉業工業	5,000	100
大日本航空機	7,000	92

片
紙
の
裏
面

ひ
物
一
冊
也

三菱

	419	3	%
三菱製機	10,980	36	36
東西燃料工業	50,000	10	10
日東製材	12,300	3	3
九州大造	30,000	21	21
博州Y-9	25,000	35	35
理華機器	10,000	33	33 X
口産電機	22,000	12	12
田中計器	10,000	28	28
南太平洋船	10,000	35	35 X
南滿鉄業	40,000	10	10
台湾化成工業	10,500	16	16
日本輸送製造物	10,000	15	15
日本商船	20,000	14	14
東京麻績紡績	10,000	23	23
朝鮮北産肉壳	10,000	17	17
博州麻工業	10,000	20	20
日本産地	20,000	33	33 X
朝鮮東工業	20,000	16	16
理自自動車製造	15,000	32	32 X

4

	419	%
三菱マシナリ工業	5,000	100
工研工業所	8,000	81
日本製糖工業	7,600	100
昭徳鉄業	6,000	6
釧路埠頭倉庫	8,000	100
丸子鋼材工業	5,000	55
東洋カーボン	7,500	50
吉富製菓	7,000	50
台湾航業	5,000	66

日本物産株式会社
 昭和27年11月

147

relations with Britain is to be submitted to the United Nations. This announcement followed the deadlock in the negotiations between Britain and Egypt which has continued for several months.

EGYPT-BRIT: SECOND TALKS OPEN MONDAY

NYVA 27 The British and Arab second series of talks on Palestine will open in London Monday. The first talks held last fall ended in an impasse, and London dispatches are not hopeful of an agreement during this week's discussion unless a major compromise is reached.

BURMA-BRIT: BURMESE TO LEAVE FOR HOME

BBC 27 It is announced in London that the constitutional talks on Burma between the British Government and the Burmese delegation are now over. The Prime Minister, Mr. Clement Attlee, will make a statement on the talks in the House of Commons tomorrow. The Burmese delegates will leave Britain tomorrow on their way home.

BURMA-BRIT: AGREEMENT IN OFFING

NYVA 27 Two important meetings in London are expected to be reported soon.

The talks between high British and Burmese officials on Burma's future political status will finish at midnight Sunday with a conference between the Burmese leaders and Prime Minister Attlee.

Dispatches indicate that an agreement may be signed later in the day, although earlier news reports had described the talks as deadlocked, on the means of carrying out the independence offered to Burma.

Dispatches say that the British are expected to reply to final memorandum submitted by the Burmese leaders.

BRIT-ALBANIA: UN SECURITY COUNCIL TO HEAR ISSUE TUESDAY

NYVA 27 Another British concern is charges

住友

3.

	4月	%
日本板硝子	12,250	28.5
大阪住友海上火災保険	24,000	22.3
住友信託	20,000	45.0 ✓ ①
隆倉炭坑	10,000	38.9
華北炭坑	30,000	25.0
徳山V-夕	25,000	10.0
大井洗工業	12,000	41.7 ✓
理研金属	14,800	46.1 ✓ ②
中東電力	10,000	35.0 ✓
大青山炭坑	20,000	25.0
久保田鉄工所	63,000	9.6
九州鉄工	20,000	47.2 ✓
松尾炭坑	10,000	25.0
日本楽器	30,000	31.8 ✓
日本スチール	25,500	33.0
日本電信工業	10,000	122.2
日産産業	30,000	18.1
東洋電機	15,000	48.6 ✓ ③
安川電機	16,510	15.1

29.5%
(7,251/25)

4.

浦口製鉄	7,500	61.5
東洋管業	51,000	70.5
朝日金属精工	5,000	90.0
中華電気工業	5,000	90.0
大日本鉛業	5,000	57.2
中央汽船	4,000	50.9
朝鮮半島製鋼	6,000	50.0
密英電気工業	5,500	52.3
北九州製鉄	6,000	85.0

150

- B1 EM: Yugoslavia demands reparations from Austria
 : Gen. Clerk Chairman of 3rd Weeks work
- B2 : Polish demands on Germany
 : Greece wants reparations from Austria
 UN: Greek frontier committee enroute to Athens
 : Argentina to claim Falkland Island
- B3 EGYPT-BRI.: Pasha announces break in negotiation.
 " " : Second talks open Monday
 BURMA-BRI.: Burmese to leave for home
 " " : Agreement in offing
 BRI.-ALBANIA: UN Security council to hear issue Tues.
- B4 TURKEY-ITALY: Turkish group arrives to talk cotton

EUROPE

- C1 GERMANY: Trade Treaty with Dutch
 : French oppose use of US currency
- C2 DENMARK: 22 killed in air mishap
 POLAND: Amnesty to underground
 YUG.: Italians stripping equipment
- C3 POLAND: Election outcome of Political concern
 USSR: Federation to elect highest body
 ITALY: Yugoslav repatriation official killed
- C4 PALESTINE: Talks resumed in London
 : Arabs will resist Partition at talks
 : Terrorists kidnap British judge
- C5 EGYPT: Parliament holds secret session
 TURKEY: New York-Istanbul shipping line
 : Two-thirds of tobacco crop sold

BRITISH EMPIRE

- D1 BRITAIN: Attlee to report to Commons on Burmese talks
 : RAF to carry out Arctic experiment
- D2 INDIA: Jail releasees continue to defy ban
 : Police raid political offices
 : To hold third SE ASIA Rice Fofab
 : Nehru receives greeting from Ho
 : Nehru sends Independence Day Message
- D3 AUSTRALIA: Celebrate Nation's 159th Anniversary
 : Receives greetings on Australia Day.

各田

3.

長崎船渠	10,000	30.0
福岡銀行	25,000	28.0
日清貯蓄	20,000 10,000	23.3 24.0
日本火災海上	27,000	14.8
山口銀行	12,050	25.6
太平興業	32,000	13.0
東洋汽船	20,000	40.0
東西火災海上	25,000	15.1
博上製作所	55,000	12.5

4.

90

151

康徳不動産	5,000	100.0
日本貴金属	5,000	100.0
日本政業	7,000	86.9
高木製鉄	5,000	100.0
帝織航空機	7,000	71.4

Radio Press

MORNING EDITION

HEADLINE INDEX

JANUARY 28, 1947.

VOL. 3 NO. 698

JAPAN

A1 OCCUPATION: 9 U.S. Newsmen arrive for study.
WAR CRIMES: Defense asks for dismissal of case

CHINA

A2 MILITARY: Communist offensive spreading in Shantung
: Reds preparing attack on Pooting.
RELIEF: Arrangements completed for Air drop
A3 : Gov't sends billion dollar to Tainan
TRANSPORTATION: Rail service halted by cold weather
A4 AVIATION: Air Transport crashes near Chungking
POLITICAL: Appeal made for internal unity

SOUTHEAST ASIA

A5 TIC: Viet Nam suffer losses in Nanoi area
: Viet Nam resistance slight
: French forces said advancing
A6 INDONESIA: Agreement reached with Dutch
MALAYA: Japanese to mine coal

INTERNATIONAL

B1 RUS: Russia against participation of smaller nations
: Syria & Holland want voice in German treaty.

INDEX

continued

IND. 1

東京郵便局に掛かるニ(外務省跡)ラヂオプレス TEL(57)6.601, 7843

裏面白紙

野村

	3.	4/10	%
昭和特殊製鋼	15,000		33

	4/10	%
スベリカクシ-鉄業	5,000	63
野村製鋼	7,500	82

富士

	3.	%
三鷹物産	24,000	15
竹田産業	12,000	33
東京杵杣製作所	14,000	10
東京金工所	15,000	13
朝比奈鉄工所	15,750	9
豊和工業	40,000	5
豊和産業	15,000	6

	4.	%
大井産業	5,000	50

裏面白紙

株名	4月	%	株名	4月	%
日本製鋼	15,000	23	小倉製鐵	7,500	97
博多製鐵	10,000	12	日本高炉	5,000	99.5
東京製鐵	12,300	26			
株野本記	15,000	21.7			
東洋港工業	13,500	29			
東電工業	28,000	12			

大倉	4月	%	大倉	4月	%
千代田火災	24,000	36	山西炭鉄	8,000	50
日新電化	20,000	30	中央工業	8,000	55
汽車製造	40,000	16			
常盤炭鉄	31,500	23			
吳港運	10,000	15			

裏面白紙

品名	4月	%
✓ 旭電機工業	20,000	49.3
岡本工業	27,000	13.3
東印金庫精錬	10,000	32.5 ✓

品名	4月	%
富士炭素工業	6,000	52.5
富士電気工業	6,000	89.1
日本硝子工業	5,000	79.9

品名	4月	%
✓ 日産肥料工業	20,600	38.0
✓ 満洲重工業	675,000	1.1
日本冷機	50,000	14.0
自動車部品製造	10,000	41.0 ✓
日本白粉株式会社	10,000	20.0

品名	4月	%
✓ 東東工業	7,500	100
日東硫黄	5,000	50
✓ 朝鮮日産化学工業	5,000	100
✓ 日産木材	5,000	99
✓ 日東食糧工業	5,000	88
満洲林業	5,000	56 (修正) 以上
✓ 満洲電気	5,000	88 以上
合同興業	5,500	92
共立水産工業	6,000	50
大和水産	5,000	100
日産物産		10

品名	4月	%
協和鉄山	10,000	40.0 ✓
大陸化学工業	10,000	25.0
満洲火薬工業	14,250	14.5
日東冶金	100,000	25.0

官硝子炭酸	8,000	83.3
橋本工業	5,000	100.0

154

三井系

川崎貯米段

(1) 三〇、〇〇〇千内折上増、六〇、〇〇〇株、株主六一九

(2) 持株 日満倉庫 四〇%

三井米池 四〇、七%

(3) 川崎貯米段の三井米池の増減と日満倉庫の倉庫

とを併せ、昭三〇、三、改定、従つて役員は双方より

派遣した、但し、空費を受付日三回、目下増

減の計あり

(4) 此見は日満倉庫から

三井米の役員は、新株と増資あり

三井米の増資と一、二、又つて沢あり

外務省

裏面白紙

三井

又善石楯

(1) 六〇〇〇千円 折込五三、四六〇千円 (一三〇〇、〇〇〇株)

(2) 昭八、一、一設立

(3) 持株 三井本 三〇、三%

松村善藏 一七、二%

(昭二八、下期 株首一六一五名)

(4) 三井が重役派遣せし、調査中

外務省

裏面白紙

三井子

福島鉱業(旧、南洋アルミ工場の)

(1) 昭一三六、南洋アルミ工場の持株、為、二〇〇万円

と以て南洋、三井鉱山(日本アルミ、佐友)と

参加して出来

(2) 昭一三六、一千円内とある折込増(三〇〇〇株)

は持株用銀料として指定する

(3) 株主

三井鉱山 八一、七五〇 四〇、九〇%

南洋 七六、二五〇 三九、六〇%

東 三〇、〇〇〇 一五、〇〇%

佐友 五〇、〇〇〇 二五、〇〇%

日本アルミ 三〇、〇〇〇 一五、〇〇%

(4) 役員

1位 佐友 南洋 三井 半々 2位 佐友

三井 三井 三井 三井 三井 三井 三井 三井

外務省

裏面白紙

物産物業
大陸化居工業
臨土身居工業
上物林工業

三井物産

大日本セメント

(1) 大正八、九年度、当時一三、五〇〇千円、岩井、住友、三井の

三社が共同出資して、三井物産株式會社を設立した。

(2) 株式の 五〇、〇〇〇千円（折込三、五〇〇千円）

持株率

三井物産

一三、三%

岩井

一七、一%

住友

一四、九%

他社

一四、四%

日本セメント

三、七八%

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

(3) 人事は設立当初岩井、加中、住友、三井、岩井、

住友、岩井、加中、住友、三井、岩井、住友、岩井、

住友、岩井、加中、住友、三井、岩井、住友、岩井、

住友、岩井、加中、住友、三井、岩井、住友、岩井、

裏面白紙

巨款

日本電地

(1) 大正六年一月設立、公積金、約10,000千円 (100,000株)
株主六八一名 (昭二、三末)

(2) 積立金 一三九、四四千円 外印支債 五、六一〇千円

(3) 役員 (昭二、三末現在)

社長 山田景範

常務 内崎新次

取 内貴晴兵衛

西井高介

古橋晃彰

三沢哲二

島津常三郎

島津恒吉

大倉恒吉

村上恒

外務省

裏面白紙

(4) 株主 (十九年三月末、六八五名)

三菱物産	五七、一三〇	一四、二%
〃 東京	五七、〇三〇	一四、二%
大倉物産	二七、五二八	六、八%
		二八、二%

外務省

裏面白紙

池田自動車

(1)	昭一六六、設立、分府一五〇〇、年(三〇〇、〇〇〇株)
(2)	株主数(昭二〇、一〇〇株) 二六八二
(3)	積立金八〇、千円 外部負債三六、千円
(4)	役員(昭二〇、一〇〇現在)
会長	池田庄吉郎
理事	池田三郎
理事	池田俊次
理事	池田三郎
理事	池田俊次
理事	今井武雄
理事	千原田吉
理事	田原良一
理事	戸塚隆吉

裏面白紙

例 梓之 一版一丸、木取花 二、九八三丸

庄の 庚辰歴定興年 四六、九五〇 一六、六〇

夏子製細 四三、九九〇 一四、六〇

地界鉄正所 一六、八一〇 四、二〇

外 務 省

裏面白紙

住友

藤倉電氣

(1) 10,000 株 100,000 株

(2) 持株 住友電工 38.9% 2. 財團 新生資機協會 18.0%

3. 記見 松本 5.1% 4. 財團 7.0% 5. 財團 6.6%

(3) 創立明治41年、明治43年三株式田成す。

大正九年十二月より資本改組す生即、従来之住友

銀行と連合金庫の取引先ありしが備前電機

非常勤取締役を任じ、其の時事業法

の資金を住友電工から獲得した、明文には

口頭契約により、常任重役を送らぬ、2. 屋敷方針

には干渉しないことと条件とし、その旨平取

後一紙、また別に監査役一紙が作成すべし

と。

裏面白紙

印打至

限私特殊製鋼

(1) 昭和十二年五月設立

(2) 資本金 一、五〇〇、〇〇〇円

株主 一、五〇〇名

積立 二、五七〇千円
外債 二、九、五七九千円

(3) 株主 三十八名

(4) 会長 棚橋虎太郎、日本カーボンを社長、

取締役 伏見隆一、三友の發起人、棚橋

正三郎、佐野、大塚、池田、角

印打と知合の間に印打の技術あり

専務 木村下茂、加印村弘、若原の兄弟あり

七、八、九、人の関係あり（森下は其の半と

り引換て五年以上在職）

(5) 印打至持株

外務省

裏面白紙

即打象

昭和特殊製鋼 補足

(1) 昭和十六年、鏡映舎佐即、日東カーボンを有りと柳倉、この内うまう行の市一何れに幾起人(大株主)、地庫側の幹旋の目前二省の株を即村系に譲渡した、(吉野物庫の指定工場)ニ即村より内保器生し、堤一之加派遣重役とし、取神役となつた、(堤即村名も常務、即村産産社長)と一、出陣中退取、目下は監査役を専らとし、ある、

(2) 経歴的経歴

令長	柳村寅吉(工務)	取	西陽村三郎
評長	立山重記(米口常朝) の技師	"	大塚寛水
専	森下 友 (大野が湯男) 十三支社長	"	堤 一之
常	飯塚 政徳	"	山本 勇
		"	廣田 尚一

裏面白紙

即打生序	一五〇%
" 谷永	一〇〇%
" 延慶堂	七五〇%
" 福永	一〇〇%
其の他	一〇〇%
立山重記	一一二〇%
多 棚物虎印	九七〇%
三菱商	五三〇%
野田金平金源	三〇〇%
常陸 沼城地院	二八〇%
(一 既 既 役 役 各 各 係 報) 外 務 省	

五三〇%

裏面白紙

大倉子

日新麗化(田部口マシネンウ)

(1) 今利 三〇、〇〇〇 (お上情)

(2) 東北興業 四四、二五%

大倉鉄業 二六、五%

鉄興業 五、五%

(3) 本利は東北興業の子会社として追加分帳に扱

定次中七〇、(勅令別表三ノ七)

(4) 大倉鉄業のマシネンウの中と東北麗化の工業

正号に似て以十八年四月創設

外務省

裏面白紙

送在公帳
受出書

2

富士系

竹田産業 (旧名、大佐航空工業)

(1) 持株 富士産業 三七% 2,33%

其の他証券 一六%

現金 行用儀 一〇%

(2) 創立昭和十四年三月、富士産業(中島航空

機)の詳情、見大田工場、協力工場と一、設立、

当初富士系六、〇〇〇株、現在、四、六、〇〇株

(3) 今般一六、〇〇〇股、出八、七、〇〇股

外印負債、六、三、三、七、〇〇股

(4) 株主 二二〇名

(5) 中島乙未平 (富士産業の社長) 加 取締役

27 出 7 七

外 務 省

裏面白紙

安田家

①長符紙

(1) 昭和三十六年設立

(2) 当初八、〇〇〇千円 現在一〇、〇〇〇千円 増上済

(3) 珠野子 日本鋼管に設立してその資力が、その際、援助を請はれ、投資して、従って人の

心も重役を派遣して、事業を保守し

(4) 増資額 二〇、〇〇〇千円

安田保美社 六〇、〇〇〇 三〇%

日本鋼管 六六、六〇〇 三四・八%

東亜信託 六六、四〇〇 三四・七%

外務省

裏面白紙

寄附金

東洋汽船

(1) 明治二十九年、三、三、三、三

(2) 当初六、五、〇、〇、千円現在

(3) 昭和十五年保善社より寄附銀の所有了二二、

二九〇株を借替りし、内保の寄附、以て此見以下

重役の送る、事業の保

(4) 増持券 四〇〇、〇〇〇株

寄附金	東洋汽船	明治二十九年、三、三、三、三	当初六、五、〇、〇、千円現在	昭和十五年保善社より寄附銀の所有了二二、	二九〇株を借替りし、内保の寄附、以て此見以下	重役の送る、事業の保	増持券 四〇〇、〇〇〇株	寄附一家	一、〇〇五	〇、二%
保善社		三、六、六、六						保善社	一、〇七、七、九七	八、九%
銀行		三、五、九、九						銀行	二、六、九、九	二、六、九%
債権		七、三、一、九						債権	〇、八、八	〇、八%
生命								生命	一、八、八	一、八%
								計	四、一、三	

外 務 省

裏面白紙

安田火災	六、三九	二、三%
積圓銀行	六、六六	〇、四%
其他	二九、〇〇	七、二%
大伴興業	二八、三九	七、〇%
山下汽船	二、九二	五、四%
大石海上	一、〇〇	三、〇%
栗林商船		

外務省

裏面白紙

佐友子

中東電気

在在株式

川

(1) 昭八、四、船倉井増産に不可欠の輸送用電気装置
 製造の七、日本電気(佐友子通信工業、川崎船倉井、
 小糸製作所)三社の資本的技術的協力により設立、
 工場は東洋市の愛知工場を建設し、七八、二、七、の増産が
 の資本参加を求めた、又大口販賣先として扶桑金庫
 に参加せしめたが、業績は不振とあり。

(2) 合称、お七 一〇、〇〇〇千円 二〇、〇〇〇株

日本電気	二五%
扶桑金庫	一〇%
川崎船倉井	二五%
小糸製作所	二五%
東洋物産	一五%

裏面白紙

(3) 役員

社長 日本麗文社社長 佐伯長生 (最近追加)

副社長 山本健藏 (東洋所副所長)

理事 佐伯長生 (日本麗文社長)

副理事 東條壽

常務理事 安井規矩男 (文任及全社役員)

理事 安井規矩男

常務理事 坂部定

取締役 小糸源太郎 (小糸製作所副所長)

取締役 山本健藏 (東洋所副所長)

取締役 山本健藏

裏面白紙

以臺灣國貨
原料也

古河系	東邦金為精練	(1) 10,000 千円 北七崎 (20,000 糖)	古河霞工	二六二五%	
		(2) 持株率	向東工業	一〇、〇〇%	↓ 糖興業
			大日本製糖	一〇、〇〇%	
			蘇格蘭社 四共	五〇〇%	
			台灣電力	二六五%	(台灣國貨率 共 〇)
			毒日初左印		
		(3) 昭一三七没空	糖台博のニツヒ精練		

裏面白紙

古抄子

大谷興業(旧大谷重工業)

(1) 一三、〇〇〇千円 折込一〇、一三〇〇千円

(2) 持株率

古抄重工業 一三、八 %

大谷米太郎 三六、〇八

アキヒラ 一八、三一

コト吉 一三、六八

米一 一三、六七

八、六六 %

32.5 %
11.98 % + 4

(3) 鉄鋼業は大谷家の事業、大谷興業は逆ら古抄重工業株七一三、六八 % 所有し一〇〇

外務省

裏面白紙

(B)

古河電工

満洲電流 (在満洲)

(1) 四〇、〇〇〇千円 折上 二五、〇〇〇千円

(2) 持株率

古河電工 二五%

住友電工 二五%

東京電流 一六%

日立製作所 一四%

日本電極

(1) 持株率

古河電工

日本電極 五〇%

昭和電極 五〇%

昭和電極 昭和十一年上期
今度 三〇、〇〇〇千円
持株 二六、五〇〇千円
梅田 八、〇〇〇千円
大谷 一、五〇〇千円
田中 一、〇〇〇千円
田中 一、〇〇〇千円
田中 一、〇〇〇千円

裏面白紙

A.

口	長	大	城	島	柳	高	窪	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山

長崎 一八
別表
別表

外務省

裏面白紙

27/9(2)
 → Comm. Haway

Representations concerning apparatus
 of the September Government etc.

1. The number of apparatuses...
 as follows: 293 apparatuses...
 as follows: 293 apparatuses...

Table 1.

	Apparatus	No. of...	Total
...	24	33	27
...	1	1	2
...	15	15	...
...	7	7	4
...	2	2	...
...	1	1	...
...	4	4	...
...	4	4	...
...	5	5	...
...	5	5	...

The number of apparatuses...
 as follows: 293 apparatuses...
 as follows: 293 apparatuses...

Appendix

裏面白紙

... by the ... of ... in ... by ...
 ... of ... from ... and ...
 ... of ... in ...
 ... of ... in ...
 ... of ... in ...
 ... of ... in ...
 ... of ... in ...
 ... of ... in ...
 ... of ... in ...
 ... of ... in ...
 ... of ... in ...
 ... of ... in ...

Table 2.

	Number of companies with capitalization exceeding 10,000 yans and majority of whose stocks are owned by the State in 1936.	Number of companies with capitalization exceeding 10,000 yans and majority of whose stocks are owned by the State in 1937.	Number of companies with capitalization exceeding 10,000 yans and majority of whose stocks are owned by the State in 1938.
Textile	42	35	47
Chemical	21	19	23
Machinery	20	7	22
Iron and steel	6	5	41
Electric	2	3	20
Transport	3	5	71
Finance	5	2	21
Other	6	3	34
Total	105	89	249
Total	37	1	25

裏面白紙

裏面白紙

2. [The text is extremely faint and mostly illegible due to the quality of the scan. It appears to be a list or a series of paragraphs describing organizational structures and control mechanisms. Key words that are somewhat discernible include: "investigation", "control", "company", "officials", "approval", "group", "personnel", "administration", "actual control", "exercised", "reference", "principal officials", "prior to the formal appointment of such officials".]

The result of this work is shown in the following table.

TABLE 3.

	Companies with capitalization of 10,000,000 yen and the majority of whose stocks are owned by the Zaibatsu combine			Those not listed in the Appendices
		Appendix I	Appendix II	
MITSUI	45	16	18	11
MITSUBISHI	21	10	10	1
SUMITOMO	20	12	8	0
YASUDA	6	3	3	0
NOMURA	9	2	7	0
FUJI	5	2	3	0
ASANO	5	2	1	1
OKURA	6	4	2	0
FURUKAWA	10	1	9	0
NISSAN	37	4	33	0

The reasons why they were not listed in the Appendices are indicated below with each case.

A. MITSUI combine.

(a) DAI ICHI SHINTAKU K.K. (The First Trust Co Ltd.) --- the subject company, although it has been defined as subsidiary company of the TEI KOKU Bank, had been originally one of affiliates of the former DAI ICHI Bank. As the DAI ICHI Bank, has been incorporated with the former MITSUI Bank into the present TEI KOKU Bank which in spite of its clear independence from the control of the Mitsui combine, has been designated, because of its slight connection with the Mitsui, as the restricted concerns belonging to the Mitsui combine, the subject company has become nominally its subsidiary company. Therefore, viewed either from the personnel set-up or from the business relation, any Mitsui colour can, in no way, be found with the subject company.

b.

裏
面
白
紙

- (b) CHOSEN ONODA CEMENT K.K. (The Korean Onoda Cement Co.Ltd.)
- MANSHU ONODA CEMENT K.K. (The Manchurian " " ")
- HARBIN ONODA CEMENT K.K. (The Harbin " " ")

The three subject companies are affiliates of the Onoda Cement Co. Fundamentally speaking, the Onoda Cement Co. was established by the local business leaders and its connection with the Mitsui combine was not of permanent nature based upon stock holding but of purely daily business nature that its products were chiefly handled by the Mitsui Bussan K.K. Accordingly, these subject companies which have nominal connection with the Mitsui combine only through their status of being affiliates of the Onoda Cement Co., are never subject to the control of the Mitsui combine.

- (c) AICHI KOGYO K.K. (The Aichi Industrial Co.Ltd.)

The subject company is an affiliate of the Toyoda Automobile Co. However the Toyoda Automobile Co. itself, although it has been designated as the restricted concern belonging to the Mitsui because the latter has owned a part of its stocks, forms an independent combine separate from the Mitsui. Therefore the subject company, having no connection whatever, should not be considered as belonging to the Mitsui combine.

- (d) NIPPON SEIEN KAGAKU K.K. (Japan Salt Chemistry Co.Ltd.)
- MANNICHI AMA BOSHOKU K.K. (Manchuria-Japan Flax Spinning Co. Ltd.)
- NICHIMAW BOMA K.K. (Japan-Manchuria Flax Spinning Co.Ltd.)

The three companies above are affiliates of the NIPPON SENI K.K. (Japan Fibre Co.Ltd.) which have had no close connection with the Mitsui, except the fact that it had business connection with the Mitsui Bussan K.K. for a short period after its establishment. Therefore the subject companies should not be considered as

as belonging to the Mitsui.

e. KOROBEGAWA DENRYOKU K.K. (Kurobegawa Electric Power Co.Ltd.)

The subject company has been affiliated with the DENKI KOGYO K.K. whose connection with the Mitsui combine is very slight in stock-holding as well as in its personnel set-up. Therefore the subject company was not listed up.

f. TOHOKU DENKI SEITETSU K.K. (North-Eastern Electric Iron Mfg. Co.Ltd.)

The subject company was established under the sponsor of the Tohoku Kogyo K.K. and the Denki Kagaku K.K. which is an affiliate of the Mitsui combine extended its technical assistance to it. The management was exclusively controlled by the former company. Therefore it should not be considered as belonging to the Mitsui combine.

g. TSURUMI SODA K.K. (Tsurumi Soda Co.Ltd.)

Viewed from the stock-holding, the subject company is an affiliate of the Toa Gosei Kagaku Co. which, in its turn, is subject to the Mitsui Kagaku Kogyo Co. However, the relation of the subject company with the Mitsui combine being so remote as being substantially negligible that it was not listed in the Appendix.

B. MITSUBISHI combine.

a. NANMAN KASEI K.K. (South Manchurian Chemical Ind. Co.Ltd.)

The subject company was chiefly planned and established by the South Manchurian Railways Co. The Mitsubishi offered only the

裏
面
白
紙

the technical assistance without participating in its management. Accordingly the subject company should be considered as belonging to the South Manchurian Railways Co., not to the Mitsubishi. C. ASANO combine.

(a) NIPPON CHUZO K.K. (Japan Casting Co.Ltd.)

TERKO SHOKEN K.K. (Steel Securities Co.Ltd.)

The above two companies which are affiliates of the Nippon Kokan K.K., has no direct connection with the Asano combine regarding their capitalization as well as their personnel set-up.

Moreover, the Nippon Kokan K.K. itself being only slightly connected with the Asano combine, we deleted the two subject companies from the preliminary list.

裏
面
白
紙

3. Generally the selected companies the amount of whose stocks owned by the Zaibatsu combine (including the Zaibatsu itself, holding the company and other companies which are subject to the same Zaibatsu combine) exceed 10,000,000 yen is their face-value. This standard of selection was based upon the considerations that should the absolute amount of investment be considerably big, the contributing power of the company for formation of the Zaibatsu combine could consequently be remarkable. Therefore, even if the Zaibatsu combine may not occupy the majority of the stocks, they would concern deeply with the management of such companies and tend to intend to control them. In view of these considerations, we selected such companies and classified into the Appendices I and II as indicated in the following table.

TABULAR

	Number of companies in which Zaibatsu invested exceeding 10,000,000 yen	Appendix I	Appendix II	Number of companies not listed in the Appendices
DAIICHI	14	4	7	3
MITSUBISHI	10	2	2	0
SUMITOMO	7	4	3	0
YASUDA	5	1	2	2
HOEJIMA	0	0	0	0
FUJII	0	0	0	0
ASAHI	2	1	1	0
DAIWA	1	0	0	1
FURUKAWA	5	1	2	2
NISSAN	7	1	0	0

Specific

裏面白紙

Specific reasons why each company was delisted from the Black List are given below.

4. MITSUI combine

(a) TOYODA JIDOSHU K.K. (Toyoda Automobiles Co. Ltd.)

The Mitsui combine has obtained a part of its stocks since 1939 and personnel connection has never existed. The subject company has been managed completely independently from the influence of the Mitsui combine, forming a separate combine by itself.

(b) TOYO SEKIYU K.K. (Toyo Petroleum Co. Ltd.)

The subject company has started as a private company of "MITSUBISHI", a petroleum dealer, and, in 1942, has been amalgamated with the Toyo Sekiyu K.K. (Toyo Petroleum Co.) which has been an affiliate of the Mitsui combine. As the result of the amalgamation the Mitsui combine has obtained a part of its stocks. Therefore, substantially, the subject company has nothing to do with the Mitsui combine.

(c) KAWASAKI-PIRO K.K. (Kawasaki Piro Co. Ltd.)

The subject company was established in March 1945 by amalgamation under the "Article contract ordinance", of the Kawasaki Harbour Office of the Mitsui Bussan K.K. and the Kawasaki Harbour Office of the Nichinan Seno K.K. (Japan-Landmark Warehouse Co. Ltd.) affiliated with the Fenchu-ten Heavy Industries Co. The subject company, however, has been managed by the officials and personnel who had taken, so far, charge of both offices. Therefore, it should be considered as a part of the Mitsui Bussan K.K.

YASUDA

裏
面
白
紙

F. YASUDA combine.

a) NIPPON SEIKO K.K. (Japan Precision Co. Ltd.)

The Yasuda Bank has obtained stocks of the subject company as security for its loan. Therefore, the Yasuda combine has never participated in its management.

b) NIPPON SAVER'S BANK (Japan Savers Bank)

The subject bank was established under the sponsorship of the Ministry of Finance, incorporating nine savings banks including the Japan Yasuda Savers Bank. Therefore, though the Yasuda combine has obtained its stocks as a result of the amalgamation, the management of the subject bank has completely kept under the control of the Ministry of Finance. The Yasuda combine did not take part therein.

G. CHINA combine

a) SANSUI-INDUSTRY K.K. (Sansui Industries Co. Ltd.)

The largest stockholder of this company is the North China Development Co. (45.2%) and Chua Joryo K.K. and other eleven companies participated in it in order only to take technical charge of different factories so far built up by the Chinese authorities. Therefore the subject company should be considered as an affiliate of the North China Development Co. Ltd.

D. FURUKAWA combine.

a) MANCHU DENSO K.K. (Manchurian Electric Wire Co. Ltd.)

The subject company was established by joint sponsorship of the Furukawa Denko K.K., Sumitomo Denko K.K. and five other companies. Therefore it cannot be considered as the affiliate of the Furukawa combine.

b) OKAMI HEAVY INDUSTRIES K.K. (Okami Heavy Industries Co. Ltd.)

The subject company is a private enterprise of Mr. [Name] who
has specialized in the steel business and to [Name] of the
whole stock. The [Name] company has invested in the [Name]
[Name] for the sole purpose of obtaining [Name] without [Name]
[Name] [Name] to the management of the subject company.

裏
面
白
紙

裏面白紙

4. Finally, a list of names of companies which are not listed on the attached list No. 1 and No. 2, but which are included in the list of companies of the Embassy.

The attached list of names of companies is a list of the companies in the companies, as defined in the attached list, which has participated only financially as a subject of business in the past, or which is set to do so, and which is included in the list.

(1) Finally, a list of names of companies, the names of which are listed in the attached list, and the names of which are listed in the attached list, as follows:

	Capital more than ¥10,000,000. Percentage stock-holding less than 20%	Attached list No. 1	Attached list No. 2	Companies not listed on the attached lists No. 1 and No. 2.
MIYAZAKI	27 (5)	1	3	23 (4)
MIYAZAKI	19 (6)	0	0	17 (4)
MIYAZAKI	19 (9)	1	5	13 (6)
YAMAGUCHI	9 (2)	0	1	8 (1)
YAMAGUCHI	1 (1)	0	0	1 (1)
YAMAGUCHI	7 (1)	0	0	7 (1)
				ABAND

SHANGHAI	2	0	0	0
CHINA	7 (2)	0	1	4 (1)
INDIA	3 (2)	0	1	2 (1)
OTHER	5 (1)	1	2	4

Notes: Figures in parenthesis show the number of copies of these stock-holding proceedings by the subject entities in Hong Kong and Singapore.

The above are the subsidiaries of the subject entities. In Hong Kong, which is a place of incorporation, they are not to be placed in the Superfund, as companies are not entities and are not subject to the provisions of the Ordinance.

A. Other entities:

a. SHANGHAI PHOTO FILM CO., LTD. (The company is a subsidiary of the subject entity.)

The company was organized under the laws of the P.R.C. and is a wholly owned subsidiary of the subject entity. The company has fully completed the registration of securities, while the subject entity has participated only in the financial field. Accordingly, this company should be regarded as the one affiliated with the subject entity (SHANGHAI combine), not of the subject entity.

b. FUJI PHOTO FILM CO., LTD. (The Fuji Photo Film Co., Ltd.)

The company is a subsidiary company of the subject entity, established under the laws of Japan. It is a joint investment of the subject entity and the subject entity, with the subject entity, which has been established under the laws of Japan.

continued

裏面白紙

1. The first part of the report...

2. The second part of the report...

3. The third part of the report...

4. The fourth part of the report

5. The fifth part of the report...

6. The sixth part of the report...

7. The seventh part of the report...

XXXX

裏面白紙

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

C. Chugyo Gakko
CHUKYO
... ..

... ..

裏面白紙

... of
... ..
... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

...

裏面白紙

1. *Shanghai* (1911) ...
 2. *Shanghai* (1911) ...
 3. *Shanghai* (1911) ...
 4. *Shanghai* (1911) ...
 5. *Shanghai* (1911) ...
 6. *Shanghai* (1911) ...
 7. *Shanghai* (1911) ...
 8. *Shanghai* (1911) ...
 9. *Shanghai* (1911) ...
 10. *Shanghai* (1911) ...

(2) Secondly, with reference to the companies with the capitaliza-
 tion not exceeding 10,000,000 yen, important companies,
 particularly financial institutions, which have undoubtedly
 been subject to strong control of the zaibatsu combine and
 have contributed prominently for the zaibatsu have also been
 selected and listed up, as enumerated below, in the Appendices
 I and II. In this connection, it may be added that parti-
 cularly deep considerations have been paid to suggestions
 made, in the course of preliminary talks, by Miss Dudley.

	Capital not more than 10,000,000 yen	Capital not more than 5,000,000 yen	attached list No. 1	attached list No. 2
Fubai	61	29	3	2
Fububishi	33	14	0	6
Sumitomo	23	8	1	4
Yamato	21	6	1	3
Hokuriku	10	7	0	0
Fuji	29	49	0	0
Asahi	8	0	1	2
Shimizu	22	10	0	2
Furukawa	19	10	0	1
Chiba	46	32	0	6

A. The Nitsei Combine

YAMATO TANKO K.K.
 (Yamato Coal-Mine Co. Ltd.)

NITSEI

裏
面
白
紙

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

directly affiliated with
Mitsubishi

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

directly affiliated with
Mitsubishi

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

directly affiliated with
Mitsubishi

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

3. Mitsubishi Combine

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

a subsidiary affiliate of
the Mitsubishi combine as
a subsidiary company of the
Mitsubishi Chemical Ind. Co.

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

designated affiliate of
the Mitsubishi combine as
a subsidiary company of the
Mitsubishi Chemical Ind. Co.

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

SHANGHAI YANBISHI S. S. Co.
(Shanghai Yanbishi S. S. Co. Ltd.)

quasi-direct affiliate of
the Mitsubishi as a sub-
sidiary company of the
Mitsubishi Chemical Ind. Co.

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

4. Taito Combine

YANG KWANG S. S. Co.
(Yang Kwang S. S. Co. Ltd.)

裏
面
白
紙

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY
INCORPORATED IN DENMARK
COPENHAGEN DENMARK

THE EAST ASIATIC COMPANY

CHANG HONG CHANG, P. I.
(Chang Hong Chang, P. I.)

CHANG HONG CHANG, P. I.

CHANG HONG CHANG, P. I.
(Chang Hong Chang, P. I.)

CHANG HONG CHANG, P. I.
(Chang Hong Chang, P. I.)

CHANG HONG CHANG, P. I.
(Chang Hong Chang, P. I.)

CHANG HONG CHANG, P. I.
(Chang Hong Chang, P. I.)

CHANG HONG CHANG, P. I.
(Chang Hong Chang, P. I.)

CHANG HONG CHANG, P. I.
(Chang Hong Chang, P. I.)

裏
面
白
紙

財閥関係者の財閥関係会社からの排除に関する件

日時 九月二十七日

場所 G.S

出席者 ハッレー中佐

山田部長、藤村課長、脇村教授

須之部事務官

外務省

裏面白紙

本件に関し九月二十七日午前十一時中ハッレー氏を往
訪時間か僅少なりし爲 詳細なるデスカッションは行へ
なかつたが概収左の通り

一 先づハッレー氏より財閥関係會社（別表記載の
會社）の選定方針に關しその他財閥の形成に大いに
寄與せる會社と云ふ條項なる書き方をせうかし
包括的にしこれ自体独立して実質標準による

裏面白紙

會社を選擇決定し得るものにして欲しい。

二、本条を實施する機關の詳細を明示されたい又

本条の序及者を記述する手續につき具體的に説

明されたい。これは恐らく換事總長の如きものが

あらう。本条實施條項に首文を認め立案して

欲しい。

三、關係の法律條を至急提示して欲しい。これは

外務省

裏面白紙

ポツダラ政令でも差し支なく奉る方がよい
のではないかと思ふ

四、日本政府案に對する自命の意見は月曜
（九）月二十九日までに準備出来ると思ふ

外務省

裏面白紙

裏面白紙

Article 10 (1) of the Copyright Act of 1907 (No. 47)
and the provisions of the Copyright Act of 1912 (No. 47)
shall apply to the reproduction of the work in this case.

Article 10 (2) of the Copyright Act of 1907 (No. 47)
and the provisions of the Copyright Act of 1912 (No. 47)
shall apply to the reproduction of the work in this case.

Article 10 (3) of the Copyright Act of 1907 (No. 47)
and the provisions of the Copyright Act of 1912 (No. 47)
shall apply to the reproduction of the work in this case.

Article 10 (4) of the Copyright Act of 1907 (No. 47)
and the provisions of the Copyright Act of 1912 (No. 47)
shall apply to the reproduction of the work in this case.

Article 10 (5) of the Copyright Act of 1907 (No. 47)
and the provisions of the Copyright Act of 1912 (No. 47)
shall apply to the reproduction of the work in this case.

Article 10 (6) of the Copyright Act of 1907 (No. 47)
and the provisions of the Copyright Act of 1912 (No. 47)
shall apply to the reproduction of the work in this case.

Article 10 (7) of the Copyright Act of 1907 (No. 47)
and the provisions of the Copyright Act of 1912 (No. 47)
shall apply to the reproduction of the work in this case.

Article 6. The committee shall have the right to request the Government to supply information.

In case the Government refuses to supply information requested by the committee, the committee shall not vote in the final decision. The committee shall also have the right to request the Government to supply information.

The committee shall be composed of members appointed by the Prime Minister.

Article 7. A quorum of two members shall be required for the committee to conduct its business.

The final decision of the committee shall be given in writing to the Government.

In the event of a tie, the chairman shall cast the deciding vote. The chairman, members and temporary auditors shall not be public nor disclose any information concerning the committee to the official sources of the Government.

Article 8. The committee shall have the right to request the Government to supply information.

Article 10. The procedure for the committee shall be determined by the chairman.

裏
面
白
紙

30/4(K)

Comm. Bussey

Cabinet Order No. 10 of 1947 (Draft)

Article 1. The purpose of this Cabinet Order is to regulate the appointment and removal of persons to and from the positions of officials in companies incorporated under the Zaibatsu Law.

Article 17. The object of this Cabinet Order is to regulate personnel the names of which are to be included in the application and memoranda of the Zaibatsu enterprises, to spread widely in economic circles the persons who have been connected with the Zaibatsu, and thereby to promote the sound development of the Japanese economy on the democratic basis.

Article 2(1). The term "designated person" as used in this Cabinet Order shall mean persons who have been designated under the provisions of Article 1, Paragraph 1, of the Holding Company Identification Ordinance.

The term "officials" as used in this Cabinet Order shall mean, and include persons who hold positions of directors (TOAOKIYAKU YAKU) staff members with executive responsibility (GOUJI SHIKKO SHAIN), auditors (KAKESHAKU), advisers (KONSEI) or counselors (SODAN YAKU), or who hold any other positions which, regardless of their titles, exercise authority or influence commensurate with or surpassing those of any of the positions specified above.

(3) The term "principal officials" as used in this Cabinet Order shall mean officials of companies who hold positions of Chairmen (KAIGYO), Vice-Chairmen (FUJO KAIGYO), Presidents (SHACHO), Vice-Presidents (FUJI SHACHO), Managing Directors (GEMAN FUKUSAI JIKI YAKU) or Executive Directors (JOKU KOSHU KAKUSHAKU), staff members with executive

裏面白紙

affiliated

executive, responsible, (JOINT LAW & ORDER), or auditors
(KAMA Z.A.C), or any other person, guardian of the rights
of the company, or any other person, guardian of the rights
of the company, or any other person, guardian of the rights
of the company, or any other person, guardian of the rights

The term "Zaipetsu" companies and the companies mentioned
as used in this Cabinet Order shall be the same as, and cover all
companies as provided for in Article 1 of the Special Ordinance
No. 567 of 1946 (the special ordinance relating to restrictions
etc. on securities holder of companies.)

The term "Zaipetsu" as used in this Cabinet Order shall
mean persons, who, until having been designated as the "designated
persons" on the date of enforcement of this Cabinet Order, belong
to the same line of family as classified by the Police Minister
according to relations between registered persons by blood, marriage
or other facts equivalent to same.

The term "Zaipetsu company" shall mean juridical persons or other
organizations designated by the Police Minister as being

- (a) companies whose capitalization on September 2, 1945, exceeded
¥10,000,000 and the majority of whose shares were controlled directly
or indirectly by one and same Zaitaku; (b) companies in which
the face value of stocks controlled directly or indirectly by the
one and same Zaitaku exceeded ¥10,000,000; and (c) persons which
have substantially contributed for the formation or maintenance of
Zaitaku enterprises or which have served as infiltration agencies
through which the Zaitaku exercised its economic controlling
influence.

Zaitaku

裏面白紙

裏
面
白
紙

Zaibans controlled or presided in the preceding paragraph
shall be classified as direct Zaibans or indirect Zaibans and shall be
direct Zaibans or indirect Zaibans. The classification shall be determined
by the Prime Minister.

In the case where the capitalization of the company this year
does not exceed the amount of the capitalization of the preceding year, exceeds
only the capitalization of the company in the preceding year after
amalgamation or absorption of another company, or where a
company was established as a result of the merger of two or more
of an existing company, or where the amount of capitalization
ascribed to an existing company on the occasion of capital
increase of another company exceeds/ or the amount of such
newly established company or of company which has increased its
capital, the company which consisted in existence after amal-
gamation, or which has been established through amalgamation, or
which has been newly established, shall, in the application
of this Article order, be regarded as those which have become
extinct as a result of the amalgamation, or which have subscribed
capitalization of the new companies.

Article 3(1) Any persons who were in the same family census re-
gister (in register called the person entered in the same
family register) on the day of the designation of the designated
persons as such who hold, at present, the positions of officials
in the Zaibans, companies or restricted companies as designated
by the Prime Minister, or of officials in their subsidiary or
connected companies which have been defined as such at the time of

the

... and all of this Cabinet Order shall forfeit all the positions of any official, principal officer or member of the present or past of such order. In this case, the positions of executive staff members shall become vacant or unqualified liability without exception.

(2) Any persons on whom the present Cabinet Order shall be excluded hereafter from the positions of officials of the aforementioned companies for ten years from the date of enforcement of the present Cabinet Order.

(3) The provisions of article 23, Paragraph 1 of the Commercial Law (including cases to which the present provisions be radically correspondingly) shall not be applied to any case in which persons entered in the same family register have retired from the positions of officials of the said companies or concerns due to their resignation or expiration of their term of office.

Article 4d Any persons who, prior to September 2, 1945, held any of the positions of officials in any of the direct Zaibatsu affiliates or any of positions of principal officers in any of the quasi-direct Zaibatsu affiliates, who, at the time of the enforcement of this Cabinet Order, hold a position of official in any of the Zaibatsu companies, or restricted companies designated as belonging to the one and same Zaibatsu, or in any of their subsidiary or connected companies, which have been defined ^{as such} on the case of the enforcement of this Cabinet Order, shall forfeit their positions on the thirty-first day from the date of the enforcement

裏面白紙

裏
面
白
紙

or it is Contract Order.

(11) In the case prescribed in the preceding paragraph, the provisions of the latter part of the paragraph 1 and of the paragraph 2 of the present Article shall be applied correspondingly.

(12) Any person prescribed in the paragraph 1 above shall, for ten years from the date of enforcement of this Contract Order, be excluded hereafter from the position of official in the Zaibatsu or in the direct or indirect company designated as belonging to the same Zaibatsu or in any of their subsidiary or connected companies which have been defined as such on the date of the enforcement of this Contract Order.

(13) With reference to persons prescribed in the paragraph 1 above, the Prime Minister may, in case he deems that there is good cause to do so, under any one of the following items, exempt, in accordance with regulations laid down by the Prime Minister, such person, at his request, from the application of the provisions of the preceding three paragraphs, based upon the result of investigations conducted by the Zaibatsu Officials Screening Committee:-

1. That the direct Zaibatsu affiliate or the quasi-direct Zaibatsu affiliate where he served, as official or principal official, has not been subject to the control of the Zaibatsu of the one and same lineage or any Zaibatsu company designated as belonging to the same Zaibatsu.
2. That the tenure of office as official of the subject person has

has never had as its purpose to represent the interests of the
Zaibatsu or the one and same lineage or any Zaibatsu company
designated as belonging to the same Zaibatsu.

Article 2 Any persons who held, prior to 2 September 1945,
position of officials, other than principal officials, in quasi-
direct Zaibatsu affiliates who hold, at the time of the enforce-
ment of this Cabinet Order, any of the positions or offices in
any of the Zaibatsu companies or affiliated companies designated
as belonging to the one and same Zaibatsu, or in any of their
subsidiary or connected companies defined as such at the time
of the enforcement of this Cabinet Order, shall, in case they
intend to resume in their posts continuously, file an application
for approval hereafter, in accordance with what is laid down
by the Prime Minister, within thirty days from the day of the
enforcement of this Cabinet Order.

(2) In case any person is so employed in the preceding Paragraph,
he may apply for approval as provided for by the said Paragraph,
or in case such applications be not approved by the Prime Minister
as provided in the said Paragraph, any such persons, respectively
such officials, shall, first day from the day of the enforce-
ment of this Cabinet Order to the latter case, and on the first
first day after the receipt of the notice of disapproval in the
latter.

(3) Any person mentioned in Paragraph 1 above, in case he, in
to newly assume position of officials, within ten years from the
day of the enforcement of this Cabinet Order, in any Zaibatsu
company or any affiliated company designated as belonging to the
one and same Zaibatsu ^{or in their} subsidiary or connected company defined as
such

裏
面
白
紙

such as the way of the enforcement of this Cabinet Order, shall submit an application in writing for approval in accordance with rules laid down by the Prime Minister.

4) The Prime Minister, upon receipt of the application as mentioned in paragraph 1 of the preceding subsection, shall, based upon results of investigation of the Zaibatsu Official Screening Committee, take action either of approval or of disapproval of such application.

5) In the above case, in case any persons as mentioned in paragraph 1 above shall enter any one of the items of paragraph 4 of the preceding Article, the Prime Minister shall approve the application of such persons.

6) Besides the above case, applications shall be approved in case the subject person satisfied all of the following items:

1. That the applicant is not a spouse, parent, child, brother, or sister of any Zaibatsu, or person entered in the Official Register or his or her spouse; and,
2. That the applicant had not, prior to ²/₁ October, 1945, held positions of officials other than principal officials in any quasi-direct Zaibatsu affiliates for the term exceeding three years; and,
3. That the applicant had not, prior to September 2, 1945, held concurrently two or more positions of officials other than principal officials in any quasi-direct Zaibatsu companies; and,
4. That the applicant had not taken any active part in any formation or maintenance of the enterprise of the Zaibatsu.

裏
面
白
紙

Article 6. (1) Concerning the shares issued by the Zaibatsu companies, in case the exercise of their voting rights was entrusted in accordance with the provisions of Article VI, paragraph 2 of the Imperial Ordinance No. 567 of 1947 (including cases in which the provisions of Art. 17 of the same Ordinance is applied), or in case they were transferred according to Art. 10, paragraph 1 or paragraph 2 of the ordinance for the Holding Company Liquidation Commission, and persons who held, between September 1947 and the date of their transfer, positions of officials in any of the Zaibatsu companies which have issued such shares, and also, in the case of an enforcement of this Order, the positions of officials in any of the Zaibatsu companies or restricted companies designated as belonging to the same and same Zaibatsu or in any of their subsidiary, or connected companies defined as such at the date of the enforcement of this Order, shall, in case they intend to remain in their posts, file applications for approval in writing within thirty days after the enforcement of this Order, order in accordance with rules laid down by the Prime Minister.

(2) The provisions of paragraphs 2 to 4 of the preceding Article shall be applied correspondingly to those persons provided for in the preceding paragraph.

(3) In case the tenure of office of persons provided for in paragraph 1 above has never had as its purpose to represent the interests of the Zaibatsu or the same lineage or the Zaibatsu companies designated as belonging to the same Zaibatsu, approval shall be granted to such persons.

裏面白紙

Resides with the above, in case those persons provided for in paragraph 1 above satisfy all the items stated in the following, approval shall be granted for their application:

1. ~~Said~~ matters stated in items 1 and 4 of the paragraph 6 of the preceding article; and,
2. That the applicant has not come, during the period prescribed in the paragraph 1 above, to occupy the positions of officials in the Zaibatsu company which issued shares as prescribed in the paragraph 1 above, by being transferred from positions of officials in other company which controls said Zaibatsu company;
3. That, in order to assist positions of officials (in the case of the said-mentioned Zaibatsu officials, only the prime officials) in the Zaibatsu companies which issued shares as prescribed in the paragraph 1 above, there has never been any case in which previous approval of such assignment of officials by company which controls the said Zaibatsu company was required or such a sort of previous approval was never to be obtained with his assumption of office.

Article 7 (1) In case those officials who are entitled to repress the company may retire in accordance with Article 5 paragraph 1, Article 4 paragraph 1, Article 5 paragraph 1 or paragraph 1 of the preceding Article, the Prime Minister, upon application from the company or other interested party, may approve that any of those officials, who are to retire, to retain the position temporarily within limited term of six months from the date of enforcement of this Cabinet Order.

Resides

裏
面
白
紙

⑦ Besides with the case prescribed in the preceding paragraph, the Prime Minister, when he specifically deems it necessary, may take exceptional actions as to the number and term of officials who may ^{be} approved to retain the position according to the same paragraph.

⑧ With reference to the paragraph 1 above, necessary rules shall be laid down by the Prime Minister.

裏
面
白
紙

總理廳令案

第一條 昭和二十二年政令第

号

(財閥関係者の財閥会社の

役員就任禁止等に関する件以下令という。)第二條第一項の規
定により指定すべき^{指す}財閥の区分を別表第一の通り指定する。

第二條 令第二條第三項の規定により指定すべき財閥直系会社及
び財閥傍系会社を夫々別表第二及び別表第三の通り指定する。

第三條 令第三條第四項の規定により指定すべき制限会社を別表
第四の通り指定する。

第四條 令第四條第四項、第五條第一項、^{若しくは}第六條第^四項、^{若しくは}第六條第^四項、^{若しくは}第七條第一項若しくは第三項の規定によ

りその留任又は就任につき内閣総理大臣に承認を申請する者は
その申請者は^{若しくは}附属書類(証拠書類等)を添え、左の事項を記載
し申請者が、これに署名し印をおすことを必要とする。
一 申請者の氏名、生年月日、住所及び職業

外務省

裏面白紙

二 申請の理由
三 就任につき承認を求めようとする者においては、その就任の予定年月日
四 申請書作成の年月日
前項の申請書を提出する者は、審査の迅速を図るため、これに副本（附屬書類の写を含む以下同じ）三冊を添附しなければならぬ。
内閣総理大臣は前項の申請書を受取つたときは、そのうち副本二冊を直ちに財閥役員適否審査委員会に送付しなければならぬ。

第五條 令第七條第一項の規定により申請のあつた場合内閣總理大臣は財閥役員適否審査委員会の決定に基いて申請のあつた日より十五日以内^イにその処分をしなければならぬ。

第六條 令第七條第三項により特にその職に留まらせらるることのできるのは、國民經濟の復興上緊要なる産業部門として内閣總理大臣の告示するものに限る。

前項により告示された産業部門に属する会社については内閣總理大臣はその運営上、余人をもつて代えることが困難な者の留任を六カ月を超え期間を限つて許可^イすることができる。

第七條 令第四條第四項、第五條第一項、^イ第六條第一項、第六條第一項、^イ第七條第二項又は第七條第一項若しくは第三項の規定により提出された申請に対する内閣總理大臣の処分は、本人に対する通知でこれを行う。

前項の場合その留任又は就任を承認する場合には別記様式(

外務省

裏面白紙

の適格証明書を交付する。
第四條に規定する申請は適格証明書を有する者についてはその写一通をもつて、これに代えることができる。
第一項の場合その留任又は就任を承認しない場合には別記様式(二)の不適格通知書を交付する。
不適格通知書を交付せられた者は、新たに第四條に規定する申請を提出することができない。

外務省

裏面白紙

The Prime Minister's Office Ordinance
No. of 1947 (Draft).

3 October 1947

Article 1. Classification of the designated persons prescribed in Article 2, para. 1 of the Cabinet Order No. of 1947 (called the Order hereafter) is designated in the Appendix I hereto attached.

Article 2. The direct Zaibatsu affiliates and the quasi-direct Zaibatsu affiliates prescribed in Article 2, para. 3 of the Order are designated respectively in the Appendices II and III hereto attached.

Article 3. The restricted companies prescribed in Article 3, para. 4 of the Order are designated in the Appendix IV hereto attached.

Article 4. Any persons who apply, in accordance with the provisions of Article 4, para. 4, Article 5, para. 1 or 4, Article 6, para. 1 or 2, or Article 7, para. 1 or 3, for approval of their retention or assumption of the positions of officials shall prepare the letter of application which contains the following items, attached with the relevant documents, and put his signature and seal thereupon.

1. Name, date of birth, address and profession of the applicant.
2. Reasons for application.
3. In case of persons who apply for the approval of their new appointment, the scheduled date of the appointment.
4. Date of preparation of the letter of application.

with

221

裏
面
白
紙

With a view to expediting the examination of the case, the letter of application shall be attached with copies of the letter (including copies of the relevant documents) in triplicate.

Upon acceptance of the letter of application mentioned in the preceding paragraph, the Prime Minister shall forward immediately two copies thereof to the Zaibatsu Officials Screening Committee.

Article 5. Upon acceptance of the application submitted in accordance with the provisions of Article 7, para. 1 of the Order, the Prime Minister shall give decision either of approval or of disapproval, based upon the findings of the Committee, within fifteen days after the acceptance of the application.

裏
面
白
紙

Article 5. Special approval of residential premises as provided in Article 7, para. 3 of the Order shall be confined in the fields of industries designated by the Prime Minister as urgently necessary for rehabilitation of the national economy.

With respect to companies belonging to the fields of industries designated in accordance with the provisions of the preceding paragraph, the Prime Minister may grant approval for retention of persons whose suitable replacement is impossible to be obtained for the limited period exceeding six months.

Article 7. Decision of the Prime Minister on the applications submitted in accordance with Article 4, para. 4, Article 5, para. 1 or 4, Article 6, para. 1 or 2, or Article 7, para. 1 or 3 shall be effected by a notification to the subject person.

In the above case, if the approval is granted, the certificate of eligibility in the form No.1 attached hereto shall be issued.

The letter of application prescribed in Article 4 above may, when regard to persons was obtained the certificate, may be substituted with a copy of the certificate.

In the case prescribed in para. 1 above, if the application be disapproved, the notification of ineligibility in the form No.2 attached hereto shall be issued.

Any persons who obtained the notification shall hereafter be disqualified for filing the letter of application prescribed in Article 4 above.

第一條 この政令は、財閥の事業の形成維持に有力な寄與をした人的結合を切り離し、以て民主的で健全な経済の發達を促進することを目的とする。

第二條 この政令において財閥とは、この政令施行の日において現に持株會社、取締役會第一種第一号の指定による指定者の指定を受けている個人につき内閣府大臣が家族、姻族その他これに準ずる關係に基き指定する区分に従い、その同一区分に屬する者をいう。

この政令において財閥會社とは、昭和二十年九月二日において資本金額が千万圓を超える會社で或る財閥の直接又は間接に支配する出資の額面の合計額がその資本金額の半額を超えるもの、或る財閥の直接又は間接に支配する出資の額面の合計額が千万圓を超える會社その他財閥の事業の形成維持に有力な寄與をし又は財閥の経済的支配力の行使に有力な手段となつていたものとして

内閣府大臣が指定する法人その他團體をいう。

前項の財閥會社は、財閥直系會社又は財閥傍系會社とし、内閣府大臣がこれを指定する。

この政令において制限會社とは、昭和二十年勅令第六百五十七號（會社の解散の制限等）に關する勅令（第一條ノ二）に規定する指定會社をいう。

この政令において從屬會社及び關係會社とは、昭和二十一年勅令第五百六十七號（會社の證券保有制限等）に關する勅令（第一條）に規定する從屬會社及び關係會社をいう。

この政令において役員とは、取締役、業務執行社員、監査役その他顧問、相談役等名稱の如何にかかはらずこれらの職と同等以上の権限又は支配力を有する職に在る者をいう。

この政令において主要役員とは、取締役會の會長若しくは副會長、社長、副社長、専務取締役若しくは常務取締役、業務執行社

一 役員三役
二 役員一役
三 役員二役

三 役員三役
二 役員二役
一 役員一役

員又は常任監査役その他名稱の如何にかかわらずこれらの職と同
等の権限又は支配力を有する職に在る役員をいう。

第三條 財閥に屬する者が持株會社整理委員會第一條第一項の規
定による指定を受けた際現にその者と同一戸籍内に在つた者（以
下同籍者という。）で、この政令施行の際現に何れかの財閥につ
いて指定のあつた財閥會社若しくは制限會社又はこの政令施行の
際專任これらの會社の從屬會社若しくは關係會社となつてゐる會
社の役員に在るものは、この政令施行の日から三十一日目に
その職を失う。この場合において業務執行社員に在る者は、
業務執行権を有しない無限責任社員となるものとする。

同籍者は、この政令施行の日から十年間は、あつたに前項の會
社の役員に在ることを得ない。

商法第二百五十八條第一項（これを準用する場合を含む。）の
規定は、同籍者が解任又は任期の満了に因り前項の會社の役員に
職を退いた場合には、これを適用しない。

第四條 昭和二十年九月二日以前において財閥直系會社の役員に在る者又は財閥傍系會社の主要役員に在つた者は、この政令施行の際現に當該財閥に於いて指定のあつた財閥會社若しくは制限會社又はこの政令施行の際これらの會社の從屬會社若しくは關係會社となつてゐる會社の役員に在るときは、この政令施行の日から三十一日目に於いてその職を失う。
前條第一項後段及び第三項の規定は、前項の場合にこれを準用する。

第一項に規定する者は、この政令施行の日から十年間は、あらたに當該財閥に於いて指定のあつた財閥會社若しくは制限會社又はこの政令施行の際これらの會社の從屬會社若しくは關係會社となつてゐる會社の役員に在るときは、この政令施行の日から三十一日目に於いてその職を失う。

中
の
申
請
書
等
の
申
請
書
等
の
申
請
書
等

裏面白紙

員又は常任監査役その他名稱の如何にかかわらずこれらの職と同
等の権限又は支配力を有する職に在る役員をいう。

第三條 財閥に屬する者が持株會社整理委員會第一條第一項の規
定による指定を受けた際現にその者と同一戸籍内に在つた者（以
下同業者という。）で、この政令施行の際現に何れかの財閥に
つて指定のあつた財閥會社若しくは制限會社又はこの政令施行の
際現にこれらの會社の從屬會社若しくは關係會社となつてゐる會
社の役員に在るものは、この政令施行の日から三十一日目に
その職を失う。この場合において業務執行社員に在る者は、
業務執行職を有しない無限責任社員となるものとする。

第三條第二項の代り

同業者は、この政令施行の日
職に就き、又は同項の会社の役
員。

商法第二百五十八條第一項（これを準用する場合を含む。）の
規定は、同業者が解任又は任期の満了に因り前項の會社の役員に
職を退いた場合には、これを適用しない。

第四條 昭和二十年九月二日以前において財閥直系會社の役員に
又は財閥傍系會社の主要役員に在つた者は、この政令施行の
際現に當該財閥について指定のあつた財閥會社若しくは制限會社
又はこの政令施行の際これらの會社の從屬會社若しくは關係會社
となつてゐる會社の役員に在るときは、この政令施行の日か
ら三十一日目の日までにその職を失う。

前條第一項後段及び第三項の規定は、
中
の申請書
の申請書

第四條第三項の代り

第一項に規定する者は、この政令施行の日から十年間は、當該財
閥について指定のあつた財閥會社若しくは制限會社又は其の政令施
行の際これらの會社の從屬會社若しくは關係會社となつてゐる會社
の役員に就き又はこれらの會社の役員に屬する行爲をして
けならぬ。

裏面白紙

かつては、その職に就くことができない。

内閣総理大臣は、第一項に規定する者について、左の各號の一に該當する事由があると認められる場合には、その定めるところにより、本人の申請により財閥役員適否審査委員会の審査の結果に基いて、前三項の規定の適用を免除することができる。

一 昭和二十年九月二日以前において財閥直系會社の役員の際又は財閥係系會社の主要役員の際に在つた期間において、當該會社が當該財閥又は當該財閥について指定のあつた財閥會社の支配に属してゐなかつたこと。

二 前項に規定する職に在つた者が、當該財閥又は當該財閥について指定のあつた財閥會社の利益を代表することを目的としてゐなかつたこと。

第五條 昭和二十年九月二日以前において財閥係系會社の主要役員以外の役員の際に在つた者が、この政令施行の際當該財閥について指定のあつた財閥會社若しくは制限會社又はこの政令施行の際

これらの會社の從屬會社若しくは關係會社となつてゐる會社の役員の際に在る場合において引き継ぎその職に留まらうとするときは、この政令施行後三十日以内に内閣總理大臣の定めるところにより、書面を以てその承認を申請しなければならぬ。

前項に規定する者は、同項の規定による承認の申請をしないときは、この政令施行後三十一日目において、又、同項の規定による内閣總理大臣の不承認の処分を受けたときは、その処分の通知を受けた日から三十一日目においてその職を失ふ。

第一項に規定する者は、この政令施行の日から十年間は、あらたに當該財閥について指定のあつた財閥會社若しくは制限會社又はこの政令施行の際これらの會社の從屬會社若しくは關係會社となつてゐる會社の役員の際に就こうとするときは、内閣總理大臣の定めるところにより、書面を以てその承認を申請しなければならぬ。

内閣總理大臣は、第十項又は前項の規定による申請があつた場

裏面白紙

かつては、その職に就くことができない。

④ 内閣総理大臣は、第一項に規定する者について、左の各號の一に該當する事由があると認められる場合においては、その定めるところにより、本人の申請により財閥役員適否審査委員会の審査の結果に基いて、前三項の規定の適用を免除することができる。

一 昭和二十年九月二日以前において財閥直系會社の役員の際又は財閥係系會社の主要役員の際に在つた期間において、當該會社が當該財閥又は當該財閥について指定のあつた財閥會社の支配に属してゐたこと。

二 前項に規定する職に在りて、當該財閥又は當該財閥に對して指定のあつた財閥會社の利益を代表することを目的としてゐたこと。

第五條 昭和二十年九月二日以前において財閥係系會社の主要役員以外の役員の際に在つた者が、この政令施行の際當該財閥について指定のあつた財閥會社若しくは制限會社又はこの政令施行の際

これらの會社の從屬會社若しくは關係會社となつてゐる會社の役員の際に在る場合において引き続きその職に留まらうとするときは、この政令施行後三十日以内に内閣総理大臣の定めるところにより、書面を以てその承認を申請しなければならぬ。

前項に規定する者は、同項の規定による承認の申請をしないときは、この政令施行後三十一日以内において、又、同項の規定による内閣総理大臣の不承認の処分を受けたときは、その処分の通知

第五條第五項の代り

第一項に規定する者は、この政令施行の日から十年間は、内閣総理大臣の定めるところにより、その承認を受けなければ、當該財閥について指定のあつた財閥會社若しくは制限會社又はこの政令施行の際これらの會社の從屬會社若しくは關係會社となつてゐる會社の役員の際に就いてはならない。

前項の規定により同項の職に就くことの承認があつた場合を除く外、第一項に規定する者は、この政令施行の日から十年間は、前項の會社の役員の際に属する行為をしてはならない。

裏面白紙

合に於いては、財閥役員適合審査委員会の審査の結果に基いて、その承認に關する處分をしなければならぬ。

前項の場合において、第一項に規定する者について、前條第四項各號の一に該當する事由がある場合においては、その者の申請に對しては承認の處分をするものとする。

前項の場合を除く外、第一項に規定する者について、左の各號に掲げる事由がすべて備つているときは、その者の申請に對しては承認の處分をするものとする。

一 当該財閥又はその同籍者の配偶者又は親子兄弟姉妹若しくはこれらの者の配偶者でないこと。

二 昭和二十年九月二日以前における当該財閥傍系會社の主要役員以外の役員の在職が三年以内であること。

三 昭和二十年九月二日以前における当該財閥傍系會社の主要役員以外の役員の職を同時に四以上兼ねていなかったこと。

四 財閥の専業の形成維持に有力な寄與をした者でないこと

第六條 財閥會社の發行に係る株式について昭和二十年勅令第五百六十七號第四條第五項（同令第十七條において準用する場合を含む。）若しくは持株會社整理委員會令第十條第三項の規定による

議決權の行使の委任又は同條第一項若しくは第二項の規定による譲渡があつた場合において、昭和二十年九月三日以後最初に議決權の行使の委任又は譲渡がなされた日までの間においてその株式を發行した財閥會社の役員に在つた者が、この政令施行の際当該財閥について指定のあつた財閥會社若しくは制限會社又はこの政令施行の際これらの會社の從屬會社若しくは關係會社となつてゐる會社の役員に在る場合において引き続きその職に留まらうとするときは、この政令施行後三十日以内に内閣総理大臣の定めるところにより、書面を以てその承認を申請しなければならぬ。

裏面白紙

二 認
一 認
一 認

前條第二項乃至第四項の規定は、前項に規定する者についてこれを準用する。

第一項に規定する者について、同項に規定する在職が当該財閥又は当該財閥について指定のあつた財閥會社の利益を代表することを目的としていなかつたものであるときは、その者の申請に対しては承認の處分をするものとする。

前項の場合を除く外、第一項に規定する者について左の各職に擧げる事由がすべて備つていたときは、その者の申請に対しては承認の處分をするものとする。

一 前條第六項第一號に掲げる事由及び同項第四號に掲げる事由
二 第一項に規定する期間内に同項に規定する株式を發行した財閥會社の役員に、当該財閥會社を支配する他の會社の役員
の職から就じた者でないこと

三 第一項に規定する株式を發行した財閥會社の役員（財閥傍系

會社については主要役員に限る。）に就任するためにあらかじめ當該財閥會社を支配する他の會社の承認を必要とする旨の取極がなかつたか又は承認を受けていなかつたこと

第七條 第三條第一項、第四條第一項、第五條第一項又は前條第一項の規定により會社を代表する役員の一部がその職を去ることとなる場合において、會社代表利害關係人の申請があるときは、内閣總理大臣はその職を去ることとなる役員の中一人を選びこの政令施行の日から六箇月の期間を限りその職に留らせることができ

る。
前項の場合において内閣總理大臣が特に必要があると認めるときは、同項の規定によりその職に留まらせることのできる役員の内員数及び期間について特別の定をすることができ

第一項の場合において必要な事項は、命令でこれを定める。

第八條 合併に因り消滅した會社の資本金額が合併後存続する會社

裏面白紙

第六條第二項の代り

前條第二項乃至第五項の規定は、前項に規定する者についてこれを準用する。

とを目的としていなかつたものであるとして承認の處分をするものとする。

前項の場合を除く外、第一項に規定する者について左の各條に掲げる事由がすべて備つてゐるときは、その者の申請に基づいては承認の處分をするものとする。

- 一 前條第六項第一號に掲げる事由及び同項第四號に掲げる事由
- 二 第一項に規定する期間内に同項に規定する株式を發行した財閥會社の役員に、当該財閥會社を支配する他の會社の役員

の職から解じた者でないこと

三 第一項に規定する株式を發行した財閥會社の役員（財閥傍系

會社については主要役員に限る。）に就任するためにあらかじめ當該財閥會社を支配する他の會社の承認を必要とする旨の取極がなかつたか又は承認を受けていなかつたこと

第七條 第三條第一項、第四條第一項、第五條第一項又は前條第一項の規定により會社を代表する役員（役員）の全部がその職を去ることとなる場合において、會社又は利害關係人の申請があるときは、内閣總理大臣はその職を去ることとなる役員の中一人を選びこの政令施行の日から六箇月の期間を限りその職に留らせることができ

る。

前項の場合において内閣總理大臣が特に必要があると認めるときは、同項の規定によりその職に留まらせることができる役員（役員）の員數及び期間について特別の定をすることができる。

第八條 合併に因り消滅した會社の資本金額が合併後存続する會社

裏面白紙

第七條 第三條第一項、第四條第一項、第五條第一項又は前條

第一項の規定により、会社を代表する権限を有する役員が

全員がその職を去ることとなる場合において必要があるときは、当

該役員が過半数の同意を以て、その職を退くこととなる役員

のうち一人を選び、この政令施行の日から六箇月以内の期間を定

り、一時その職に留まることについて内閣総理大臣に対し、その

承認を申請することができる。

内 閣

前項の場合において当該申請に係る役員について、承認の

処分があつた場合においてはその者はその承認のあつた期間を以

てその職に留まることができるとし、又、不承認の処分があ

つた場合においては、その者は、その旨の通知があるまでの間、その

その職に留まるものとする。

第一項の場合において内閣総理大臣が特に必要があるとき

認めるときは前項の規定によりその職に留まることとする。

裏面白紙

員の員数は、六月の閉閣に於て特別に定めざることを
できらる。

前項に規定するものを除く外第一項の場合に於ては必ず
委員の員数は、六月の閉閣に於て特別に定めらる。

内
閣

第三條第一項、第四條第一項若しくは第三項、第五條第一項若しくは第三項又は第六條第一項、第三項若しくは第四項^(の会社)において、合併^(の会社)が昭和二十一年八月十一日以後合併に因り消滅し又はあつたに設立された会社若しくは増資した他の会社に対し、營業の全部若しくは一部を譲渡(出資を含む)して解散した場合において、合併後存続する会社若しくは合併に因り設立した会社又は營業の譲渡を受けた会社を含むものとする。

顧問、相談役、參與その他役員たることを疑わしめる名称を受けたる者は、第三條第二項、第四條第三項及び第五條第三項(第六條第二項において準用する場合を含む)の規定の適用については、これを会社の役員^(の職)に就いたものとみなす。

内閣

裏面白紙

第五條、第五條の項三、
 上項各款を
 留へて置
 かるべき事

若しくは合併に因り設立された会社の資本金額の半額を越える場
 合又は会社が出資してあるたに会社を設立した場合若しくは増資
 する他の会社に出資する場合においてその出資額が設立された會
 社の資本金額又は増資した会社の資本金額の半額を越え
 る場合において該合併後継承する会社若しくは合併により設立さ
 れた会社又はあるたに設立された会社若しくは増資した会社は、
 この法令の適用については、これを合併に因り消滅した会社又は
 増資を出資をした会社と同一の会社とみなす。

第九條 内閣府、大臣は、財団役員適否審査委員会の要求に應じ、
 關係者をして委員会に對して資料を提出させ又は事實を説明させ
 ることができる。

第十條 左の各號の一に該當する場合においては、その違反した者
 を三年以下の懲役又は一萬五千圓以下の罰金に處する。

附則

この法令は、公布の日から、これを施行する。

裏面白紙

若しくは合併に因り設立された会社の資本金額の半額を超えたる場
合又は会社が出資してあるたに会社を設立した場合若しくは増資
する他の会社に出資する場合においてその出資額が設立された會
社の資本金額又は増資した會社の増資後の資本金額の半額を超え
る場合において該合併を承認する会社若しくは合併により設立さ
れた会社又はあるたに設立された会社若しくは増資した会社は、
この政令の適用については、これを合併に因り消滅した会社又は
當該出資をした会社と同一の会社とみなす。

第九條 内閣府は、財閥役員適否審査委員会の要求に應じ、
關係者をして委員会に對して資料を提出させ又は事實を説明させ
ることが出来る。

第九條 第三條第二項、第四條第二項又は第五條第三項（第六條第

三項の規定により準用する場合を含む）に違反した者は、これ
を三年以下の懲役又は一万五千円以下の罰金に處する。

前項の罪を犯した者には、情狀により、懲役及び罰金を併科
することが出来る。

第一條 この政令は、財閥の事業の形成維持に有力な寄與をした
人的結合を切離し、以て民主的で健全な経済の発達を促
進することを目的とする。

第二條 この政令において財閥とは、この政令施行の日において現
に持株整理委員會命令第一條第一項の規定による指
定者の指定を受け持っている個人につき、内閣總理大臣が血
族、姻族その他これに準ずる關係に基き指定する区分
に従ひ、その同一区分に屬する者の群をいう。

第三條 この政令において財閥会社とは、昭和二十年九月二日に
おいて資本金額が千萬元を越える会社で或る財閥
の直接又は間接に支配する出資の額面の合計額
がその資本金額の半額を越えるもの、或る財閥の直

外務省

裏面白紙

接又は間接に支配する出資の額面の合計額が千萬元
を越える会社その他財閥の事業の形成維持に有力な
寄與をなし又は財閥の経済的支配力の行使に有力な手段
となつていたものとして内閣總理大臣が指定する法人その他
他団体をいう。

前項の財閥会社は、財閥直系会社又は財閥傍系會
社とし、内閣總理大臣がこれを指定する。

この政令において制限会社とは、昭和二十年勅令第六
百五十七號（会社の解散の制限等に関する勅令）第
一條ノニに規定する指定会社をいう。

この政令に於て従屬会社及び関係会社とは、昭和
二十一年勅令第五百六十七號（会社の認券力保有制限
等に関する勅令）第一條に規定する従屬会社及び

外務省

裏面白紙

関係会社をいう。

この政令におよそ役員とは、取締役、業務執行社長、
監査役その他顧問、相談役等名称の如何に拘束が
かわらば、三小りの取と同等以上の権限又は支配力を
有する取に在る者をいう。

この政令におよそ主要役員とは、取締役会の会長若し
は副会長、社長、副社長、専務取締役若しくは
常務取締役、業務執行社長又は兼任監査役その他
他名称の如何にかかわらば、三小りの取と同等以上の権限
又は支配力を有する取に在る役員をいう。

第三條 財団に属する者が持株會社救済委員会
令第一條第一項の規定による指定を受けた際現に
之の者と同一戸籍内に在つた者（以下同籍者とい

外務省

裏面白紙

う。で、この政令施りの際現に何れかの財團にこの財團
總理大臣の指定のあつた財團会社若しくは制限会社又
はこの政令施りの際現にこれらの財團会社の役員会社若
しくは関係会社となつてゐる会社の役員の取に在るもの
は、この政令施りの日から三十一日目にその取を失う。
この場合に於いて業務執行社員の取に在る者は、業務
執行権を有しないう無限責任社員となるものとする。
同籍者は、この政令施りの日から十年間は、前項の
会社の役員の取に就き、又は同項の会社の役員の取に
屬する行為をしてはならない。

商法第二百五十八條第一項（これを準用する場合を
含む。）の規定は、同籍者が辞任又は任期の満了に
因り第一項の会社の役員の取を退いた場合には、これを

外務省

裏面白紙

適用しない。

第四條 昭和二十年九月二日以前におよそ財閥直系会社の役員を取又は財閥傍系会社の主要役員を取に在る者は、この政令施行の際現に当該財閥に在りて指定のあった財閥会社若しくは制限会社又はこの政令施行の際二以上の会社の従業員会社若しくは関係会社となつてゐる会社の役員を取に在るときは、この政令施行の日から三十一日以内にその取を失う。

前條第一項後段及び第三項の規定は、前項の場合にこれを準用する。

第一項に規定する者は、この政令施行の日から十年間は、当該財閥に在りて指定のあった財閥会社若しくは制限会社又はこの政令施行の際二以上の会社の従業員

裏面白紙

屬会社若しくは関係会社となつてゐる会社の役員
の取組むべき又は二以上の会社の役員を取組むべき
行

外務省

裏面白紙

一、内閣總理大臣が第一項に規定する者について、左
 の各号の一に該当する事由があることを認める場合に
 おいては、その定めるところにより、本人の申請により
 財閥役員適否審査委員会が審査の結果に基
 いて、前三項の規定の適用を免除することができる。
 二、昭和二十年九月二日以前において財閥直系會社
 の役員職又は財閥傍系會社の主要役員職に
 在った期間において、當該會社が當該財閥に属する
 者又は當該財閥について指定のあった財閥會社の
 支配に属していたこと。
 三、前号に規定する職における職が、當該財閥又は
 當該財閥について指定のあった財閥會社の利益を代
 表することを目的としていたこと。

外務省

裏面白紙

如上條、昭和二十年九月二日以前において財閥傍系會社の
 主要役員以外ノ役員ノ職に在った者、この政令施行
 の際現に當該財閥に在りて内閣總理大臣ノ指定の
 或る財閥會社若しくは制限會社又はこの政令施行
 の際これらの會社の從屬會社若しくは關係會社と
 在りて居る會社の役員ノ職に在る場合に於て引き続き
 其の職に留まらざるときは、この政令施行後三十日
 以内以内閣總理大臣の定めるところにより、その承認を
 申請しなくてはならない。
承認の
 前項の規定する者は、同項の規定による申請をし
 ないときは、この政令施行後三十日目に於いて、又、同項
 の規定による内閣總理大臣の承認の処分を受けた
 とせば、その処分を通知を受けた日から三十日目に於

外務省

裏面白紙

てその職を失う。

第三條第三項の規定は前項の場合にこれを準用する。
第一項に規定する者は、この政令施行の日から十年間
は、以内閣総理大臣の定むるところに上り、或ら分じめた承認
を受けなければ、當該財閥について指定のある財閥
會社若しくは制限會社又はこの政令施行の際これら
の會社の從屬會社若しくは關係會社となつていて、會
社の役員に就いてはならない。
前項の規定により同項の職に就くことの承認があるた
場合を除く外、第一項に規定する者は、この政令施行の
日から十年間、前項の會社の役員に就いてはならない。
行爲をいふはならない。

以内閣総理大臣は、第一項又は前項の規定による

外務省

裏面白紙

申請があった場合においては、財閥役員適否審査委員
會の審査の結果に基づいて、その承認に因する処分を
なすべしとせらるる。

前項の場合において、第一項に規定する者に
係り、第四項各号の一に該當する事由がある場合にお
いては、その者の申請に対しては承認の処分をなすべしと
す。

前項の場合を除く外、第一項に規定する者に
係り、各号に掲げる事由がすべて備わっているときは、その
者の申請に対しては承認の処分をなすべしとする。

- 一、當該財閥に属する者又はその同籍者の配偶者
又は親子兄弟姉妹若しくはその者の配偶者
たること。

裏面白紙

〽

〽

二、昭和二十年九月二日以前に於ける當該財閥修系会社
の主要役員以外の役員が在職が三年以内であること。

三、昭和二十年九月二日以前に於ける當該財閥修系会社
の主要役員以外の役員が職と同時に四以上兼ねている
かたは、

四、財閥の事業の形成維持に有力な寄與をした者たるは、

中六條 財閥会社(合併)に係る株式については昭和二十年勅

令(中五)百六十七号(中四)條(中五)項(同令)中十七條に於いて準
用する場合を(中五)若しくは(中五)株会社(整理)役員(中)十

條(中)三項の規定による議決権の行使の委任又は同條
中一項若しくは(中)三項の規定による譲渡が(中)た場合(中)

中(中)昭和二十年九月三日以後最初に議決権(中)行使
委任又は譲渡(中)左、右(中)日(中)間(中)に於いて(中)株式(中)

附 録

裏面白紙

本行、左財閥会社の役員、職に在る者、この政令施行
 の際に當該財閥に對し内閣總理大臣の指定した
 財閥会社に對し別段会社又はこの政令施行の際
 の会社に從屬会社若しくは關係会社に在りし会社
 の役員、職に在る者、この政令施行の際に當る
 うにするときは、この政令施行後三十日以内
 内閣總理大臣の指定した財閥会社に對し、この政令
 施行の際に當る
 前條第二項乃至第三項の規定は、前項に規定す
 る者の場合に對し適用す。

第一項に規定する者、この政令施行の際に當
 該財閥に屬する者又は當該財閥に對し内閣總理
 大臣の指定した財閥会社の利益を代表する者

裏面白紙

目的として行なつたものがあるときは、その旨を申請に添付して承認し、處分をせよとする。

前項の場合を除く外、第一項に規定する者については左の各号に掲げる事由がすべて備はつてゐるときは、その者が申請に添付し、承認の處分をせよとする。

一、前條第六項第一号に掲げる事由及び同項第四号に掲げる事由

二、第一項に規定する期間内に同項に規定する株主と合併した財閥会社の役員に、當該財閥会社を支配する他の会社の役員に職を兼ねたる者がないこと

三、第一項に規定する株式を發行した財閥会社の役員（財閥係系会社にいはずは主要役員に限る）に就任したものにあらざれば當該財閥会社を支配する他の会社

外務省

裏面白紙

の承認を必要とする旨の取極がなかつたか又は承認
の承認を必要とする旨の取極がなかつたか又は承認

外務省

裏面白紙

第七條 第三條第一項、第四條第一項、第五條第一項又は前條第一項の規定により、會社を代表する権限を有する役員がその職を去ることとなる場合において必要があるときは、該役員が過半数の同意を以て、その職を退くこととなる役員のうち一人を選び、この政令施行の日から六箇月以内の期間を定め、一時その職に留まらせらるることについて内閣總理大臣に対し、その承認を申請することから、

第三項の場合において、当該申請に係る役員について、承認の処分があった場合においては、その者は、その承認があった期間、なおその職に留まることが出来るものとし、又、不承認の処分があった場合においては、その者は、その日の通知があるまでの間、なお、その職に留まらざるものとする。

第一項の場合において、第一項の他内閣總理大臣が特に

裏面白紙

必要があるとき認めるときは同項の規定によりその職に留まることのできる役員の数及び六箇月の期間について特別の定をすることが出来る。
前項に規定するものを除く外第一項の場合において必要な事項は命令で、これを定める。

第八條 第三條第一項、第四條第一項、若しくは第三項、第五條第一項、若しくは第三項又は第六條第一項、第三項、若しくは第四項の會社には、当該會社が昭和二十一年八月十一日以後合併に因り消滅し、又はあらたに設立された會社若しくは増資した他の會社に対し、營業の全部若しくは一部を譲渡（出資の會社）して解散した場合、若しくは合併後存続する會社、若しくは合併に因り

裏面白紙

設立した會社又は營業の譲渡を受けた會社を含むものとする。

顧問、相談役、參與その他役員たることを疑わしめる名稱を受けた者は、第三條第二項、第四條第三項及び第五條第三項（第六條第三項において準用する場合を含む。）の規定の適用については、これを會社の役員に就いたものとみなす。

第九條の内閣總理大臣は、財閥役員適否審査委員會の要求に応じ、関係者をして委員會に対して名義料を提出させ又は事實を説明させることができる。

第十條 第三條第二項、第四條第三項又は

外務省

裏面白紙

第五條第三項（第六條第三項の規定により準用する
場合を含む）に「透」及した者は、これを三年以下の懲役
又は一万五千円以下の罰金に処する。
前項の罪を犯した者には、情状により、懲役及び罰金
を併科することができる。

附 則

この政令は、公布の日から、これを施行する。

外
務
省

裏
面
白
紙

Cabinet Order No. of 1947 (Draft)

Removal and exclusion of persons representing the
Zaibatsu interests from the positions of officials in
companies connected with the Zaibatsus.

3 October 1947

I Article 1. The object of this Cabinet Order is to eradicate
personal ties which have served influentially for the formation and
maintenance of the Zaibatsu enterprises, to spread widely in
economic circles the persons who have been connected with the
Zaibatsus, and thereby to promote a sound development of the
Japanese economy on the democratic basis.

II Article 2. (1) The term "Zaibatsu" as used in this Cabinet Order
shall mean groups of individuals, who, while having been previously
designated as the "designated persons," in accordance with the pro-
visions of Article 1, para. 1 of the Holding Company Liquidation
Commission Ordinance, at the date of enforcement of this Cabinet
Order, belong to the same line of family as classified by the Prime
Minister according to relations between designated persons by blood,
marriage or other similar facts.

(2) The term "Zaibatsu company" as used in this Cabinet Order shall
mean juridical persons or other organizations designated by the
Prime Minister as being (a) companies whose capitalization on Sep-
tember 2, 1945, exceeded ¥10,000,000 and the majority of whose
stocks were controlled directly or indirectly by any one of the
Zaibatsus; (b) companies in which the face value of stocks control-
led directly or indirectly by any one of the Zaibatsus exceeded in
total ¥10,000,000; and (c) others which have substantially contri-

Signed

裏
面
白
紙

dated for the formation or maintenance of Zaibatsu enterprises or which have served as influential agencies through which the Zaibatsu exercised its economic controlling influence.

③ Zaibatsu companies as prescribed in the preceding paragraph shall be classified into direct Zaibatsu affiliates and quasi-direct Zaibatsu affiliates. The classification shall be defined by the Prime Minister.

④ The term "restricted companies" as used in this Cabinet Order shall mean designated companies prescribed in Article 1-2 of the Imperial Ordinance No. 657 of 1945.

⑤ The term "subsidiary companies and the connected companies" as used in this Cabinet Order shall mean the subsidiary and connected companies as provided for in Article 1 of the Imperial Ordinance No. 567 of 1946 (The Imperial Ordinance relating to restrictions etc. on holding of securities by companies.)

⑥ The term "official" as used in this Cabinet Order shall mean persons who hold position of director (TORISHIJARI YAKU) staff member with executive responsibility (GYOMU SHIKKO SHAYE), auditor (KANSAYAKU), or other persons who hold any other positions such as advisor (KOMOH) or counsellor (SODAN YAKU) which, regardless of their titles, exercise authority or influence commensurate with or surpassing those of any of the positions specified above.

⑦ The term "principal official" as used in this Cabinet Order shall mean officials who hold positions of chairman of the Board of Directors (TORISHIJARI YAKU KAICHO), vice-chairman (FUKU KAICHO), president (SHACHO), vice-president (FUKU SHACHO), managing director (SEIJI TORISHIJARI YAKU) or standing director (JONIN TORISHIJARI YAKU),

staff member with executive responsibility (GYOMU SHINKO SHAIN), or standing auditor (JOKIN KAKSA YAKU), or who hold positions which, regardless of their titles, exercise authority or influence commensurate with or surpassing those of any of the positions specified above.

Article 371 Any persons who were in the same family census register (hereinafter called the person entered in the same family register) on the day that the persons belonging to the Zaibatsu were designated in accordance with Article 1, para. 1 of the Holding Company Liquidation Commission Ordinance who hold, at present, any position of officials in the Zaibatsu companies or restricted companies designated at present by the Prime Minister, or of officials in their subsidiary or connected companies which have been defined as such at the time of the enforcement of this Cabinet ^{order} shall forfeit their positions on the thirty first day from the day of enforcement of this Cabinet Order. In this case those in the position of executive staff members shall become staff members of unlimited liability without executive power.

② Any persons entered in the same family register shall be excluded hereafter from the positions of officials of the aforementioned companies or from conducting any activities which belong to the competence authorized only for officials for ten years from the day of enforcement of this Cabinet Order.

③ The provisions of Article 258, paragraph 1 of the Commercial ^{Code} Law (including cases to which the present provisions be applicable correspondingly) shall not be applied to any case in which persons entered in the same family register have retired from the positions

or officials of the said companies due to their resignation or expiration of their term of office.

Article 4. (1) Any persons who, prior to 2 September 1945, held any of the position of officials in any of the direct Zaibatsu affiliates or any of positions of principal officials in any of the quasi-direct Zaibatsu affiliates, who, at the time of the enforcement of this Cabinet Order, held any position of officials in any of the Zaibatsu companies, or restricted companies designated as belonging to the one and same Zaibatsu, or in any of their subsidiary or connected companies, which have been defined as such on the date of the enforcement of this Cabinet Order, shall forfeit their positions on the thirty-first day from the date of the enforcement of this Cabinet Order.

裏
面
白
紙

In the case of serious cases as provided in the preceding paragraph, the provisions of the latter part of the paragraph 1 and of the preceding part of the preceding Article shall be applied correspondingly.

Any persons prescribed in the paragraph 1 above shall, for the period of the enforcement of this Cabinet Order, be excluded altogether from any of the positions of officials in the Zaibatsu company or restricted companies mentioned in the preceding paragraph and of their subsidiaries or connected companies which have been defined as such in the preceding paragraph of this Cabinet Order or from any activities which belong to the category authorized only for officials.

When a person to whom is prescribed in the paragraph 1 above, the Prime Minister may, in case of doubt that there is no reason to order any one of the following items, except, in accordance with the intention left over by the Prime Minister, such person, at his request, free the application of the provisions of the preceding three paragraphs, based upon the result of investigations conducted by the Zaibatsu Officials Screening Committee:

1. That the direct Zaibatsu affiliate or its quasi-affiliate Zaibatsu affiliate were he served, prior to 29 September 1945, as official or principal official, had not during the period when he served, subject to the control of the Zaibatsu, of the one or some license or any Zaibatsu company designated as described in the said Zaibatsu.

裏面白紙

2. That the course of office as officials of the subject person has never had as its purpose to represent the interests of person belonging to the Zaibatsu of the one and same lineage or any Zaibatsu concern designated as belonging to the same Zaibatsu.

Article 5. (1) Any persons who held, prior to 2 September 1949, any position of officials, other than principal officials, in any of the quasi-direct Zaibatsu affiliates who hold, at the time of the enforcement of this Cabinet Order, any of the positions of officials in any of the Zaibatsu companies or restricted companies designated as belonging to the one and same Zaibatsu or in any of their subsidiary or connected companies defined as such at the time of the enforcement of this Cabinet Order, shall, in case they intend to remain in their posts continuously, file an application for approval in accordance with rules laid down by the Prime Minister, within thirty days from the date of the enforcement of this Cabinet Order.

(2) In case any persons as mentioned in the preceding paragraph do not apply for approval as provided for in the said paragraph, or in case their applications be disapproved by the Prime Minister as mentioned in the said paragraph, they shall forfeit, respectively, their positions on the thirty-first day from the day of the enforcement of this Cabinet Order in the former case, and on the thirty-first day after the receipt of the notice of disapproval in the latter.

(3) The provisions of the Article 3, para. 3 shall be applied correspondingly.

裏
面
白
紙

correspondingly, with the case of the preceding paragraph.

④ Any persons mentioned in paragraph 1 above shall within ten years from the date of the enforcement of this Cabinet Order be distinguished from assassins, any positions of officials in a Zaitetsu company or restricted company, designated as below, in, to the one and same Zaitetsu, or in any of its subsidiaries, or connected company defined as such at the date of the enforcement of this Cabinet Order, unless they obtain previous approval of the Prime Minister in accordance with rules laid down by him.

⑤ No persons prescribed in the para. 1 above shall, unless they have obtained approval for assassins, positions of officials in accordance with the provisions of the preceding paragraph, conduct activities which belong to the competence authorized only for officials, for ten years from the date of the enforcement of this Cabinet Order.

⑥ The Prime Minister, upon receipt of the application as mentioned in paragraph 1 of the preceding paragraph, shall, based upon results of investigation of the Zaitetsu Official Screening Committee, take action either of approval or of disapproval of such application.

⑦ In the above case, in case any persons as mentioned in paragraph 1 above, fall under any one of the items of paragraph 4 of the preceding Article, the Prime Minister shall approve the application of such persons.

⑧ Besides with the above case, applications shall be approved in case the subject persons satisfy all of the following items:

1. That the applicant is not a spouse, parent, child, brother or sister of persons belonging to the Zaibatsu or persons entered in the same family register or his or her spouse; and,
2. That the applicant had not held, prior to 2 September 1945, the position of officials other than principal officials in the quasi-direct Zaibatsu affiliates for the term exceeding three years; and,
3. That the applicant had not, prior to 2 September, 1945, held concurrently four or more positions ~~or more positions~~ of officials other than principal officials in the quasi-direct Zaibatsu companies; and,
4. That the applicant had not taken any active part in the formation and maintenance of the enterprises of the Zaibatsu.

Article 6 (1) with respect to the shares issued by the Zaibatsu companies, in case the exercise of their voting rights was entrusted in accordance with the provisions of Article IV, paragraph 5 of the Imperial Ordinance No. 167 of 1945 (including cases in which the provisions of Art. 17 of the same Ordinance is applied) or of Article 10, para. 3 of the Holding Company Liquidation Commission Ordinance, or in case they were transferred according to Article 10, para. 1 or 2 of the Holding Company Liquidation Commission Ordinance, any persons who held, between 2 September 1945 and the day when the first trustin, or transfer took place, any positions of officials in any of the Zaibatsu

companies

25

裏
面
白
紙

companies which have issued such shares, and hold, as the date of the enforcement of this Cabinet Order, any of positions of officials of any of the Zaibatsu companies or restricted companies designated as belonging to the so-called major Zaibatsu or in any of their subsidiary or connected companies defined as such at the date of the enforcement of this Cabinet Order, shall, in case they intend to remain in their posts, file applications for approval within three days after the enforcement of this Cabinet Order in accordance with rules laid down by the Prime Minister.

② The provisions of paragraph 2 of the preceding Article shall be applied correspondingly to those persons provided for in the preceding paragraph.

③ In case the source of office of persons provided for in paragraph 1 above has never had as its purpose to represent the interests of persons belonging to the Zaibatsu of the same lineage or the Zaibatsu companies designated as belonging to the same Zaibatsu, approval shall be granted to such persons.

④ With the above, in case those persons provided for in paragraph 1 above satisfy all of the following items, approval shall be granted for their applications.

1. Matters stated in items 1 and 4 of the paragraph 8 of the preceding Article; and,
2. That the applicant did not come, during the period prescribed in the paragraph 1 above, to occupy the positions of officials

裏
面
白
紙

in the above company which is to remain prescribed
in the paragraph 1 above to be in the same positions
of officials in their case of such controls and Zetor Ltd
company, and,

3. In fact, in order to fill the positions of officials in the case
of the quasi-direct Zetor Ltd. affiliates, only their prin-
cipal officials, in the Zetor Ltd. companies which issued warrants
prescribed in the paragraph 1 above, there has never been
arrangement with the company which controls the said Zetor Ltd.
company that previous approval of such assumption of offices
was required or even a sort of previous approval has never
actually been obtained with his assumption of office.

VI Article 2. In case such officials are entitled to
representation, cases are to refer to accordance with Article 3,
paragraph 1, Article 4, paragraph 1, Article 5, paragraph 1 or
paragraph 1 of the ordinance which is substituted, based
upon agreement of majority of such officials, as an officer with
the Prime Minister, regarding case of such officials selected
from among themselves to approve or retain his position temporarily,
within six months from the date of the enforcement of the Council's
order.

(2) In the above case, the officials whose retention was requested,
in case approved is granted, may retain his post during the above
period and, in case disapproved, may resign his position under
such a disapproval is notified.

(3) Besides with the case prescribed in the paragraph 1 above,

裏
面
白
紙

the Prime Minister, and he may officiate if necessary, subject to such exceptions and rules as to the nature and restrictions of officials may be approved to obtain the position according to the same paragraph.

(4) With reference to the paragraph above, necessary rules not prescribed in the preceding paragraph shall be laid down by the Order.

VII

Article 2. (1) Company prescribed in Article 3, para. 1, Article 4, para. 1 or para. 3, Article 5, para. 1 or para. 3 or Article 6, para. 1, para. 3 or para. 4 shall include (a) in case the company, after 11 August 1946, has got out of existence through liquidation, the company which continues to exist after the liquidation or the company which was established through reorganization, and (b) in case the company transferred (including investment) whole or a part of its business to another company which was established or increased its capitalization after 11 August 1946 and dissolved itself, the company which received the whole or a part of the business.

(2) Any persons, who accepted the title such as advisor, counsellor, participator (Sachō) or others which may be taken as substantially commensurate with the status of officials, shall, so far as application of the provisions of Article 3, para. 2, Article 4, para. 3 and Article 5, para. 3 (lastling cases where the above provisions be applied correspondingly to Article 6, para. 2) are concerned, be regarded as having assumed the position of officials.

Article 2.

裏面白紙

IX. Article 9. The Prime Minister, at the request of the
Zelinski officials Screening Committee, may cause persons con-
cerned to present material or to give explanation of facts to
the Committee.

X. Article 10. Any persons who violated the provisions of
Article 5, para. 2, Article 4, para. 2 or Article 9, para. 3
(including cases where above provisions be applied correspond-
ingly as Article 6, para. 3) shall be subject to the penal
servitude not exceeding three years or the fine not exceeding
1,000 roubles.

② Any persons who have committed the above may be subjected
to concurrent imposition of the penal servitude and fine.

Supplementary Rule

The present Cabinet Order shall come into force as from the
day of its promulgation.

裏
面
白
紙

大日本帝國政府

才者... び... ね... び...
 び... び... び... び...
 び... び... び... び...
 び... び... び... び...
 び... び... び... び...
 び... び... び... び...
 び... び... び... び...
 び... び... び... び...
 び... び... び... び...
 び... び... び... び...
 び... び... び... び...
 び... び... び... び...

後之部

裏面白紙

府 政 本 日 /

石炭関係	北海道炭鉱汽船	三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井
		三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井
		三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井
		三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井
		三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井
		三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井
		三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井
		三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井
		三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井
		三井	三井	三井	三井	三井	三井	三井

裏面白紙

背紙一號

日 本 政 府 2

鉄鋼関係	三井工業	三菱鉛業	三菱製鋼	三菱重工業	扶桑金工業	日本建設産業	安田興業	日本鉛業	昭和電工	大建産業	日本製鋼所
	(三井系)	(三菱系)	(三菱系)	(三菱系)	(作友系)	()	(安田系)	(日産系)	(昭和電工系)	(大建系)	(三井系)
	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	B

裏面白紙

罫紙一覽

日本政府 3

<p>松電</p>	<p>日本鋼管</p>	<p>日本鋼管</p>	<p>小倉製鋼</p>	<p>住友製鋼</p>	<p>日本アイエフ製造</p>	<p>東北電気製鉄</p>	<p>釜石鉱山</p>
<p>住友</p>	<p>"</p>	<p>"</p>	<p>住友</p>	<p>住友</p>	<p>住友</p>	<p>住友</p>	<p>三井</p>
<p>(B)</p>	<p>(B)</p>	<p>(B)</p>	<p>(B)</p>	<p>(B)</p>	<p>(B)</p>	<p>(B)</p>	<p>(B)</p>

紙一號

裏面白紙

夕 日 本 政 府

肥料関係

三井化学工業

三井化学工業

三菱化成工業

日新化学工業

日産化学工業

昭和電工

電気化学工業

東亜合成化学工業

東亜合成化学工業

別府化学工業

日本カバイト工業

日本銅管

(三井)

(三井)

(三井)

(住友)

(住友)

(日産)

(日産)

(昭和)

(三井)

(三井)

(住友)

(住友)

(A)

(A)

(A)

(A)

(A)

(A)

(A)

(B)

(B)

(B)

(B)

(B)

洋紙一覽

裏面白紙

府 政 本 目

吳 羽 化 學 工 業

(大 建 房)

第 一 號

裏 面 白 紙

昭和十一年三月

当社廿一年三月、東京共同深磁器製造株式会社
 設立、水島、板橋子製造の会社である。一九三二年、在磁
 器の仲介に依り、当社、ベニヤ、新橋、と、旭硝子
 が、協賛し、板橋子の会社が、多分、始りである。(在磁は
 同深磁器の社長) 中平例の、^{東共同}新橋、出資する
 戦多、^甲新橋、旭硝子は、当社と、^{新橋}協賛する、^{中平例}利益は
 当社、旭硝子、と、又、在磁、而、^{新橋}新橋、^{中平例}中平例、^{利益}利益は
 水島、新橋、と、又、^{新橋}新橋、^{中平例}中平例、^{利益}利益は
 要之、当社の三業は、^{新橋}新橋、^{中平例}中平例、^{利益}利益は
 必ず、新橋、と、又、^{新橋}新橋、^{中平例}中平例、^{利益}利益は

裏面白紙

大陸化第三葉

一、四月十五日、三月、翌年、金一千万円、
 三月、四月、南支那、
 二、四月、
 三、四月、
 四、四月、
 五、四月、
 六、四月、
 七、四月、
 八、四月、
 九、四月、
 十、四月、
 十一、四月、
 十二、四月、
 十三、四月、
 十四、四月、
 十五、四月、
 十六、四月、
 十七、四月、
 十八、四月、
 十九、四月、
 二十、四月、
 二十一、四月、
 二十二、四月、
 二十三、四月、
 二十四、四月、
 二十五、四月、
 二十六、四月、
 二十七、四月、
 二十八、四月、
 二十九、四月、
 三十、四月、

内閣

一、四月、
 二、四月、
 三、四月、
 四、四月、
 五、四月、
 六、四月、
 七、四月、
 八、四月、
 九、四月、
 十、四月、
 十一、四月、
 十二、四月、
 十三、四月、
 十四、四月、
 十五、四月、
 十六、四月、
 十七、四月、
 十八、四月、
 十九、四月、
 二十、四月、
 二十一、四月、
 二十二、四月、
 二十三、四月、
 二十四、四月、
 二十五、四月、
 二十六、四月、
 二十七、四月、
 二十八、四月、
 二十九、四月、
 三十、四月、

B4 (標準規格 B4 (寸理行野))

一、四月、
 二、四月、
 三、四月、
 四、四月、
 五、四月、
 六、四月、
 七、四月、
 八、四月、
 九、四月、
 十、四月、
 十一、四月、
 十二、四月、
 十三、四月、
 十四、四月、
 十五、四月、
 十六、四月、
 十七、四月、
 十八、四月、
 十九、四月、
 二十、四月、
 二十一、四月、
 二十二、四月、
 二十三、四月、
 二十四、四月、
 二十五、四月、
 二十六、四月、
 二十七、四月、
 二十八、四月、
 二十九、四月、
 三十、四月、

裏面白紙

日 本 政 府

東北電業製鉄株式會社

本會社の株主は東北興業會社、持株率四〇%及び電業代時工業

(持株率六〇%)である。東北興業會社は東北地方の産業振興を

圖るため昭和十一年五月、政府が設立した特殊な國策會社であ

り。(昭和十一年五月二十七日
法律第十一号)その運営は政府の直接監督の下に行は

るのである。財閥系は皆無である。

東北興業會社は東北電業製鉄會社の設立に際し、電業代時子

工業の技術的援助を求めたのであり、その經營の安否は

は完全な東北興業會社の把握に委ねられ、國家の利益を目的として

經營するに當るものがある。派遣役員は東北興業五人に對し、

電業代時工業三人がある。見るべきところは明瞭である。

尚電業代時工業に付ても見ると三井系の持株率は僅か一%に

過ぎず、三井財閥との関係は強いていっては無い。

野 紙 一 號

裏 面 白 紙

日 本 政 府

以上の点より見て東北電業株式会社を三井系の会社な
りとするに付適當なものと結論を得る

野 紙 一 號

東北振興アルミ株式会社

本會社の株式は東北興業株式会社及昭和電工株式会社が
各々各々所を所有してゐる。

東北興業株式会社の性格は前述の通りである之に対し、昭和電
工株式會社は單に技術を提供し、之に依り東北振興アルミ會
社の經營には参與しなかつた。

従つて本會社を昭和電工業の會社と断定するに付適當
な留ではなりと結論に到達し得る。

裏 面 白 紙

日 本 帝 國 政 府

3

三興龍華船廠

本會社は昭和十九年五月上海に於て設立せられたが、
 日本法人として登記の必要上、出資された儲備金全額
 を公認シートで月に換算した結果、公認シートは一月間
 としつゝある。但し、公認の儲備金の實際価値は、公認の
 シートより遙かに低くあるため、實際には公認の規模は
 非常に小さい。且つ設立後程なく総額を上げたので、
 強いて事業をすすむに至らず、大建廠に着手する處は、
 全くなかつた。

裏面白紙

日本國政府

野村證券株式會社は野村財閥の典型的な仔會社であるかのよりに置かれてゐるが事實はそうではない。即ち野村財閥自体が日本の財閥の中では極めて低い地位にあり、それが日本經濟に及ぼした影響力は他に比べれば問題にならない程微弱であつたのみならず、野村證券株式會社の野村財閥に對する關係も甚だ薄いものであつた。その關係の重役の中常勤役員はすべて社員からの出身者であり、主即を兼ねるにすぎない。野村合名よりの派遣重役はすべて非常勤であつた。更に昭和二十一年八月十一日現在におけるその借入金及びコールマネー勘定を見るに、總額二千万圓の中野村關係の金融機關からは全然融資を受けて居らず、借入有償證券勘定においても總額四千四百萬圓の中僅かに三百萬圓即ち總額の七分が野村銀行からの借入金であつたにすぎない。即ち人的關係においても事業的關係においても野村財閥との關係が甚だ薄かつたことを知るに足るのである。

(東京 388)

裏面白紙

揚州ノ一六

本社、揚州、長年、調査研究、結果、地産地消

1936年5月、揚州、揚州、揚州

地産地消、共同調査、下、設立、揚州、揚州

地産地消、技術、揚州、揚州、揚州

地産地消、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

揚州、揚州、揚州、揚州

MORNING

- 8 -

Her Majesty further declared that she attended the Silk Fair now being held at the Shirokiya Department Store and she said it was a good idea to open a fair like that.

Asked whether he is cultivating rice, His Majesty smilingly replied, "I plant and harvest rice myself to understand what a farmer's life and difficulty is like."

Replying to the question whether his diet is composed of foodstuff other than rice, His Majesty declared, "I am having noodle, dumpling and potatoes. I like noodle and bread and I have it frequently." His Majesty added that his bread was made of low extraction flour.

Her Majesty told reporters that she was saving her old cloths so that they could be made into clothes for her children. She added clothing material was getting scarce and everybody should

南洋北成工業

一、一九四三年十二月 貿易額一億九千万円（抑込） 三億・万円）にて倍々、 三・五・七
貿易及び物産後 夫々 1/4

二、原料の甚低の所 貿易額は全部 貿易より 借入金より 出資より 水より
未だ原料の乏しき勢力は 織物と仰ぐ

三、現在中一 支那の勢力ありしは 取締り協会 及び別荘（何れも 貿易系）
不純なは 三義例 兼任なりし 一回も 現地へ 来りし 事なし

四、職名も 三義例 ありは 技術者 十名 名と 派遣し 多くの 地は 凡そ 貿易系
及び現地 協同 会 あり

五、要するに 南洋 三義例 は 原料に 乏し 技術は 協同 会 と あり 下 地 産
面 及び 貿易 額は 貿易 系 の 寄与 あり 所 あり

従って 社は 三義系 と あり 貿易 系（日産系）と あり 故 あり

時事通信

★ HOME NEWS SERVICE ★

JIJIPRESS, Ltd.

大正十五年十月廿日第三種郵便物認可 印刷製版發行社 田中社 東京市麹町區比叡公園二番 時事通信社

MORNING EDITION

Tuesday, September 23, 1947

I N D E X

License granted for establishment of eight new tourist companies.	1
Four major parties agree on political party bill.	3
Delay in Home Ministry dissolution seen.	5

.....

1. 協榮系 15 也加系列

協洲精煉系(同) 3 本位14.081株数個 14.2

2. 協栄系 200,000 株也 100,000

協栄系(同) 協栄系 14.3 本位 14.081株数個 2

協栄系 ~~14.3~~ (内 本位 10%)
49.99%

協栄系 { 協栄系 24.9%
協栄系 2.5%

協栄系 16 名 内 協栄系 3 人 協栄系
(本位 14.081株数個 14.3 本位以下)

3. 協洲精煉系 株也 14,500 ^{4.19}

協栄系 49.7%

協栄系 49.7%

協栄系 15 名 内 協栄系 10
(本位 14.081株数個 14.3)

15 (会長 1, 第 1, 第 2, 第 1)

協洲精煉系(同) 協栄系 14.3 本位 14.081株数個 2

協栄系 14.3 本位 14.081株数個 2

45, 11.30 協栄系

Morning

- 1 -

GUBERNATORIAL CONFAB TO
BE ADVANCED TO JUNE 10

JIJI PRESS

TOKYO, June 5.--The Government will change its original plan for the first post-election gubernatorial conference and hold it around June 10, instead of June 20, it was learned today.

Under the original plan the first conference of publicly elected prefectural governors was scheduled to take place immediately before the reopening of the Diet session, set for June 23.

The contemplated change of the original plan, advancing the date of the gubernatorial conference by some ten days, it was understood, is due to the fact that the Ministry of Agriculture and Forestry will call all prefectural governors for conference here around June 10 to discuss plans for collection of wheat and barley crop quotas.

The Home Ministry is now in favor of holding the scheduled gubernatorial conference simultaneously with the meeting of prefectural governors called by the Agriculture and Forestry Ministry, it was said.

揚州大運化學 60万株
30,000 910 柳 7,000 93

三峯化成 20%

(10%化成)

○ 31年及 32年 2 1100

60万株中

揚州昆房公社 18,000

10%油路 70-

10%化成 70-

4%路 50-

2% 50-

2% 50-

directs that the Bank of Japan open a Custody Account for the Supreme Commander for the Allied Powers in which will be credited such monies as may be directed. The Bank of Japan is further directed to keep such records and to furnish such statements in connection with this account as may be required by General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers.

3. You will immediately notify all branches in Japan of the Bank of Japan to accept such deposits of Japanese currency, checks, drafts, and other negotiable instruments as may be tendered by any agency, unit, or representative of the occupation forces or any mission, commission, or delegation accredited to the General Headquarters of the Supreme Commander for the Allied Powers at the head office of the Bank of Japan in Tokyo. A receipt will be furnished to the representative making the deposit.

4. When credit for any deposit is given in the account the Supreme Commander will be immediately informed. This information will include the amount, the date, the depositor, location of the branch in which the deposit was made and any other pertinent information which may have been submitted with the deposit.

5. You will also submit to the Supreme Commander for the Allied Powers a monthly statement of the account showing, in appropriate detail, all debits and credits to it. This statement will be submitted in an original and four copies.

在外子業(19)世 (Cincher... 1934. 2. 1)

100,000 27 34 132 14 年 26. 1937 11 月 14 日

三井

昭和十一年 11月 27日

○ 大隆化學工業 2 萬 1000 圓 (11) 萬 2000
1000 圓 10% 10% 10% 10% (1000 圓)
3700 圓 13.5%

三井 昭和十一年 11月 27日

昭和十一年 11月 27日

昭和十一年 11月 27日

10,000 圓 (1000 圓) 0.18, 12.13% 昭和十一年 11月 27日
昭和十一年 11月 27日 昭和十一年 11月 27日
昭和十一年 11月 27日 昭和十一年 11月 27日
昭和十一年 11月 27日 昭和十一年 11月 27日

三井

昭和十一年 11月 27日

✓ 昭和十一年 11月 27日 14,000 圓 49.7%
昭和十一年 11月 27日 48.7%

昭和十一年 11月 27日 昭和十一年 11月 27日
昭和十一年 11月 27日 昭和十一年 11月 27日

昭和十一年 11月 27日 30,000 圓 100% 1934 年 2 月

昭和十一年 11月 27日 昭和十一年 11月 27日

時事通信

★ HOME NEWS SERVICE ★

JII PRESS, Ltd.

大正十五年十月廿日第三號郵便物認可 編輯印刷兼發行人藤田增三 東京市麹町區西比谷公園二番 時事通信社

* MORNING EDITION *
* MONDAY *
* June 2, 1947 *

三三



持株會社整理委員會
東京都港区西船場二丁目一番地

持株會社整理委員會

本報告ハ添附資料ニヨツテ明ラカテ通り大部分ハ尚
不完全ナモテアツテ單ナル傳聞ニ基イタモノガヨクイ、

故ニ本委員會ハ此等ノ氏名ノ通知ガ如何ナル意味ニ
セヨ指定ノ推薦ト見ラレル様ナコトノナイヤウニコレハ寧ロ
指名サレタ人タニツイテ一層ノ調査審議ヲ要請スルモ
ノデアルト云フコトヲ了解サレシコトヲ希望スル。

此等ノ氏名ニ付テノ考察及ビソノ調査ニ当ツテハ次ノ事
實ト方針ニ留意セネバナラナイ。

裏面白紙

東京府町田市内町二丁目一番地
持株會社整理委員會

(1) 此等ハ總ベテソノ企業支配力ノ莫ニ於テ既指定
十賤閥ニ比シ著シク劣ソテヤル。

(2) 万一此等ノ者中何シカが指定サレトモ彼等ハ
ソノ支配力ノ規模並ニ富ニ於テ既指定ノ十賤閥
比シ著シク小サイカラソノ取扱ニツイテモ或程度ノ
差等ヲ設ケル方が妥當ト思ハレル。

(3) 又彼等個人ヲ指定スルヨリモ寧ロ彼等ノ關係ニテ
ナル企業ヲ制限会社又ハ持株会社トシテ指定ス
ル方がヨリ適當デアリ又目的ヲ果シ得ルニテヤカト云

裏面白紙

東京府内町深田町二丁目一番地

持株會社整理委員會

ヲ莫ラ研究スル必要ガアル

(地方在住ノ家族ヲ監督スルニトハ仲々困難ナ
ルコトヲ考慮シナケレバナラズ)

裏面白紙

十財閥企業資本調

283

十財閥企業資本調 (單位百万円)

財閥名	資本金額			借入金 (千下制限会社)	合計	備考
	千下制限会社	千下制限会社	計			
三井	(3,164) 2,954	863	3,817	(7,245) 19,652	11,469	
岩崎	(2,767) 2,236	624	2,860	(3,110) 8,329	11,189	
住友	(1,822) 1,485	550	2,035	(3,715) 6,271	8,306	
安田	(1,128) 486	74	560	(3,106) 3,156	3,716	
三井	(1,216) 1,060	230	1,290	912	2,202	他=満業系 7,445
中島	(277) 259	16	275	2,453	2,728	
浅野	(474) 426	185	611	813	1,424	
古河	(247) 190	482	672	368	1,040	日軽富士電機 富士通信機 横浜コ 田社分 513
大倉	(376) 286	152	438	398	836	中央工業 河洲製鉄 =社分 302
野村	(195) 173	53	226	(241) 639	863	野村銀行(預金 3,170 4/30日(貸出 2,342
計	(11,666) 7,555	3,229	12,784	(17,417) 33,991	46,775	

註 (1) 資本金額欄 内書分、公稱資本金
 (2) 借入金額欄 内書分、同系銀行、日銀借入金

めく
れず

裏
面
白
紙

41

284

(單位 千円)

順位	氏名	金額	順位	氏名	金額	順位	氏名	金額
1	大 丞	774.958	12	石 丞	427.337	23	安 川	51.500
2	片 倉	667.836	13	岸 本	396.465	24	服 部	34.000
3	川 西	618.633	14	松 下	317.738	25	伊 藤 次	32.430
4	森	600.408	15	川 南	254.168	26	山 口 誠	30.621
5	伊 藤 忠	594.698	16	岩 井	236.813	27	川 崎 八	15.812
6	豊 田	578.700	17	岡 崎	114.843	28	山 口 吉	10.000
7	中 部	517.058	18	小 倉	116.875			
8	井 村	513.960	19	根 津	115.000		成 野 (5百 圓)	
9	鈴 木	464.968	20	板 谷	88.693			
10	山 下	459.818	21	武 田	58.200			
11	寺 田	431.420	22	辰 馬	56.000			

裏面白紙

九月十九日附 日本企業経済新聞

地方財閥の解体具體化

同族持株會社を一掃

十六社追加指定上申さる

同族持株會社を指定し、その持株者及びその親戚を調査する。指定された同族持株會社は、その持株者のうち、指定された同族持株會社の持株者及びその親戚の持株を、指定された同族持株會社の持株者及びその親戚の持株に制限する。指定された同族持株會社は、その持株者のうち、指定された同族持株會社の持株者及びその親戚の持株を、指定された同族持株會社の持株者及びその親戚の持株に制限する。

一、(株)東洋炭礦	二、(株)東洋炭礦	三、(株)東洋炭礦	四、(株)東洋炭礦	五、(株)東洋炭礦	六、(株)東洋炭礦	七、(株)東洋炭礦	八、(株)東洋炭礦	九、(株)東洋炭礦	十、(株)東洋炭礦	十一、(株)東洋炭礦	十二、(株)東洋炭礦	十三、(株)東洋炭礦	十四、(株)東洋炭礦	十五、(株)東洋炭礦	十六、(株)東洋炭礦
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

山 北 伊

一、ロレレ、張小成意是、暴一、暴は更後、日分ラト、ハ

猶繼成之、可之、同語改、同、ナ、分、分、フ、ド、レ、ト、移、意、ト、起、分、

七、六、世、可、時、同、出、然、ハ、意、ラ、三、ナ、ナ、意、更、ハ、ナ、ナ、ナ、ナ、三、意、光、ナ、ナ、ナ、リ、ト、

三、九、降、下、八、日、也、今、何、備、

四、取、打、事、を、ナ、ナ、七、件、ハ、名、名、以、第、一、名、收、リ、見、ル、ハ、如、多、ク、記、種、ト、

五、取、予、逆、以、三、毛、指、為、小、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、ナ、

六、活、有、ナ、ハ、ナ、ナ、ナ、レ、ト、ニ、ル、

昭和二十二年政令第 号

財閥役員適否審査委員会官制

第一条 昭和二十二年政令第 号(以下令という)の實施

に要する事項を審査するため財閥役員適否審査
委員会(以下委員会という)を置く。

委員会には内閣總理大臣の所轄として東條に置か

る。委員会は左に掲げた事項に關する審査を行う。

一、令中四條、四條、五條、五條一項若しくは中四項又は中六條

一項、六條一項若しくは二項の規定により提訴された留任又は

解任の申請に對し。

二、令中七條一項又は中三項の規定により提訴された留

任若しくは解任の申請に對し。

第三条 委員会はその審査の權限に属するものを審

外務省

裏面白紙

本条

査しりて経過を意見を附して内閣總理大臣に報告し

たければよい。

和四條 内閣總理大臣は前條の規定による審査の報告

を受理し、その結果を衆議院に報告し、申請の撤回又

は即ち下院設置を、且、関係書類を公衆の閲覧に

供することができることにならなければならない。

和五條 委員会は委員九人以上以下を組織する。

特別の事項を調査し審議するに必要があるときは、

臨時委員を置くことができる。但し委員会の決定に犯わ

ることがない。

和六條 委員長は委員にありて互選する。

委員長の臨時委員は内閣にありてこれを命ずる。

和七條 委員会には委員長及び委員を併せて七人以上

の内閣にありて互選する。委員長の臨時委員は内閣にありてこれを命ずる。委員会は委員七人以上を併せて組織する。

外務省 二條 行政大臣の職務は、その職務の遂行に必要とする限り、内閣の決定により、二條の職務を

裏面白紙

の出席が在ければ會議を閉くことなす。
 委員會議の議事は出席委員の過半数を以てこれを
 決す。
 可否同数の場合は委員長が決すこととする。
 中六條 委員長、委員及び顧問委員は各委員會議の審査
 に關してはこれを外部に漏らし得ず。
 中九條 委員會議に事務局を置く。
 事務局は委員會議の庶務を整理す。
 中十條 審査の手續その他委員會議の事務は別に規定
 する。
 附 則
 この政令は公布の日から起してこれを施行する。

外務省

裏面白紙

總理廳令案

第一條 昭和二十二年政令第

号(財閥關係者の財閥会社の

役員就任禁止等に關する件以下令という。)第二條第五項の規
定により指定すべき同族の区分を別表第一の通り指定する。

第二條 令第二條第七項の規定により指定すべき財閥直系会社及
び財閥傍系会社を夫々別表第二及び別表第三の通り指定する。

第三條 令第三條第一項の規定により指定すべき制限会社を別表
第四の通り指定する。

第四條 令第四條第四項、第五條第一項、同條第三項、第六條第
一項、同條第二項又は第七條第一項若しくは第二項の規定によ

りその留任又は就任につき内閣總理大臣に承認を申請する者は
その申請書(申請書類(証拠書類等)を添え、左の事項を記載
し申請者が、これに署名し印をおすことを必要とする。)
一 申請者の氏名、生年月日、住所及び職業

外務省

裏面白紙

△
 二、(前項)にシテ
 丁、(前項)にシテ
 三、(前項)にシテ
 四、(前項)にシテ
 五、(前項)にシテ
 六、(前項)にシテ

一、申請の理由
 二、就任の年月日
 三、前項の申請書を作成の年月日
 四、申請書を作成の年月日
 五、前項の申請書を作成の年月日
 六、前項の申請書を作成の年月日

△
 外務省

裏面白紙

第五條 令第七條第一項の規定により申請のあつた場合内閣總理大臣は財閥役員適否審査委員会の決定に基いて申請のあつた日より十五日以内はその処分をしなければならぬ。

第六條 令第七條第三項により特種その職に留まらせることのできるものは、國民經濟の復興上緊要なる産業部門として内閣總理大臣の告示するものに限る。

前項により告示された産業部門に属する会社については内閣總理大臣はその運営上、余人をもつて代えることが困難な者の留任を六カ月を超え期間を限つて許可することができる。

第七條 令第四條第四項、第五條第一項、~~第六條~~第三項、第六條第一項、~~同條~~第二項又は第七條第一項若しくは第三項の規定により提出された申請に対する内閣總理大臣の処分は、本人に対する通知でこれを行う。

前項の場合その留任又は就任を承認する場合には別記様式(一)

外務省

裏面白紙

の適格証明書を交付する。
 第四條に規定する申請は適格証明書を有する者についてはその写一通をもつて、これに代えることができる。
 第一項の場合その留任又は就任を承認しない場合には別記様式(二)の不適格通知書を交付する。
 不適格通知書を交付せられた者は、新たに第四條に規定する申請を提出することができない。

附則

此の命令は公布の日より之を施行する。

外務省

裏面白紙

府政國本日

○三井 高公	○岩崎 隆祚	○淺野 善五郎
高長	岩崎 恒祚	安田 善五郎
高次	孝子	新
高陽	淑子	順子
高修	勝太郎	武夫
高遠	康祚	孝一郎
高周	隼祚	彦太郎
高篤	八郎總	良吉
高相	○桂反 五左衛門	善八郎
高孟	元夫	長三
高光	○(輝) 義	八郎
○岩崎 久祚	寛一	義夫
忠雄	○安田 日	○大倉 喜七郎
彦祚太	楠雄	条馬

別表三

(續定規條(三三三三三))

裏面白紙

府政國本目

大倉彦一郎	野村文英	中島知久平	喜代一	阿吉	乙未平	忠平	古河從純	中山末吉	點川義介
喜雄	喜二	康三	元五郎						

（国立国会図書館蔵）

裏面白紙

才閣役員の財閥関係会社からの排除に関する件

日時 十月十日 (金曜日)

場所 会館

倉談者 キャムベル氏

都村課長、須之部事務官

本日午後三時キャムベル氏からの要請により往訪し

たところ左の通り

外務省

裏面白紙

一 本措置は政令に代らず法律の形に定めることと G.S

の意見は一致した従つてその準備をされたい

二 財閥直系會社と財閥準直系會社との區

分の基準を法律中に入られたい。

三 本法にもとづき提出される各種の申請につきそ

れぞれの審査の多寡をリミットを作るように

されたい。

外務省

裏面白紙

四、旧案には政令と委員層官制とが別に存つ
 ところか法律系では同じものうちに包括せられ
 たい。

五、訴願（再審査）の規定を法律系に入れられ
 たい。

六、特別に留任を許可するものは、國民經濟の復
 興に余人以上の代（難い者に限ると云ふ規定
 外務省

裏面白紙

は法律集中に入らしたい

七、四大財閥と他の財閥との取扱ひを区分する

は、何れかの措置を考慮して法律集中に入ら

せらいたい。

本案に関するE.S.S.の意見に関しては明十日(土曜)

にウエールと討議することとなつてゐる為未だ先

方も意向は明らかでないがE.S.S.では本案に一応

外務省

裏面白紙

田舎議があること述べて置、^{在り}擇する時、本日は先方
 かり当方案の綱目につき、若干の質問があり又
 在記の如き要望があつただけが、^{案の細目につき}内容的に深く
 討議は行はなかつた。

外務省

裏面白紙

本財関係員の財関係係會社からの排除に関する件

日時 十月十一日 (土曜日)

場所 G.S

會談者 ヤマハ氏

都村課長、須之部事務官

本日朝、ヤマハ氏と討議した結果を聞くべく、一時、ヤマハ氏を待たせ、左の

外務省

裏面白紙

角リ

法律系は足^{十三日}月曜中に提あされるようにされた

公認では財閥會社歴史基準中公認を金〇〇万円と云

ふ基準が低いと云ふ意向を述べたが、自分

としては財閥會社歴史基準の^(c)中もあること

あるから財閥直系會社と財閥傍系會社との

外務省

裏面白紙

區分基準を法律中に入れればそれでいい。E.S.は

満足することと思ふ。

E.S.では本措置は SCAPIN の七九にもとづく

approximates を排除すべき旨述べてあるのに、

本案は財閥會社の役員を一律に取扱ふことと

なつて居り、その尖を適当な尖があるかと思

はれる。従つて approximates の提議を法律

外務省

裏面白紙

条中に入水もつと細かに財閥會社役員中眞
に *apparently* たる者のみ本条の對象とするか
うに取針うは水たい。

四、おの作日誌したことはあるが右條申請の審査

の多量、リミット、四大財閥と他の六財閥との取

扱ひを思はすること、及再審査の基準規程を本

法解
条中に入水することは然るべく實施して欲しいと

外務省

裏面白紙

述べたおた其處での方より準備してゐた財閥

會社をA・B・Cの三つに區分し六財閥の關係

會社は主としてCに區分する及^{（案）}再審査の

予^{（案）}統系を提議したところ、これは何れも我々の

討議の基礎となるから^{（案）}本系中に入れて欲しい

と述べ^{（案）}る方より^{（案）}本系の対象を十財

閥に限る^{（案）}SCAPIN. 七九の趣旨から見

こといついは

外務省

裏面白紙

E.S.S.の報告

この報告がなからうと思はれるを述べたところ

別紙に述べたこと

物議はなされ、本条の對象と

なる後、固たりし期間につきE.S.S.の意見

を確かめたところ、何等先方では説がなかつた

と答へておた。

以上を要するに本条は十月四日(土曜日)執行者の

ハツレーが帰来する前に完了すべく努力し

外務省

裏面白紙

たにも拘はらず、E.S.S.からの回答がない趣にて、慶延
 を重ぬ、^{（E.S.S.からあるが昨日）} E.S.S.には日本系市
 に対し、^{（E.S.S.より）} 相多強硬な
 意見が述べられるかと豫想してゐるところ、案外
 E.S.S.にて本系に強い関心を有せざるものらしく、先
 者、財閥の範囲は重要、役員の期間は日本
 系^{（十）}の通りにて、財閥會社の範囲は若干増加する

外務省

裏面白紙

かも知れぬがその段の範圍は純然と *opposite*
 と見做されるものに限るべく ^{その意味} 寧ろ日本系か
 りせはめられるものと思はれる。Sには本系には
 最早や特に意見なきこととて、見送しとしては
 概ね日本系の通り實施されるものと豫想され
 る。

外務省

裏面白紙

Re: Appeal

1. The following persons, in case they deem that an error exists with facts based upon which their cases were decided, may file the application for review of their cases with the Prime Minister.

a. Persons who, while applied for exemption of the provisions of the Ordinance in accordance with Article 4, para. 4 (including Article 5, para. 7 and Article 6, para. 3), were not approved for their applications.

b. Persons who, while applied for authorization for their retention or assumption of offices in conformity with the provisions of Article 5, para. 1 or para. 4, Article 5, para. 1, Article 6, para. 1, were not approved.

c. Persons whose applications for retention were submitted in accordance with Article 7, para. 1 or para. 3 who were, nevertheless, disapproved.

2. Upon acceptance of applications for review, the Prime Minister will forward them immediately to the Zaibatsu Officials Qualifications Appeal Board.

3. The Appeal Board, after investigation of the application for review, will decide whether or not the cases were well-grounded and submit its findings to the Prime Minister.

4. The Prime Minister, based upon the findings of the Appeal Board, will reject the application or return the case to the Zaibatsu Officials Screening Committee.

5. The Screening Committee will give its final findings on case returned to the Committee within fifteen days. Members of the Appeal Board will be allowed to attend at the Screening Committee and to vote for the final decision.

裏
面
白
紙

